

作官ノ出張調停方陳情アリシヲ以テ、小作官ハ町當局ト打合ヲ爲シタルニ、町長ハ小作官ノ調停ヲ好マズトノ事ナレバ小作官ハ其ノ儘引上ゲタリ。其ノ後町當局及第三者ニヨリ數回ニ亘リ調停ヲ重ネタルモ爭議ハ益々惡化スルノミニシテ解決ノ曙光見エズトテ再三小作官ノ調停方陳情アリシニヨリ、當事者ヲ一堂ニ集メテ調停ヲ試ミタルモ、小作人側ハ上正ヶ峰部落ハ元ハ百戸位アリテ一區ヲナシ居タリシガ、昭和二年區政ニ對スル不滿者出デ其ノ者等ハ同志ヲ糾合シテ上正ヶ峰區ヨリ脱退シテ新ニ中正ヶ峰區ヲ形成シタルヲ以テ、此等ニ對シテハ止ムナク從來積立テ來リシ青年團及婦人會費等ノ分配ヲ餘儀ナクセシメタルニヨリ、殘存部落民約六十餘戸ハ斯ノ如ク脱退者出ヅルニ於テハ區ノ統制ヲ缺クハ勿論、其ノ度毎ニ積立金ヲ分配スルニ於テハ面白カラザルモノアリトテ之ヲ防止シ、併テ區ノ隆盛ヲ圖ルニハ拘束アル規約ヲ設クベキナリトテ萩原某自ラ發案起草シテ規約作成シタルニヨリ積立金ハ分配セズ、而モ中正ヶ峰區民中ニ管理シ居ル青年團積立金モ直ニ上正ヶ峰區ニ持參セヨト。又地主側ハ猥リニ脱退シタルモノニアラズ役場ノ承諾ヲ得テ分區シタルモノナレバ上正ヶ峰區民中ニ管理シ居ル婦人會積立金竝ニ公會堂、警鐘等ヲ分配スレバ青年團ノ積立金モ直ニ分配スベシトテ兩者共々暴言ヲ吐キ調停容易ナラズ。結局小作人等ヨリ小作調停ノ申立ヲ爲シ、二回ニ亘リ委員會ヲ開キ調停シタルモ解決ノ見込ナカリシヲ以テ、小作官ハ委員會散會後小作人等ヲ支援スル元農民組合支部長ト折衝シタルトコロ、積立金及公會堂等ハ其ノ儘トスルコトトシテ小作官ノ意見ニ從フコトトナリ、第三回委員會ニ於テ調停成立セリ。

(四) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方萩原某ハ
 - 1 申立人大重某ニ對シ贈啖郡財部町下財部字竝松添^{一、六七五}_{一、六七六} 一、畑二反七畝二歩ノ内一反歩位ヲ
 - 2 申立人宮田某ニ對シ同所番一、畑二反七畝二歩ノ内一反七畝歩位ヲ
 - 各之迄通り小作セシムルコト
 - 二 相手方伊集院某ハ申立人宮田某ニ對シ贈啖郡財部町下財部字觀音元一、六〇九 一、畑二反七畝七歩ヲ、申立人槐島某ニ對シ同郡同町所一本松一、三八六 一、畑三反六畝二十九歩ヲ、申立人瀬戸口某ニ對シ同郡同所釋迦田一、一六八 一、田一反八畝十四歩ヲ各之迄通り小作セシムルコト
 - 三 相手方松下某ハ申立人宮田某ニ對シ同郡同所下新穂一、五二九 一、田四反二畝五歩ヲ、申立人槐島某ニ對シ同郡同所釋迦田一、一四七 一、田二反二畝三歩ヲ各之迄通り小作セシムルコト
 - 四 申立人原口某ハ相手方伊集院某ヨリ小作シ居レル同郡同所釋迦田一、一七八 一、一七九 一、一八〇 一、田三反五畝二十二歩ノ内一反歩位ヲ直チニ返還スルコト相手方松下某ハ其ノ所有ノ贈啖郡同所元三田一、〇五四 一、田三畝二十三歩ヲ昭和九年度稻作終了後以降申立人原口某ニ對シ小作料畝當玄米一斗五升支拂期毎年度分ヲ翌年一月末日迄ノ約ニテ小作セシムルコト相手方伊集院某ハ其ノ所有ノ模合田ナル同郡同町北俣字流合五九ノ一 一、田一反四畝二十一歩ヲ模合滿了後直チニ申立人原口某ニ小作セシメ申立人原口某ハ之ト同時ニ之迄相手方伊集院某ヨリ小作シ居レル同

- 郡同町下財部字唐尾一、一九一 一、田六畝十一歩ヲ相手方ニ返還スルコト
- 五 相手方ハ申立人等ニ對シ正當ノ事由ナキ限り申立人等ノ小作地ニ付返還請求ヲ爲ササルコト
- 六 相手方等ハ右各小作地ニ付賣買其ノ他處分ノ必要アル場合ハ豫メ申立人等ニ其ノ旨通知シタル上處分スルコト

第二 小作調停事例

一 北海道虻田郡洞爺村 (小作地買受要求)

爭議發生 昭和九年四月十八日

調停申立 同 年五月四日

解決 同 年六月十四日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 七人 利害關係人 三人

調停 同 右(小作人申立)

爭議 田 五町五畝步

畑 十八町四反步 計 百五十九町八反七畝十一步

其他 百三十六町四反二畝步

調停 同 右

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ元小作人込山某ノ父ノ所有ナリシモ本件土地ヲ抵當トシテ北海道拓殖銀行ヨリ多額ノ金融ヲ受ケ居リシ爲其ノ償還ニ苦シミ今ヨリ十八年前相手方タル拓殖銀行ニ引渡シ爾來小作人等ハ賃借耕作シ來リタルモノナリ。願ルニ本件小作人等ハ長キハ四十四年前ヨリ、短キモ十八年間本件地ヲ耕作シ居リ元未開ノ土地ナリシヲ開墾シタルモノナル爲小作人等ハ自作農タラント切望シ地主ニ對シ昭和二年七月賣却方交渉シタル處賣買價格ニ於テ兩者一致スルニ至ラズ其ノ儘ニナシ置キタル處、本年三月地主ハ突如利害關係人小林某ニ金一萬五千圓ニテ賣買契約シ中五千圓ヲ手付金トシテ即納シ殘一

萬圓ハ本件土地ヲ抵當トシ地主ヨリ借受年賦償還スルコトニ契約成立シタル爲、小作人等ハ此ノ機會ニ從來ノ念願タル自作農タラントシ利害關係人ニ賣却セルト同一條件ヲ以テ賣却ヲ受ケントシテ調停申立ニ及ビタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

五月二十日午前九時ヨリ洞爺村役場ニ於テ關係者一同出席ノ上第一回調停委員會ヲ開キタルガ地主側ハ強硬ニシテ小作人ノ要求ニ容易ニ應ゼズ妥協ヲ見ルニ至ラズ延期スルニ至レリ。而シテ第二回調停委員會ヲ六月八日同役場ニ於テ開キ前回ニ引續キ委員會ハ地主側ニ對シ轉賣承認ヲ求ムベク努力シタル結果漸ク之ヲ承認スルニ至リ、左ノ條項ヲ以テ圓滿協調ヲ遂ゲタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 (イ) 相手方株式會社北海道拓殖銀行ハ其ノ所有ノ虻田郡洞爺村字財田百六十二番地水田五町五畝、畑十八町四反、原野及山林百三十六町四反二畝十一歩此ノ筆數十七筆總反別百五十九町八反七畝十一歩ノ土地ニ付昭和九年三月二十三日利害關係人小林某トノ間ニ爲シタル賣買契約ハ右當事者合意ノ上本日解除スルコト
- (ロ) 右契約解除ニ依リ相手方銀行ハ利害關係人小林某ヨリ受領セル右賣買契約保證金五千圓也(賣買代金ノ一部へ充當セラルベキモノ)ヲ昭和九年六月二十五日迄ニ之ヲ返還スルコト但シ右金員ニ對シテハ利息ノ支拂ヲ爲サザルコト

二 (イ) 相手方株式會社北海道拓殖銀行ハ其ノ所有ノ前第一項表示ノ土地全部ヲ代金一萬五千圓也ヲ以テ申立人七人ニ本日賣渡スコト

(ロ) 申立人七人ハ相手方銀行ニ對シ右代金ノ内金五千圓也ヲ昭和九年六月二十日迄ニ支拂ヒ殘金一萬圓也ハ相手方銀行ガ本件土地ヲ擔保トシテ右金員ヲ貸付シ其ノ借入金ヲ以テ支拂フコト此ノ年賦償還期間ハ十五年トスルコト

(ハ) 利害關係人大西某ハ申立人等ガ相手方銀行ヨリ借入ルル右金一萬圓也ノ債務ニ對シ連帶債務ヲ負擔スルコト

三 申立人等ハ利害關係人小林某ニ對シ金一千圓也ヲ昭和九年六月二十日迄ニ支拂フコト但シ其ノ支拂方法ハ申立人等ヨリ相手方銀行へ送金シ相手方銀行ハ更ニ右金ヲ利害關係人小林某へ支拂フコト

四 (イ) 相手方株式會社北海道拓殖銀行ハ利害關係人大西某ニ對シ金二百圓也ヲ前第二項(イ)ノ所有權移轉登記結了ト同時ニ支拂フコト

(ロ) 利害關係人大西某ハ右受取リタル金二百圓也ハ受領ト同時ニ全額ヲ利害關係人小林某へ支拂フコト

五 申立人各自ノ本件買入土地ノ耕地分配、耕作土地割ニヨル負擔債務額及其ノ辨濟方法ハ總テ利害關係人大西某ガ本件各調停委員ノ意見ヲ徵シテ定メタル方針ニ從ヒ之ニ對シ異議ヲ述べザルコト但シ申立人各自ノ耕地ハ從前耕作シ來レル土地ヲ基礎トシテ定ムルコト

六 申立人等ニ於テ本件土地ヲ他日第三者ニ賣渡ス時ハ先ヅ利害關係人小林某ニ對シ三ヶ月間ノ期間ヲ定メテ買取方ノ交渉ヲ爲スコト此ノ場合ノ賣買代金ハ當事者間ニ於テ協定スルコト

七 申立人等ニ於テ前第一項(ロ)ノ代金ノ内金五千圓也及第三項ノ金一千圓也合計金六千圓也ヲ約定期間迄ニ相手方銀行ヘ送金セザルトキハ申立人相手方間ノ右賣買契約ヲ解除セラレ相手方ガ本件土地ヲ利害關係人小林某ヘ賣渡スコトアルモ之ニ對シ異議ナキコト

二 北海道札幌郡白石村 (小作地買受要求)

爭議發生 昭和九年十月八日
 調停申立 同 年十月八日
 解 決 同 年十月二十四日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十二人 利害關係人 一人
 調停 同 右(小作人申立)

關係土地 爭議 田 二十八町五反一畝一步五合
 調停 同 右

(一) 爭議ノ概況

札幌郡白石村小作人大宮某外十一名ハ古キハ明治三十年以來新キモ五年以前ヨリ地主東京市中野區五十嵐某ヨリ本件小作地水田二十八町五反一畝餘歩ヲ借り受ケ小作シ來レル處地主ハ昭和九年九月十二日日本件土地ヲ札幌市大島某ニ金三萬三千七百圓ニテ賣却シ手金四千圓ヲ受領セルコトヲ聞知シ小作

人等ハ非常ニ驚キ地主五十嵐ノ代人札幌在住川崎某ニ對シ手金相當額即四千圓ノ損害金ヲ小作人等ヨリ提供スルコトヲ條件トシテ大島トノ間ノ曩ノ賣買契約ノ解消ヲ求メタルニ大體應諾シタレドモ土地買受人タル大島某ハ手金倍戻ニヨル金四千圓ノ利得ヲ以テ満足セズ小作人等ノ要求ニ應ゼザル處ヨリ十月六日小作人等ヨリ五十嵐及大島ヲ相手方トシ

一 地主五十嵐ハ本件土地ヲ大島ニ賣却シタル三萬三千七百圓ノ價格ニテ小作人等ニ賣却スルコト

二 裁判所ハ調停法第二十五條ニ基キ地主五十嵐ニ對シ本件土地ノ賣買登記ヲ差止ム様假處分命令ヲ發スルコト

ノ調停ヲ求ムルタメ調停申立ニ及ビタリ。

(二) 調停ノ經過

十月八日裁判所ハ小作官ノ慫慂ニヨリ申立人タル小作人等ノ代理人辯護士、地主五十嵐某ノ代人川崎某及新買受人大島某ヲ召喚シ爭議ノ大體ノ經過ヲ明カニシ小作官ノ意見ニ基キ別紙決定書ノ通り地主五十嵐ニ對シ本件土地ノ所有權移轉登記手續ヲ一時中止セシメ、次デ十月二十三日土地所在地タル白石村役場ニ於テ調停委員會ヲ開キ調停ニ努ムル處アリシモ成立ヲ見ルニ至ラザリシガ、同月二十一日小作人等ト五十嵐某トノ間ニ於テ左ノ條件ヲ以テ圓滿協調ヲ遂ゲ調停申立ノ取下申請アリタリ。

(三) 結 末

一 地主五十嵐ハ本件小作地ヲ小作人等ニ賣却スルコト

二 五十嵐對大島間ノ土地賣買契約解除ニヨル賠償問題ハ別ニ協定解決スルコトノ條件ニテ落着シ同月二十七日土地所有權ハ小作人等名儀ニ移轉登記ヲ了シタリ。而シテ五十嵐、大島間ノ問題ハ現ニ訴訟ニ於テ繫争中ナリ。

備考 法第二十五條ヲ適用シテ裁判所ノ爲シタル決定文左ノ如シ

決定

札幌郡白石村大字白石

申立人 大宮某外十一人

右代人辯護士 木田某

東京市 中野區

相手方 五十嵐某

右當事者間ノ昭和九年小調第四六號小作地買取等小作調停事件ニツキ小作調停法第二十五條ニ基キ當裁判所ハ必要ト認ムル措置ヲ爲スコト左ノ如シ。

主文

相手方ハ別紙目錄記載ノ土地ニ付札幌市苗穂町大島某ニ對シ本件調停手續ノ終了ニ至ル迄所有權移轉登記手續ヲ爲スベカラズ

昭和九年十月八日

札幌地方裁判所民事部

裁判長 判事 何某
判事 何某
判事 何某

三 青森縣南津輕郡藏館村大字長峰

(地上權確認)

爭議發生 昭和九年四月

調停申立 昭和九年八月四日

解決 同年八月十七日

關係人員 爭議 地主 二人 小作人 八人

調停 右ニ同シ(小作人申立)

關係土地 爭議 原野(蘋果園)二町七反八畝二十二步
調停 右ニ同シ

(一) 爭議ノ概況

藏館村大字長峰部落有地原野百四十五町七反九畝四步ハ村長管理ノ下ニ部落民ニ對シ地上權設定ノ形ニテ蘋果園トシテ貸付來リタルモノナル處本件關係土地ニ就テハ大正三年同村三浦某ナル者村長ニ對シ三十五ヶ年ノ期限ニテ地上權契約ヲ爲シ登記ノ上蘋果園ヲ經營シ後大正八年之ヲ同村工藤某ニ讓渡シ同人又同年之ヲ本件相手方板垣某(A)ニ讓渡シ登記ヲ了シタルモノナル處右板垣ハ同年又之ヲ同村内山某ニ讓渡セルモ移轉登記ハ之ヲ爲サザリシトコロ大正十三年ニ至リ右内山ハ之ヲ同村三浦某

外三名ニ讓渡シ次デ右三浦某外三名ヨリ本件申立人原子某外七名ニ讓渡サレ右本件申立人等ハ本件土地ノ地上權登記名義ガ上記板垣某ニアル事ニ就テハ何等念頭ニ置カズ完全ニ自分等ニ於テ地上權ヲ取得シタルモノト思念シ村長ニ對シテハ改メテ本件土地ノ地上權契約(登記ニ至ラズ)ヲ爲シ爾來反當一圓三十錢ノ使用料ヲ納入シ何等ノ懸念不安ナク苹果園ヲ經營耕作シ來リタル處昭和九年四月中突然本件相手方一人タル板垣某(B)ヨリ申立人等ニ對シ本件土地地上權ハ地上權者板垣某(A)ニ對シ金七百五十圓ノ債權アリ辨濟ヲ得ザルヲ以テ裁判所ニ依リ強制競賣ヲ爲シ之ヲ四百二十圓ニテ競落取得シタルヲ以テ爾後ハ自分ニ於テ直接耕作經營スベキニ付直ニ明渡スベク若シ之ヲ買ヒ取ル意志アラバ反當百五十圓位ナラバ讓渡スベシト通達シ來リタリ。茲ニ於テ申立人等ハ全ク驚愕狼狽シ一先辯護士ニ依頼シ競賣異議ノ申立ヲ爲シタルモ既ニ競落決定後ナルノミナラズ申立人等ニ於テハ經濟的ニ飽ク迄爭フ餘力ナキ爲己ムヲ得ズ右訴訟ハ之ヲ取下ゲ村長其他有志ヲ介シテ本件土地地上權ハ偶々前記所有者ノ登記抹消ナカリシトハ云ヘ申立人等ニ於テ完全ニ讓受ケ村長トモ直接契約シテ十年餘モ無事耕作シ來リタルモノニシテ今更法律上手續ニ缺陷アリトシテ之ヲ奪ハントスルガ如キハ甚シキ暴戾ト云ハザルベカラズ。殊ニ相手方二人ハ從兄弟關係ニアリ債權關係ニモ信ヲ置キ難シト主張シ從前ノ通り耕作セシムル様交渉シ己ムヲ得ザル場合ハ相手方ノ債權額ニ訴訟費用位ヲ加ヘタル金額ヲ提供シ買ヒ取りタシト申出デタルモ相手方ハ飽ク迄自己ノ有利ナル立場ヲ利用シテ過當ノ要求ヲ爲シテ之ニ應セズ。仍テ申立人等ハ之ヲ小作調停ニヨリ救濟ヲ求メントシ書類ヲ作製シテ裁判所ニ提出シタルモ其ノ内容小作調停申立ト見ルベキモノニアラズト認メラレ受理セラレザリシ爲日夜苦悶快惱シ在リタリ。而シ

テ小作官補ハ偶然本件爭議ヲ仄聞シタルヲ以テ現地ニ赴キ村長當事者等ニ付其ノ實情ヲ調査シ何等カ和解救濟ノ途ヲ講ゼザレバ申立人等八名ノ死活問題ナルベキヲ慮リ之ヲ調停ニ依リ解決セシムルヲ最モ妥當ノ方法ト信ジ申立人等ニ對シ小作調停申立ヲ指導シ調停ノ申立ヲ爲サシメタリ。

(二) 調停ノ經過

八月十七日藏館村役場ニ第一回調停委員會ヲ開キタルニ申立人等ハ

『本件土地地上權ノ讓渡關係者ハ相手方ヲ除キ他ハスベテ物故シ證人ト云フベキモノナキモ讓渡證文ニハ凡テ永代讓渡トアリ何等疑問ヲ生ズベキモノニアラザルニ拘ラズ偶々登記面上ニ於テ移轉手續ヲ閑却シタル爲法律ヲ惡用サレタルハ甚ダ心外ニシテ殊ニ相手方等ハ從兄弟關係ニ在リ故意ニ申立人等ヲ苦シメ何等カノ利得ヲ獲ントスルハ殘念ナリ。是非共從前通り經營シ行キタシ』ト述べ相手方ハ

『本件地上權ハ決シテ讓渡シタルモノニアラズ自分ヨリ大正八年内山某ニ讓渡シタリト稱スルモ右ハ十五ヶ年間ノ期限ニテ千五百圓ノ小作料前納ニテ小作セシメ置キタルモノヲ右内山ガ勝手ニ之ヲ他ノ者ニ讓渡シ今日ニ至レルモノニシテ地上權ハ元ヨリ自分ノ所有ナリ。相手方等ノ間ハ從兄弟ノ關係ニアルハ事實ナルモ債務關係ハ狎合ノモノニアラズ故意ニ申立人等ヲ苦シムルモノニアラザルモ自分ノ家計ハ最近大イニ窮乏シ來リタル爲己ムヲ得ザルモノナリ』ト述べタリ。

委員會ニ於テハ申立人等ノ窮狀ヲ察シテ相手方ノ反省ヲ促シ申立人等ニ若干ノ出費爲サシムルモ己ムヲ得ザルモノト認メ種々勸告シタル結果遂ニ一回ノ調停ニテ別記條項ノ通り調停成立シタリ。

調停條項

- 一 相手方板垣某ハ南津輕郡藏館村大字長峰字鯖野澤百六十二番ノ二號原野百四十五町七反九畝四步上ノ地上權(大正八年三月二十五日弘前區裁判所藏館出張所受附第七三五號乙區順位五十一番ノ地上權目的果樹栽培ノ範圍南八十七間ノ箇所原野二町三反六畝二十步)ノ權利ヲ拋棄シ之ガ抹消登記ヲ昭和九年八月二十一日限り爲スモノトス
- 二 申立人等ハ連帶シテ相手方板垣某ニ對シ右抹消登記ト同時ニ金二百七十圓ヲ支拂フモノトス
- 三 相手方板垣某ハ右地上權ニ付將來何等權利ヲ主張セサルモノトス

四 宮城縣伊具郡枝野村字枝野 (土地返還)

爭議發生 昭和九年一月三十一日

調停申立 同 年二月八日

調停成立 同 年三月二日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ (地主申立)

關係土地 爭議 田 二反六畝十步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ原因

本件土地ハ元小作人引地ノ所有ナリシガ家計不如意ノ爲昭和四年一月之ヲ現地主池田ニ賣却シタル

モ池田ハ右賣買代金ヲ支拂ハザルニヨリ引地ハ訴訟ニヨリ漸ク右代金ヲ受領シタリト雖其ノ間ニ於ケル種々ノ葛藤ニヨリ生ジタル費用六十餘圓ハ本件土地ニ對スル小作料ト相殺スル契約ノ下ニ昭和六年度ヨリ小作料三石二斗納期十二月二十四日トシテ小作契約ヲ爲シ昭和六、七年度ノ小作料ハ右金員ニヨリ相殺勘定ヲ爲シタリ。

然ルニ昭和八年度ニ至リ小作人引地ハ本年度稻作ハ入熟期ノ雷雨ト收穫期ノ烈風トニヨリ減收ヲ見タリトシテ小作料ノ納入ヲ延滯スルヤ地主池田ハ大河原區裁判所ニ對シ之ガ請求訴訟ヲ提起シ稻ノ假差押ヲ爲シタリ。

斯クノ如ク地主ガ當初ヨリ訴訟手段ニヨリ目的ノ貫徹ヲ期セムトスルヤ小作人ハ先ヅ未納小作料ヲ即時納入シ全農支援ノ下ニ強硬ニ地主ニ對抗シ小作料永久減額ト小作契約ノ繼續ヲ主張シテ讓ラズ實力鬭爭ニモ及バントスル氣配ヲ示スニ至レリ。仍テ地主ハ二月八日遂ニ昭和九年仙臺地方裁判所小調第四號事件トシテ土地返還ノ調停申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

三月二日伊具郡枝野村役場ニ於テ調停手續開始セラレタル處申立人タル地主池田ハ相手方タル小作人引地ガ農民組合ニ加盟シ小作料納入ノ際ハ常ニ不誠意ニシテ、事ヲ構ヘテ地主ニ對抗スル狀態ナルニ付、將來絕對ニ小作セシムルコト不可能ナリト強硬ニ土地返還ヲ要求シ、之ニ對シ相手方小作人引地ハ過去ニ於ケル小作料ハ前記ノ如キ事情ニヨリテ何等ノ爭ナキ上、昭和八年度小作料ニハ既ニ納入解決シタル今日、地主ガ猶調停事件トシテ爭フガ如キハ畢竟其ノ理由ナキニ不拘彼コソ事ヲ構ヘテ困

窮ノ小作人ヲ陷ン入レントスルモノナリト反駁シ本件土地小作料ハ隣地ヨリモ極メテ高率ナルニヨリ之ガ減額ト小作契約ノ繼續ヲ主張シタリ。

斯クテ調停委員會ハ双方感情ノ沈靜ニ努メ調停ノ主旨其ノ效果等ヲ諭示シ調停案トシテ左記ノ案ヲ提示シ其ノ成立ニ努メタル處當事者双方ニ於テモ漸ク其ノ意ノアル處ヲ理解シ左ノ條項ニヨリ圓滿調停成立セリ。

(三) 調停條項

- 一 申立人池田ハ相手方引地ニ對シ其ノ所有ニ係ル伊具郡枝野村字枝野字與五太郎五一番一田二反六畝十歩ヲ小作料反當一石一斗ノ割合ヲ以テ昭和九年度ヨリ同十年度迄二ヶ年間賃貸耕作セシムルコト但シ小作料ノ納期ハ毎年十二月三十日限リトス
 - 二 相手方引地ニ於テ右小作料ヲ納期迄ニ滯リナク納入シタルトキハ申立人池田ハ第一項記載ノ期間滿了後ト雖モ逐次更新繼續セシムルコト
 - 三 本件土地ニ對シ天災地變其ノ他不可抗力ニ因ル收穫減收ノ慮アル時ハ相手方引地ハ遅クモ稻刈取二週間前申立人池田ニ對シ檢見ヲ要求シ双方協定ノ上其ノ年ノ小作料ヲ決スルコト
- 五 秋田縣北秋田郡前田村阿仁前田字倉之岱 (土地返還並ニ未納小作料請求)

爭議發生 昭和九年十月
調停申立 同 年十月十二日

調停成立 同 年十月二十二日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十人
調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 一町三反四畝二十五步七合
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ原因

本件ハ大正十四年十月北秋田郡前田村ニ於ケル舊慣永小作改定問題ヨリ出發シ昭和四年一大騷擾事件ヲ起シタル所謂前田事件ニ關聯アルモノニシテ、大正八年來部落有財產トナリタル本件田地ヲ相手方等ハ官有地ナリト主張シタルニ始マリ、申立人前田村ハ相手方等外數名ニ對シ、昭和三年中小作米請求訴訟ヲ大館區裁判所ニ提起シ、昭和五年九月三十日同廳ニ於テ左ノ條項ニ依リ和解ヲ爲シタリ。

和解條項

- 一 原告(申立人前田村)ハ本件係爭田地ヲ實測一反步ニ付金二百圓ノ割合ヲ以テ被告(相手等方數名)ニ賣渡スコト但シ實測ノ結果總反別三町一反五畝六歩以上ニ増加シタル時ハ增加部分ヲ價格算定ニ算入セサルコト
- 二 前項土地ハ被告ニ於テ賣買代金ノ支拂ヲ爲スト同時ニ原告ニ於テ所有權移轉手續ヲ爲スコト
- 三 被告ノ右土地ニ對スル大正十四年度ヨリ昭和四年度迄ノ未納小作米合計ヲ昭和七年度ヨリ向フ十ヶ年間ニ按分シ毎年舊年末限リ原告ニ支拂フコト

四 被告ハ昭和五年度小作料及六年度以降ノ小作料トシテ從來ノ小作米ニ相當スル額ヲ各舊年末限
 リ原告ニ支拂フコト

五 被告ノ本訴ニ關シ假差押執行取消ノ爲供託シタル金員ハ被告ニ於テ取戻シ原告ハ取戻シニ付協
 カスルコト

六 訴訟費用ハ各自辨タルコト

然ルニ相手方等ハ右和解條項中第二項ノ賣買代金及第三項ノ年賦償還米ヲ支拂ハズ、更ニ、第四項ノ
 昭和五年度以降昭和八年度迄ノ小作料中、昭和五年度分及昭和七年度分ハ之ヲ支拂ヒタルモ、昭和六年
 度及昭和八年度分ヲ支拂ハズ、申立人ノ數回ノ請求ヲ拒ミタル爲昭和九年十月四日前田村々會ヲ招集
 シ、同日相手方等ニ訴訟提起ノ件ヲ決議シ、同村ハ土地返還並未納小作料請求ノ調停申立ニ及ビタリ。

(二) 調停ノ經過

申立人ハ本件關係土地ガ大正八年來部落財産ニ統一ノ結果部落ハ村ノ小作人トナリ、轉借人タル相
 手方等ガ部落財産トナルヲ否認シ、官有地ナリト主張シテ小作料ヲ支拂ハザル爲村ノ財政ニ及ボス影
 響モ甚大ニシテ大正十四年以降ノ未納米ニ對シ請求訴訟ヲ提起シ、申立人ト相手方等間ニ和解成立シ
 タルガ相手方等ハ和解條項ニ規定サレタル反當二百圓ノ賣買價格ハ高價ナリトテ買受ケニ應ゼズ、
 又小作料及年賦米ヲ支拂ハズ、相手方等ノ誠意ヲ認ムル能ハズトテ強硬ニ土地返還ヲ要求シ、相手方
 等ハ自作農資金貸付申請ノ上買求メ度キヲ述べ部落側ハ右ニ絶對反對ヲ唱ヘタルモ十月十九日ヨリ同
 二十二日ノ四日間ニ亘リ調停主任判事、小作官、調停委員等ガ種々折衝ノ結果、未納小作料ハ二十五

ケ年々賦償還トセシメ、從來通小作繼續セシムルコトトシ調停成立セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人ハ相手方等ニ對シ夫々第一別表記載ノ通本件土地ヲ小作セシムルコト
- 二 小作料ハ各相手方ニ對シ第二別表記載ノ通之ヲ定メ各相手方ハ毎年十二月末日限申立人方ニ持
 參シ之ヲ支拂フコト
- 三 不可抗力ニ因ル不作ノ故ヲ以テ小作料ノ減額ヲ請求セントスル時ハ相手方ハ申立人ニ對シ稻刈
 取十五日前共ニ現場ヲ檢見ノ上減額ノ協定ヲ爲スコト、此ノ協定調ヒ難キ場合ハ當事者双方ヨリ
 代表者一名宛ヲ出シ適當ナル第三者一名ヲ選定シテ之ニ減額ノ裁量ヲ一任スルコト
 若シ此ノ選定困難ナルカ又ハ選定シタルモ其ノ決定困難ナル場合ハ平年作ヲ反當一石五斗トシ之
 カ二割五分以上減收ノ見込ノ場合ハ現ニ存在スル稻ヲ申立人千分ノ三百三十三、相手方ハ千分ノ
 六百六十七ノ割合ヲ以テ各自之ヲ收得スルコト
- 四 大正十四年度ヨリ昭和八年度ニ至ル迄ノ各未納小作米ハ各相手方ニ於テ昭和十年ヨリ同三十四
 年迄向フ二十五ケ年間毎年十二月末日限リ第三別表記載ノ如キ各割合ヲ以テ之ヲ申立人ニ對シ支
 拂ヲ爲スコト但シ右支拂時期ニ於ケル時價ニ換算シテ金錢ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得
- 五 前示第二項小作料ノ支拂ヲ故ナク遲滯シタル時又ハ申立人ノ承諾ナクシテ轉貸シタル場合ハ申

立人ニ於テ任意本件小作契約ヲ解除スルコトヲ得、又前項未納小作米ヲ其ノ支拂期ニ一回タリ共
遲滞シタル時ハ期限ノ利益ヲ失ヒ一時ニ殘未納米ノ請求ヲ受クルモ異議ナキコト

六 申立人ニ於テ本件土地ヲ賣却セントスル時ハ相手方ノ優先買得スルコトヲ承認ス但シ其ノ賣買
ニ關シテハ右賣買ノ當事者ハ阿仁前田部落總代ト協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

(別表省略)

六 山形縣北村山郡大富村 (敷金返還請求)

爭議發生 昭和九年一月

調停申立 昭和九年一月三十日

解決 昭和九年三月十四日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 一反五畝十四步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概要

繫争土地ハ元同郡小田島村本間某ノ所有ニシテ從來ヨリ關係小作人等ガ小作シ來リタルモノナルガ
地主ハ昭和六年該土地ヲ西村山郡高松村早坂某ニ賣却セリ。此ノ賣買ノ際賣却代金ト買受代金トノ差
額百九十圓ヲ小作人三名ニ於テ負擔シ新地主ト十ヶ年間ノ小作契約ヲ締結シタリ。然ルニ地主早坂ハ

經濟上ノ都合ニテ昭和九年一月之ヲ矢作某ニ小作付ニテ賣却シタル處新地主矢作ハ小作人ニ對シ契約
期間中ト雖モ他ニ賣却スル場合ハ小作離レセラレ度キコトヲ要求セルニ小作人等ハ前記百九十圓ハ十
ヶ年間小作ヲナシ得ル爲ニ出シタル敷金ナレバ期間中ニ他ニ賣却シ小作離レトナル場合ハ一ヶ年十九
圓宛ノ割合ニテ控除シタル殘額ハ返還セラレ度旨前地主早坂ニ要求シタル處早坂ハ小作付トシテ一般
時價ヨリ安價ニ新地主矢作ニ賣却シタルモノナレバ返金セズト之ヲ拒絶シタルニヨリ小作人等ハ舊地
主早坂ヲ相手方トシ敷金返還ノ調停ヲ申立タリ。

(二) 調停ノ經過

二月九日第一回調停委員會ヲ現地ニ開催シ當事者ヨリ事情ヲ聽取シ調停ニ努メタルモ地主ハ頑トシ
テ應ゼズ新地主矢作ヲ利害關係人トシテ參加セシメ三月十四日第二回調停委員會ヲ開キ調停ヲ爲シタ
ル處當事者ノ互讓ニヨリ左ノ如キ條件ヲ以テ調停成立セリ。

(三) 結 末

調停條項

- 一 新地主矢作ハ申立人(小作人)等ニ對シ昭和九年ヨリ七ヶ年小作セシムルコト、申立人等(小
作人)ハ四ヶ年間小作シタル後ニ於テ利害關係人(新地主)ガ土地ヲ他ニ賣却スルトキハ何時ニ
テモ異議ナク返還スルコト
- 二 新地主ハ右四ヶ年間ニ本件土地ヲ他ニ賣却セサルコト、若シ賣渡ストキハ小作付トスルコト
- 三 四ヶ年後ニ於テ他ニ賣却スル場合ハ七ヶ年ノ殘期間ニ對シ一ヶ年十九圓宛ノ割合ノ金員ヲ相手

方（舊地主早坂）ハ三分ノ二、利害關係人（新地主矢作）ハ三分ノ一宛分擔シ申立人等（小作人）ニ夫々支拂フコト

七 山形縣飽海郡稻川村（小作繼續）

爭議發生 昭和九年四月

調停申立 昭和九年五月八日

解 決 昭和九年七月十八日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地 爭議 田 八反三畝步

調停 右ニ同ジ

（一） 爭議ノ概要

繫争土地ハ元西田川郡袖浦村高橋某ノ所有ニシテ從來ヨリ關係小作人堀某ノ小作セルモノナルガ地主ハ負債ノ爲ニ昭和九年四月抵當權ヲ實行セラレ地主ノ弟高橋某之ヲ競落シ從來ノ小作人ニ何等ノ交渉ナク之ヲ遊佐村遊佐實業公民學校ニ貸付スルコトニ契約ヲ爲シタリトテ小作人ニ對シ土地返還ヲ請求シタリ。

五月八日遊佐實業公民學校生徒四、五十名ハ右小作地ノ耕作ニ着手シタルヲ以テ小作人堀某ハ同校長尾形某ニ耕作中止方ヲ交渉セルモ應ゼザリシヨリ小作人ハ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

五月十二日同校生徒ハ再ビ馬耕ヲ爲シタル處小作人堀モ地均ヲ爲シ尙二十五日ニハ山形縣農民組合ノ應援ヲ求メ翌二十六日同組合常任委員和田某等ト共ニ田植ヲ了シタリ。

（二） 調停ノ經過

五月二十九日第一回ノ調停委員會ヲ現地ニ開催シ當事者ヨリ事情ヲ聽取シ調停ヲ試ミタルモ妥協ニ至ラズ次デ六月十日第二回、七月八日第三回ト調停委員會ヲ重ネ調停ニ努メタル處當事者ノ互讓ニヨリ左ノ如キ條件ニテ調停成立セリ。

（三） 結 末

調停條項

- 一 本件土地ハ本年度一ケ年タケ小作人堀ニ於テ耕作ヲナスコト
- 二 昭和十年度ヨリ本件土地ノ内六反步ヲ公民學校ニ於テ耕作シ殘部ハ五ケ年ノ契約ヲ以テ堀ニ小作セシムルコト

三 公民學校ニ於テ施シタル肥料代金四十五圓ハ本年度收穫期ニ於テ堀ヨリ之ヲ支拂フコト

四 地主ハ堀ノ小作離ノ爲金四百八十圓ヲ涙金トシテ支給スルコト

八 福島縣郡山市字大島（小作繼續）

爭議發生 昭和九年一月十日

調停申立 昭和九年一月二十日

解 決 昭和十年三月二日

關係人員 爭議 地主 二人(新舊) 小作人 一人

調停 右ニ同ジ (小作人申立)
關係土地 爭議 田 二町三反六畝八步 宅地 百二十七坪
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人橋本某ハ地主安藤某ノ先代時代ニ於テ現繫争地ヲ借受ケ開墾ノ上二十年來繼續小作シ來レルモノナリ。然ルニ地主ハ家政整理ノ爲金二千六百五十圓ニテ昭和八年七月九日本件土地全部ヲ隣接田村郡中鄉村渡邊某ニ賣却シタリ。而シテ買受人タル右渡邊ハ從來田七反步、畑一町一反步、山林原野一町二反步ヲ所有シ村内ニ於テモ中流以上ノ生活ヲ爲シツツアリシモ金一萬七百三十八圓十九錢ノ負債ノ爲代物辨濟トシテ前記所有土地全部ノ所有權ヲ村内渡邊某外七名ニ昭和八年三月二十八日移轉スルニ至リ僅カニ原野二畝二步宅地百五十八坪ヲ所有スルニ過ギズ。昭和八年ニ於テハ前記賣却土地中田一反五畝步、畑三反八畝步ヲ小作シタルモ昭和九年ヨリ返還スルコトナリ居リタルヲ以テ小作地ニ不足ヲ來シ叔父相澤某ヨリ昭和九年ヨリ十ヶ年間毎年玄米十六俵外金五十圓ヲ支拂フ約ニテ金二千六百五十圓ヲ借受ケ本件土地ヲ購入スルニ至レルヲ以テ土地買受ケト同時ニ其ノ地ニ轉居ノ上ヲ小作人ニ對シ土地竝ニ家屋明渡ヲ要求スルニ至レリ。

然ルニ相手方タル小作人ハ部落ヲ距ル一里有餘ノ所謂一軒家ニ住居シ所有地僅カニ畑二反步ニ過ギズ、全ク本件小作地ノミノ收入ニ頼リテ一家ノ生活ヲ持續シツツアリ萬一本件土地ヲ取上ゲラルルニ

於テハ他ニ轉居スル外全ク代地ナク一家八人ノ家族ヲ扶養スルコト能ハザル實情ニ陥ルニ至ルベキヲ以テ地主ニ對シ小作繼續ノ要求ヲ爲ス所アリシモ地主應ゼズ、小作人ハ遂ニ全國農民組合本縣聯合會ノ應援ヲ求メ飽迄地主ト抗争セムトスルニ至リタルヲ以テ舊地主ヨリ土地返還ノ調停申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

三月二十六日郡山區裁判所内ニ於テ第一回ノ調停委員會ヲ開會シタルモ双方ノ主張全ク相反シテ妥協ノ餘地ナク五月二十六日第二回ノ調停委員會ヲ開會シ左ノ調停案ヲ提示セリ。

- 一 昭和九年度ハ申立地全部ヲ現小作人タル相手方橋本某ニ小作セシムルコト
- 二 昭和十年度以降ハ相手方橋本某ニ於テ今後五ヶ年間申立地中田四反步ヲ從來通り小作シ殘小作地六反十三步、畑三反三畝二十九步及宅地四畝七步ハ利害關係人タル現地主渡邊某ニ返還シ同人ガ自作スルコト

三 相手方橋本某ニ對シテ右返地ノ代償トシテ申立人安藤某ハ本年開田地五反步竝昭和十年度開田豫定地三反步ヲ同人ニ貸付小作セシムルコト

四 前記開墾地ガ今後五ヶ年後即チ本件申立地全部ヲ小作人ガ返還スル際灌溉水其ノ他ノ關係上無收穫地ナル場合ハ申立人安藤某ニ於テ之ニ相當スル代地ヲ發見シテ貸與スルコト

五 昭和十年度ニ於テ現小作人ガ開墾地ニ移住スル場合ニハ前地主安藤某ニ於テ住宅ヲ建設貸與スルコト

右調停案ニ對シテハ小作人側ハ全國農民組合ノ應援ヲ受ケテ從來通五ケ年間ノ小作繼續ヲ要求シテ讓ラズ全ク妥協ノ見込ナキニ至リタルヲ以テ寧ロ不調トシ双方ノ自覺ヲ促シ徐ロニ解決策ヲ講ズルヲ以テ適當ナルモノアリト認メ地主ニ對シ申立ノ取下ヲ勸告シタル結果五月二十六日申立ノ取下ヲ爲スニ至レリ。

再調停ノ申立

地主ハ調停ノ申立ヲ取下グルヤ直ニ辯護士鈴木某ヲ訴訟代理人トシテ土地竝家屋ノ明渡請求訴訟ヲ郡山區裁判所ニ提起スルニ至リ抗爭ノ結果小作人側ハ前回ノ主張ヲ緩和シ調停案ニ應諾スベキコトヲ條件トシテ新舊兩地主ヲ相手方トシ七月二十一日小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

而シテ地主ハ十月二十九日郡山區裁判所ニ對シテ土地不法占有ニ因ル損害賠償金百九十二圓ノ支拂命令ノ申請ヲ爲シ同日田四反歩ノ稻立毛ノ假差押ヲ執行シ十一月五日換價處分ニ附シ地主之ヲ競落スルニ及ビテヨリ地主側ノ主張益々強硬ヲ加フルニ至レリ。而シテ本件ハ十月二十日第一回ノ調停委員會ヲ十一月十七日第二回昭和十年三月二日第三回ノ調停委員會ヲ開會シ調停成立セルモ第一回ノ調停委員會ニ於テハ地主側ノ申立ニ係ル前記五月二十六日ノ調停案ニ於ケル申立地ト代地トハ一里半餘ノ遠隔ノ地ニアリ小作人ハ新舊小作地ニ跨リテ農耕ニ從事スルコト能ハザル實情明カトナリタルヲ以テ更ニ自作農創設維持資金ノ貸付ニ依ル土地賣買ノ協定ヲ試ムル所アリシモ郡山市ニテハ右事業ヲ行ハザル爲之亦不能ニ終リ第二回ノ調停委員會ニ於テハ改メテ左ノ調停案ヲ提示セリ。

一 申立地中田五反歩ヲ現地主ガ耕作シ他ハ今後三ケ年間申立人タル小作人ニ貸付スルコト

二 新地主ハ右耕作地ノ外前地主ヨリ別ニ三反五畝歩ヲ借受ケ小作スルコト

三 第一項小作期間滿了後ハ小作人ハ小作地ヲ地主ニ返還シ現地主ハ申立地ノ全部ヲ自作シ小作人ハ前記地主ヨリ借受ケタル開墾地ニ移住シ小作スルコト

然ルニ右調停案ニ對シテハ双方殊ニ地主ノ主張強硬ニシテ全ク調停成立ノ見込ナキニ至リタルヲ以テ調停委員會ニ於テハ第一案トシテ地主ハ申立地中田六反歩ヲ今後五ケ年間繼續小作セシムルコト第二案トシテ地主ハ申立地全部ヲ今後三ケ年間繼續小作セシムルコトノ選擇調停案ヲ提示シ妥協成立セザル場合ハ小作調停法第三十六條適用ノ決意ノ下ニ調停ニ臨ミタルニ地主渡邊某ハ第一案ヲ小作人ハ第二案ヲ固執シテ双方共ニ讓ラズ、仍テ調停不成立ヲ宣シ法第三十六條ノ適用ヲ宣言セムトシタルニ地主側俄カニ軟化シ遂ニ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方渡邊某ハ申立人ニ對シ別紙目錄ノ土地建物ヲ昭和十二年度迄賃貸スルコト申立人ハ右期間滿了後ハ渡邊某ニ對シ右ノ土地建物ヲ無條件ニテ明渡スコト但シ畑地ノ桑樹ハ當時ノ相場ヲ以テ渡邊某カ買取ルコト
- 二 賃料ハ一ケ年田地全部ニテ玄米十七俵(四斗入)畑地ハ宅地及家賃ヲ含ミテ金二十三圓トシ毎年十二月二十日限り渡邊某方ニ持參シテ支拂フコト
- 三 申立人カ前項ノ支拂ヒヲ一回タリトモ怠リタルトキハ渡邊某ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ第一項

物件中ノ賃料不拂該當ノ土地又ハ建物ヲ引上クルコトヲ得

四 天災其ノ他之ニ類スル不可抗力ニ因リ收量減少シタルトキハ作物ノ收穫(稻麥ノ刈取等)十五日前ニ檢見ノ請求ヲ爲シ減額率ヲ協定スルコト

若シ協定成立セサルトキハ縣ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ減額率ノ點ニ限リ再調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ作物ノ收穫後ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

五 渡邊某ハ郡山區裁判所昭和九年(ハ)第一七八號建物明渡竝土地引渡事件ヲ直ニ取下クルコト

六 相手方安藤某ハ右條項ニハ關係ナキコトヲ互ニ承認シタリ

九 栃木縣那須郡狩野村大字三島 (小作地買受)

爭議發生 昭和八年十二月一日

調停申立 昭和九年一月九日

解決 昭和九年六月二十五日

關係人員 爭議 地主 三人 小作人 四百六十七人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

爭議 田 三十一町九反九畝十一歩 畑 三百五十九町三反九畝二十一歩

關係土地 宅地 九萬三百八十三坪八勺

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ往時ノ那須野ヶ原ノ一部ニシテ明治十八年太政官令ニヨリ向フ五十ヶ年間ヲ開墾期間トシテ許可ヲ受ケ以來移住民ヲ募集シ今日ニ及ベリ。然ルニ昭和八年十二月末ヲ以テ右五十ヶ年満了シ爲ニ稅務署ヨリ地目ノ變換ヲ命ゼラレ之ニ伴フ増額ハ從來ノ約三倍強(從來千五百八十圓タリシモノガ五千餘圓ト査定セラル)トナリ反當一圓五十錢ノ増額ニシテ地主ハ其ノ差額ヲ小作料ノ増額ニ求ムルノ外ナシトシ全小作人ニ對シ小作料値上ノ通告ヲ爲シタル處此ノ突然ノ地主ノ通告ニヨリ小作人側ハ大イニ驚愕シ現下ノ農村經濟不況甚シキ折柄斯クノ如キ高率ノ値上要求ニハ直ニ應ズル能ハザル旨回答シ抗爭スルニ至リタルモノナルガ、小作人側ハ寄々協議ノ結果小作調停ノ申立ヲ爲スコトニ決シ前記ノ期日ニ調停申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

第一回(二月廿七日) 調停委員會ヲ狩野村ニ於テ開キ双方ノ意向ヲ質シタル處双方ノ主張左ノ如シ。
小作人側

地主ヨリ最近小作料ノ値上通告ヲ受ケタルモ目下ノ不況時ニ於テハ誠ニ耐ヘ難キ問題ナリ種々協議ヲ重ネタルモ直ニ承服スルコト能ハズ。

今後少クトモ三ヶ年位ハ現小作料ニ据置カレタシ。若シ地主ガ夫ヲ承諾シ吳レザルニ於テハ去月本村北赤田部落民三十九名ガ地主豐澤某ヨリ小作地ノ分讓ヲ受ケ縣ヨリ自作農創設資金ヲ借り受ケ解決セル事例アレバ之ニ倣ヒテ解決致シタク尙北赤田ハ反當畑宅地金二十圓乃至二十五圓ニテ解決セシ故其ノ償還金額ハ從來ノ小作料ヨリ稍々低率トナリシ由ナリ。自分等モ斯クシテ解決ヲ得バ一家

ノ幸福之ニ過ギタルモノナケレバ御盡力ヲ願フテ止マザル次第ナリ。
地主 側(農場管理人ガ代理トシテ出席ス)

開墾期明ニ依ル地目ノ變換ニ伴ヒ増税ハ約三倍強ニシテ之ガ差額ハ小作料ノ増額ニ求ムル外方法ナシ。其值上額ハ反當金一圓五十錢ヲ必要トスルモノニシテ去ル一月十九日左記ノ通り值上通告表ヲ手交シ考慮ヲ求メ居ル次第ナリ。

記

字	名	値上小作料	舊小作料	参考 (大田原稅務署ノ 公定賃貸價格)
五	軒町	四・二〇	二・七〇	六・〇〇
同	夫塚	六〇―三〇―二四 ^円	四・二〇	六〇―三〇―二四
大	同	四・二〇	二・七〇	六・〇〇
同	同	玄米七斗五升	玄米七斗五升	一六・〇〇
同	同	一二・〇〇	二・七〇	二四・〇〇
町	組	四・二〇	二・七〇	六・〇〇
同	同	三六―二一	四・二〇―二・七〇	三六―二一
南	同	四・二〇	二・七〇	六・〇〇
同	同	一五―一一	二・七〇	三〇―二一
西	中	四・二〇	二・七〇	六・〇〇

同	東	畑中	畑	宅地	一五―一一	二・七〇	三〇―二一
同	同	同	同	同	四・二〇―三・九〇―三・六〇	二・七〇―二・四〇―二・二〇	五・四〇
同	同	同	同	同	玄米七斗五升	玄米七斗五升	一六・〇〇
同	同	同	同	同	一四―一一	二・七〇	二七―二一
同	同	同	同	同	三・九〇	二・四〇	五・四〇
同	同	同	同	同	一四―一一	二・四〇	二七―二一
同	同	同	同	同	三・九〇―三・八〇―三・六〇	二・四〇―二・三〇―二・二〇	四・八〇
同	同	同	同	同	玄米七斗五升	玄米七斗五升	一六・〇〇
同	同	同	同	同	一一―一九	二・四〇	二一―一八
同	同	同	同	同	三・六〇	二・三〇―二・一〇―一・八〇	三・六〇
同	同	同	同	同	玄米七斗五升	玄米七斗五升	一六・〇〇
同	同	同	同	同	一一―一九	二・三〇	二一―一八
同	同	同	同	同	三・〇〇	二・三〇―二・一〇	三・〇〇
同	同	同	同	同	一一―一九	二・三〇	二一―一八
北	赤田	畑	畑	宅地	二・四〇	二・一〇―一・八〇	二・四〇
同	同	同	同	同	八・〇〇	二・一〇	一五・〇〇

右ノ如キ主張ニ對シ委員會ハ其ノ執ル可キ方針ヲ大體左ノ二項ニ決シ双方ニ之ヲ提示セリ。

一 小作料値上ハ地主ノ主張ヲ止ムナキモノト認定スルモ其ノ額ハ三割位ヲ適當ト認メ期間モ一應

三ヶ年間トシ其ノ後ハ其ノ時ノ大勢ヲ觀テ再ビ協定セシムルコト

二 小作人側ノ希望ニ依ル自作農創設ハ時宜ニ適シタルモノト認メ本調停ハ該問題ニ及ホスコト

然ルニ地主モ第二項ニ同意シ、小作人側ハ第二項ノ調停ヲ先トセラレタキ旨申出ヅルト共ニ直ニ賣買價格ノ折衝ヲ希望シ來レルモ委員會ハ慎重ノ態度ヲ以テ臨ミ次回ニ讓ルコトトセルモ一應地主ノ意向ノ内示ヲ求メタルニ、地主ハ先般來小作人ノ土地分讓申出デアリタル爲三島家内部ニテ種々協議ノ結果手取二十萬圓ニテ全部ヲ賣却スルモ不可ナク尙自作農創設ノ曉ハ自作農組合ヲ作ラシメ其基金ニ賣却代金ノ一割程度ヲ寄附スル意向アレバ之ヲ含メテ金二十二萬圓ヲ最少限度トナスト主張セリ。右地主ノ意向ニ對シ小作人側ハ各部落ニテ協議ヲ重ネシムル要アレバ次回迄ニ各自充分考慮セシムルコトトシテ散會セリ。

第二回(二月八日) 地主ハ今井某ヲ代理トシテ出席セシム。委員會ハ先ヅ双方ニ對シ考慮ノ結果ヲ質シタルニ

小作人側

各部落毎ニ協議ヲ重ネタル結果ヲ持チ寄り總代會ニテ更ニ協議ヲ爲シタル處左記價格ヲ以テ買受ケ

記

タシト決セリ。

字	名	宅地 (反當)	畑 (反當)	田 (反當)
五	町軒	二〇〇	五〇	一五
南	畑中	四〇	三〇	一一
東	畑中	三五	二五	一一
西	畑中	三五	二五	一一
南	畑中	四〇	二五	一一
上	畑田	三五	二五	一一
東	畑田	三五	二五	一一
北	畑田	三五	二五	一一
大	夫塚	四〇	三五	一一

右記價ニヨル合計金額十五萬八十圓

地主側

關係土地全部ヲ金二十萬圓ニテ分讓スルコトハ地主ノ大英斷ニシテ普通價格ノ二分ノ一程度タルベク又一面ニハ地主ノ社會的立場ヨリ掛引的價格ヲ發表スルハ許サレザル次第ナレバ本件モ絶對的ノモノナリ、委員會ハ深ク此ノ點ニ留意アリタシ。

右ニ對シ委員會ハ大體地主ノ主張ハ繫争地附近ノ一般狀況ニ比較シテ安價ノモノナレバ小作人側ニ今一段ノ奮發ヲ爲サシメ先ヅ買取値段ノ協定ヲナスコトニ方針ヲ定メ小作人側ニ交渉シタル處小作人側ハ自作農創設資金ノ借受ハ容易ニシテ直ニ全員ガ其ノ特典ニ浴シ得ルモノト考ヘ居リシ爲此ノ點ニ於テ一頓挫ヲ來セリ。

依ツテ委員會ハ更ニ延期シ其ノ間ニ於テ資金調達ト賣買價格ノ折衝ヲ爲サシムルコトニ決セリ。

第三回(二月二十三日) 本日ハ矢野宇都宮地方裁判所長臨席シ開會ニ先テ挨拶ヲ述ベラレ、關係者一同ハ互讓妥協ノ精神ニ基キ一日モ早ク解決スル様努力アリタシト希望セラレタリ。次デ、

小作人側ハ

第二回委員會後小作人一同ニテ誠意協議ノ結果(一)現在ノ小作地以外ニ山林二十一町歩ノ分讓ヲ受ルコトトシ、之ニヨリ約七千圓ノ増額(二)宅地價格ヲ二割五分増額(三)畑價格ヲ一割増額ノコトニ協議一決セリ。其ノ結果三萬圓ノ増額ヲ來シ計十八萬圓トナリタリ。就テハ此ノ額ヲ以テ委員會ハ地主ト折衝セラレタク、尙資金ニ付テハ縣ヨリ自作農創設資金ノ融通ヲ計ラレタク、一部分ハ自己資金ニヨリ直接買受ケタシ。

地主側(今井代理人)

前回陳述セル通りニシテ萬一決裂スルトモ其ノ主張ヲ變更スル餘地ナシ。

右ノ如クシテ双方ノ主張ニ金二萬圓ノ相違ヲ生ジタリ。而シテ委員會ハ前回ト同一方針ノ下ニ小作人側ニ今一段ノ讓歩ヲ求メタルモ總代ニテハ容易ニ應諾スルコトヲ得ザル状態ニアリテ折衝ハ進展セセリ。

附記

一 第一回委員會散會後小作官補ハ居残りテ小作人側ト懇談ヲ重ネタル處翌二十四日ニ至リ十八萬圓ノ主張ハ撤回シ小作官ニ一任シ小作官ノ認定額ニヨリ一日モ早ク事件解決ヲ望ム旨申出デタリ

二 右ノ如ク小作官補ハ事件解決方ヲ小作人側ヨリ一任セラレタルヲ以テ主任判事ニ其ノ旨報告スルト共ニ地主ニ面接ノ要ヲ感ジ三月二日上京地主ニ面會懇談シタル處

地主ハ

先般來親族會議ヲ開キ決定セルモノガ二十萬圓ト云フニアリテ今之ヲ讓歩スルコトハ困難ノ事ニ屬ス更ニ小作人側ハ果シテ如何程ノ買取能力アルヤ疑ヒアレバ小作官ニ於テ個人ニ付資力調査ヲ行ハレ其ノ結果ニ付重ネテ相談スベシ

ト云フニアリタリ。

三 三月六日小作官補ハ狩野村ニ至リ總代全部ヲ召集シ先ヅ地主ノ意向ヲ報告シ次デ小作人側ト協議シタル處小作人側モ理解シ近日中ニ小作官ニ實地踏查ヲ乞ヒ直接小作人個々ニ付價格ヲ協定ス

ルト共ニ買取方法ヲ決定セラレタク尙此ノ際小作人ノ大部分ガ困難シツツアル負債ヲ整理スルコトニ盡力アリタシト申出ヅルニ至レリ。

四 三月十二日地主代理人今井某來縣主任判事竝ニ小作官補ニ面會ヲ求メ、

頃日來小作官ノ努力ニヨリ小作人側ハ解決方法ヲ小作官ニ一任シタル由ナルモ地主ハ考慮シタル結果目下ノ情勢ニテハ自作農創設ハ資金ヲ得ルニ多大ノ困難アルヲ慮ラルルヲ以テ寧ロ此ノ際ハ中止シ單ニ小作料改定ニ止ムルヲ策ノ得タルモノト思料ス。依ツテ委員會モ諒解セラレ關係小作人ヲシテ其ノ意見ニ同意スル様盡力アリタシ

ト申出デアリ、之ニ對シ小作官補ハ目下ノ情勢ニ於テ斯ノ如キコトヲ發表セバ事態ハ益々紛糾スル虞アレバ地主モ其ノ點ヲ特ニ考慮セラレ、其ノ主張ハ撤回シ飽ク迄互讓妥協ノ精神ニテ調停ヲ進行スルコトコソ策ノ得タル所以ナルコトヲ力説シ同意ヲ求メタルモ即答シ得ザル故一週間ノ猶豫ヲ求メテ歸京シ越ヘテ三月二十三日再度來縣重ネテ相談シタルモ前回開陳セシ通りナリ依ツテ至急調停委員會ヲ開キ小作料改定ダケノ調停ヲ望ム

ト答ヘタルモ主任判事、小作官補ハ同意ヲ與ヘズ極力地主ノ反省ヲ促シタリ。

五 三月二十六日小作官補ハ爭議地ニ出張、小作人側總代ヲ召集ノ上最近地主ノ希望申出デアリタル事情ヲ報告シ一應小作人側ノ考慮ヲ促シタル上意向ヲ質シタル處

自作農創設資金ノ借入ニハ困難ヲ感ズルハ小作人一同モ同様ナレバ縣ヨリ借受クルコトハ斷念シ之ニ代フルニ十ヶ年賦購入トシテ解決ヲ望ム其ノ間ニ於ケル公課ハ小作人ノ負擔トスルモ異議ナ

シ。

而シテ地主ノ希望タル自作農創設問題ヲ中心トセザルコトハ絶對ニ應ズルコト能ハズ。尙委員會ハ農繁期ニ入ラザル内ニ再會シ解決ヲ計ラレタシト陳述セリ。

第四回(四月一日) 小作官補ハ最近双方ニ交渉セル概要ヲ委員會ニ報告シ、次デ地主ハ前項ニ掲ゲタル通りノ主張ヲ開陳シ小作人側ハ賣買價格ニ付テハ委員會ニ一任シ買取方法ヲ十ヶ年ノ年賦買トシテ解決ヲ望ム旨申出デタリ。

而シテ委員會ハ右地主ノ主張ハ今日ノ場合容レザルモノト認定シ之ヲ斥ケ專ラ自作農創設ヲ中心トシテ調停ヲ進行セシメ次回ニハ地主自身ノ出頭ヲ求メ直接交渉ヲ爲サシムルコトトシ散會セリ。

第五回(四月十三日) 地主本人ノ出席ヲ條件ニ宇都宮地方裁判所ニ於テ開會セルモ地主ハ出席ナク今井代理人ノミ出席セリ。而シテ地主ハ東京ニテ協議ノ結果左ノ如ク主張ヲ變更スルコトニ決シタル旨申出デタリ。

一 自作農創設ニ再ビ賛成スルコトトシ二ヶ年間ニ縣ヨリ該資金ヲ得賣却ヲ了シタシ

二 小作人ノ希望タル年賦賣買ニハ不賛成ニシテ應ズル能ハズ

三 第一項完成迄ハ小作料ノ改定契約ヲ望ム

四 現金買ニテ即時應ズベシ

ト述ベタルニ對シ、小作人側ハ前回ノ主張通り十ヶ年賦買ヲ高唱シ更ニ組合ヲ組織シ地主ニ迷惑ヲカケザルヲ以テ承諾アリタシト懇談的態度ニ出デタリ。

而シテ委員會ハ評議ノ結果小作官補ノ樹立セル左ノ案ヲ採用シ双方ニ交渉シタル處少數ノ代理者ノ
ミニテハ即答ニ窮シ次回迄ニ協議確答スルコトトナレリ。

記

- 一 甲組ヲ現金買ノ者トシ本年末迄ニ自己資金ニヨリ買取ルコト
- 二 乙組ヲ年賦買ノ者トシ三ヶ年以内ニ自己資金ニヨリ買取ルコト
- 三 丙組ヲ自作農創設資金借受者トシ三ヶ年ノ豫定ヲ以テ申請ヲナスコト

附記

一 四月十四日小作人側ハ小作官補ノ出張ヲ求メ大協議會ヲ開キ態度ヲ決スルコトトナリ小作官補
ハ第五回委員會ニ於テ示サレタル妥協案ノ説明ヲナシ、更ニ頃日來小作人側ノ主張セシ十ヶ年賦
買案ノ撤回ヲ迫リシニ小作人側モ大勢ヲ自覺シ委員會ニ一任スルコトニ決セリ。依ツテ小作官補
ハ不日具體案ヲ樹立シ再ビ協議スルコトニ約束ノ上退村セリ。

二 然ルニ同月十七日ニ至リ小作人中一部不良分子ガ中堅トナリ協議ノ結果態度ヲ一變シ
頃日來地主ハ横暴ノ言動多ク爲ニ第五回委員會ノ示セル妥協案ノ生レタルモノト思料セラル、該
案ハ地主ニ有利ノモノナレバ此ノ際之ヲ拒絶シ調停ヲ不成立ニ終ラシメ今後二ヶ年間小作料ノ不
納同盟ヲ決行スベシ斯クスレバ地主モ困却シ結局小作人ノ勝利トナリ主張貫徹スベシ
ト決議スルニ至レリ。右ヲ察知セル農場管理人ハ小作官補ニ急報シ來レリ。依ツテ小作官補ハ十八
日早朝爭議地ニ出張シ小作人側幹部ヲ召集終日懇談ヲ重ネ反省ヲ促シタル處漸ク同夜再ビ小作官

補ニ一任シ前記決議ハ取消スコトニ決セリ。

三 次デ小作官補ハ翌十九日上京地主ニ面會ヲ求メ小作人側空氣ノ險惡ナリシ狀況ヲ報告スルト共
ニ解決案ニツキ協議ヲ爲シタル處小作官補ノ立案セシ方法ニ一任シ至急實地踏査ヲ爲シ其ノ上ニ
テ再ビ協議スルコトニ決シ退京セリ。

四 前記ノ如ク双方ヨリ一任ヲ受ケタル小作官補ハ主任判事ト打合セタル上四月二十四日ヨリ爭議
地ニ出張實地踏査ト小作人ト個人交渉ヲ爲スコトトシ先ヅ二十五日ヨリ三日間ニ亘リ、關係土地
約四百町歩ヲ實地ニ踏査シ次デ右調査ニ基キ田、畑、宅地ヲ一等甲乙、二等甲乙、三等甲乙、等
外ノ七等地ニ査定シ(宅地ニハ等級ヲ附セズ)更ニ該査定ニ基キ價格ヲ定メ總體ノ價格二十一萬
圓ヲ目標トシ左ノ通り査定ヲ了セリ。

記

田ノ部

地 區	等 級	反 當 價 格	備 考
事務所裏表	一 等 甲	一八〇円	
南赤田、東赤田	一 等 乙	一六五	
同 中堀上、中	二 等 甲	一五〇	

東	赤	田	五〇
北	赤	田	三〇

斯テ小作官補ハ二十七日午後右査定額ヲ公表シ翌二十八日歸廳セリ。

五 右標準價格ト調停申立書ニヨル反別ニテ金額ノ算出ヲ爲シタルニ、十八萬三千二百圓トナリ豫定額二十一萬圓ニ達セザルコト二萬七千圓ニシテ容易ナラザル事態ヲ發見セシ故五月一日小作官補ハ爭議地ニ急行シ農場管理人ニ對シ土地臺帳ヲ提出セシメ種々究明シタル處調停ニ漏レタル小作人、五十八名アルヲ發見セリ。(農場管理人ハ始メ調停申立ヲ爲サザルモノ十七名ナリト云ヒシモ調査ノ結果右ノ如ク五十八名アルヲ發見セリ)

依ツテ其ノ分ニ對スル査定ヲ行ヒ一萬七千圓ノ増額ヲ得、計二十萬圓トナリタルモ尙一萬圓ノ不足ヲ生ゼル故再査定ニヨリ捻出スルコトトナシタリ。

此ノ間ニ於テ水田關係小作人八十九名ハ水利ニ關スル不滿ト査定價格ノ高率ニ不平ヲ懷キ自作農創設ヲ中止セントシ代表者ヲシテ其ノ旨申出デタリ。依ツテ小作官補ハ五月二日午前七時關係小作人全部ヲ集メテ其ノ申出ニ對スル眞意ヲ質スト共ニ水田ノ問題ニテ圓滿ヲ缺クコトアランカ直ニ畑宅地ノ問題ニ影響ヲ及ボシ折角今日迄折衝シ來レルコトノ總テガ破壞セラルル所以ヲ説キ反省ヲ求メタル處一部幹部級ノ煽動ガ原因セルコト漸ク判明シ來リ小作人間ニ内証ヲ生ジ同日正午頃ニハ其ノ主張ヲ撤回シ再ビ小作官補ニ一任スルコトトナリタリ。而シテ査定價格ニ付テハ水田

ノ良否ヨリ觀察スレバ今回發表セラレタルモノハ至當ト認メラルルモ水利ノ點ヲ考フル時ハ一等地ヲ少シク下ゲ三等竝ニ等外地ヲ少シク高メラレタキ旨小作人一同ノ希望トシテ申出デタルヲ以テ種々協議ノ結果一等甲百八十圓タリシモノヲ百六十圓トシ等外九十圓タリシヲ百圓トシ其ノ間ニ配列スルコトニ訂正セリ。右訂正案ニ一同満足ノ意ヲ表シテ散會セリ。

尙前述ノ調停申立ヲ爲サザリシ者ニ對シ一應懇談ノ要ヲ痛感セルヲ以テ同日急ニ參集ヲ求メ小作官補ヨリ今日迄ノ調停經過ヲ發表シ同一步調ニ出ヅル様勸告セシ處出席者全部賛成シ直ニ調停申立ノ手續ヲ執ルコトニ決セリ。

次デ小作官補ハ同日夕刻ヨリ三日、四日ノ三日間ニ亘リ個人交渉ヲ爲スコトトシ關係小作人三百八十六名ヲ各部落別ニ出頭セシメ(缺席者ニハ代理人ヲ出サシム)各個人ニ付査定價格ヲ算出スルト共ニ自己資金ニヨリ買取ル意思アリヤ又自作農創設資金ニヨル希望ナルカヲ質シ同時ニ小作人ヨリノ質疑ニ應答シタル上夕刻退村セリ。

六 今日迄ノ調停經過ニ鑑ミ此ノ際農林省小作官ノ臨席ヲ乞ヒ其ノ意見ヲ求ムルヲ時宜ニ適シタル措置トシ小作官ノ現地派遣申請ヲナシタル處五月十五日小林小作官出張セララルコトニ決セリ。而シテ豫テ地主ト内交渉ヲ爲スコトニ決シ居リシヲ以テ同日地主ノ出頭ヲ求メ宇都宮地方裁判所ニ於テ其ノ協議會ヲ開キ席上小作官補ヨリ小作人側ト折衝シタル經過ヲ報告シ地主ノ意見ヲ求メタル處大體ニ於テ調停委員會ノ努力ヲ感謝シ公平ナル調停案ノ提出アルコトト信ズルヲ以テ夫ニヨリ一日モ早く解決ヲ望ム旨申出デアリタリ。

第六回(五月二十日) 狩野村小學校ニ於テ開會先ヅ小作官補ヨリ頃日來双方ニ交渉ヲ遂ゲタル經過ヲ報告シタル上双方考慮ノ結果ヲ質シタルニ

小作人側

其後小作人一同ガ最後ノ協議ヲ爲シタル結果小作官ヨリ提示セラレタル反當價格ニ付テハ研究協議ノ結果ナレバ變更スルコト至難ナレドモ自作農組合ヲ各部落ニ設置スルニ付テ地主ヨリ寄附スルコトニ内定シ居ル基本金ノ件ハ此ノ際中止シ單ニ十九萬圓(二十萬圓ノ内ヨリ一萬圓ヲ減ズト云フニアリ)ニテ分讓ヲ受ケタシ、而シテ自作農創設資金ニヨルモノノ人選ニ付テハ最モ公平ニ之ヲ行ヒ後日紛議ノ起ラザル様特ニ考慮ヲ望ム。

地主側

今日トナリテハ小作人側ノ希望スル十九萬圓ニ應ズルヲ至當トセンモ本日直ニ應諾ヲ與フルコトハ親戚ノ者ノ不滿ヲ買フ恐レアレバ來ル二十三日迄延期セラレタシ。尙席上農林省小作官ノ意見發表ト双方ヨリ質疑應答アリタリ。

第七回(五月二十三日) 宇都宮地方裁判所ニ於テ開會小作人側ハ各部落ヨリ一名宛ノ總代出席セリ。

地主側ハ

二十一、二日ニ亘リ親戚ノ者ト協議シタル處小作人側ノ希望ヲ容ルルモ自作農創設事業ニ對シ何等基本金ナクシテ將來圓滿ナル發達ヲナス見込アリヤ否ヤ頗ル不安ノコトニ屬ス依ツテ此ノ際此ノ點

ニ充分ナル研究ヲ爲サシムル必要アリト信ズ。而シテ此ノ不安ヲ一掃スルニ於テハ喜ンデ十九萬圓ニ應ズベシ。

委員會ハ右地主ノ申出ハ當ヲ得タルコトナレバ小作人側ニ對シ重ネテ注意ヲ促シタル處小作人側モ之ヲ諒トシ左ノ如ク申出デタリ。

一 自作農創設ニ附隨シテ準備金造成ハ極メテ必要ナル施設タルヲ自覺シタルヲ以テ一萬圓ヲ包含セシメ再ビ前ノ調停案通り二十萬圓トシテ契約スベシ

(該案ニ反對スル小作人ハ除外スル迄ナリ)

二 今回ノ調停ニ基キ自作農創設完了迄ノ小作料ハ左ノ通りトセラレタシ

畑小作料ハ反當三圓ヲ最高トシ以下順次遞減セシメ昭和八年度ノ例ニ據ラレタシ

田小作料ハ昨年度反當七斗五升ト變更シタルモ實際收穫ヲ見タル上ニテ決定シタルモノナレバ其

ノ例トセラレタシ

宅地料ハ昨年ノ例ニヨルト共ニ増額セラレタル公租、公課ヲ賦課セラルルモ不平ナシ

三 自作農創設資金借入ニ關スル人選ハ小作官ニ一任スベシ

右小作人側ノ申出デニ對シ地主モ好感ヲ以テ之ヲ迎へ十九萬圓ニテ分讓スルコトニ同意セリ。而シテ調停條項作成迄ニハ尙殘留小作人ノ調停申立ヲナサシムルコト及前項ニ付一般小作人ノ態度決定ヲ待ツノ要アレバ期日未定ノ儘延期セリ。

附記

一 六月五日小作官補ハ爭議地ニ出張小作人總代ヲ集メ左記事項ニツキ協議ヲ爲シ同時ニ左ノ通り決定セリ。

記

(一) 第七回調停委員會ニ於テ二十萬圓ニテ賣買ノコトニ決シタルニ付テハ前ノ査定額ニ六千圓ノ剩餘ヲ生ゼリ就テハ個人交渉ノ際發表セル額ヨリ平等ニ按分減額スルコト
(二) 現金買ヲ甲トシ年賦買ヲ乙トシ更ニ自作農創設資金ニ據ル者ヲ丙トシ六月八日迄ニ各部落毎ニ確定スルコト

而シテ人名表ヲ十日迄ニ小作官迄届出ヅルコト

(三) 自作農創設申請ニ就テハ此ノ際希望者全部ヲ以テ申請ヲナシ其ノ決定ニ付テハ縣ニ一任スルコト

(四) 水田ニ關スル自作農創設申請ハ目下水利關係ニテ行惱ノ點アレバ本年度ハ保留スルコト

(五) 山林拂下(二十萬圓ノ内ニハ山林拂下代金一萬圓ヲ含ム)ニ就テハ立木ヲ除キ土地ノミトシ緣故者ニ賣却スルヲ原則トスルコト其ノ價格ハ農場管理人ト直接交渉ヲナスコト

(六) 先般發表セル賣買價格査定ニツキ隣接地ト比較シ著シク公平ヲ失スルモノト思惟セラルルモノハ至急申出デ小作官ノ再査定ニヨリ變更スルコト

第八回(六月二十五日) 狩野村ニ於テ開會、委員會ハ先ヅ小作官補ノ其後ノ經過報告ヲ受ケタル後左記殘サレタル諸問題ニツキ双方ニ折衝ヲ遂ゲ同時ニ左ノ如ク決定セリ。

記

一 自作農創設資金ニ依ルモノト現金買及年賦買ニヨルモノノ價格ニ關スル件

右ハ登記料即チ千分ノ三十三ニ相當スル額ヲ後者ハ前者ヨリ減ズルコトニ決ス但シ二十萬圓ノ總額ニハ影響ナシ

二 所有權移轉時期ニ伴フ小作料支拂方ニ關スル件

本件ニ付テハ小作料支拂期日前ニ移轉シタル時ハ一期分ヲ免除スルコト

二 未納小作料ノ件

不日負債整理組合ヲ組織シ其ノ實行ヲ期スルコトニ内定シ居ルヲ以テ其ノ節農場管理人ト協定スルコトトシ本調停條項ヨリ除クコトトス

(目下未納小作料總額ニ於テ金三萬圓ヲ存シ居レリ關係小作人約三百名)

四 水田ノ水利問題ニ關スル件

目下農場管理人ト小作人間ニ水利問題ニ付交渉中ナルモ、不日水利組合ヲ組織スルコトニ決シ居レバ其組織ヲ待チ協定スルコトニ方針ヲ樹立シ本調停條項ニハ除クコトニ決セリ

右諸問題解決シタルヲ以テ調停主任ハ直ニ條文作成ニカカリ左記調停條項ヲ完成シ即席双方ニ發表スルト共ニ關係土地目錄ヲモ提示シ双方ノ快諾アリ調停成立セリ。

(三) 結 末

調停條項

第一 相手方ハ別紙目録小作人氏名欄記載ノ者ニ對シ各其頭書ノ土地中符號欄ニ甲又ハ乙ト表示シアル分(相手方ノ所有ニシテ從來同目録小作人氏名欄記載ノ者カ夫々相手方ヨリ小作シ得タル土地)ヲ各當該價格欄記載ノ代金ヲ以テ左記特約ノ下ニ賣渡スコト

(イ) 符號欄中甲ト表示シアル分ノ代金ハ昭和九年十二月二十日限り之ヲ支拂ヒ乙ト表示シアル分ノ代金ハ之ヲ三回ニ分チ毎回其三分ノ一宛ヲ昭和九年ヨリ同十一年迄毎年十二月二十日限り支拂フコト

(ロ) 賣渡土地ノ所有權ハ其賣買代金カ完済セラルル迄賣主ニ於テ之ヲ保留シ賣買代金カ完済セラレタルトキ初メテ買主ニ移轉スルコト

(ハ) 賣主ハ買主ヨリ賣買代金全部ノ支拂ヲ受ケ其賣買土地ノ所有權カ買主ニ移轉シタルトキハ之ト同時ニ買主ニ對シ其土地ノ所有權移轉登記手續ヲ爲スコト

(ニ) 買主カ土地賣買代金ヲ其支拂期日ニ支拂ハサルトキハ賣買契約ハ何等ノ意思表示ヲ要セス當然解除セラルルコト

此ノ場合ニ於テ賣主カ買主ヨリ賣買代金ノ一部ヲ受取リタルモノアルトキハ賣主ハ其受領シタル金圓全部ヲ返還スルコト
但シ利息ヲ附スルコトヲ要セス

第二 別紙目録小作人欄記載ノ者カ各其頭書ノ土地中符號欄ニ丙ト表示シアル分(相手方ノ所有ニシテ從來同目録小作人氏名欄記載ノ者カ夫々相手方ヨリ小作シ居タル土地)ニ付夫々昭和十二年

三月末日迄ニ自作農創設維持資金ヲ借受ケタルトキハ相手方ハ各其自作農創設維持資金ノ借受人ニ對シ各當該土地ヲ同目録當該價格欄記載ノ代金ヲ以テ賣渡シ買主ヨリ其代金ヲ受取ルト同時ニ買主ニ對シ其土地ノ所有權移轉登記手續ヲ爲スコト

第三 申立人等ハ相手方ヨリ本件ト同一條件ヲ以テ土地ヲ買受ケタル他ノ者全部ト共ニ自作農組合ヲ設立シ其組合事務ノ執行ニ付テハ栃木縣自作農係官ノ指揮ヲ受クルコト

第四 相手方ハ申立人等ヨリ前記第一、第二ノ土地賣買代金ヲ受領シタルトキハ其受領金額ノ百分ノ五ヲ前記第三ノ自作農組合ニ贈與スルコト

第五 相手方ハ前記第一、第二ノ土地買主ガ其賣買土地ノ所有權ヲ取得スル迄該土地ヲ左記ノ條件ニテ各買主ニ賃貸シ各買主ハ之ヲ賃借スルコト

(イ) 一ケ年ノ小作料ハ各別紙目録小作料欄記載ノ數額トシ畑宅地ノ小作料ハ毎年七月二十日及ヒ十二月二十日ノ二回ニ其各半ケ年分ヲ支拂ヒ田地ノ小作料ハ栃木縣農產物検査規則ニ依ル検査濟ノ玄米ヲ以テ毎年十二月二十日限り支拂フコト

(ロ) 小作料ハ何レモ栃木縣那須郡狩野村大字三島、三島農場事務所ニ於テ支拂フコト

(ハ) 賃借人ノ各自ノ賃借地ヲ他人ニ讓渡シ又ハ轉貸シ若クハ耕作ヲ他人ニ委託スルコトヲ得

(ニ) 賃借人ハ賃借地中ノ田地ニ關シ天災其他不可抗力ニヨリ減收ノ虞レアリト認メタル場合ニハ立毛刈取前十日ノ期間ヲ存シ賃借人ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ得

右ノ場合ニ於テ貸貸人ハ檢見ニ立會ヒ當事者間ニ於テ減免率ヲ協定ス萬一收穫高ニ付意見一致セサルカ減免率ノ協定調ハサルトキハ栃木縣小作官ニ申出テ同小作官若クハ同小作官ノ指定シタル者ノ査定ニヨリ決スルモノトス然レ共凶作ノ程度免租ニ達シタル場合ニ於テハ小作料ノ全額ヲ免スルモノトス

(ホ) 賃借人カ檢見ノ申出ヲ爲サスシテ刈取ヲ了シタルトキハ理由ノ如何ニ拘ラス減免ヲ爲サス又賃借人カ檢見ノ申出ヲ爲シルタニ拘ラス賃借人カ之ニ應セサリシトキハ收穫量ニ付テハ賃借人ノ査定ニ異議ヲ唱ヘ得サルモノトス

(ハ) 賃借人カ前記(イ)(ロ)(ハ)ノ各項ニ違背シタル場合賃貸借契約ハ何等ノ意思表示ヲ要セスシテ當然解除セラレ賃借人ハ賃借人ニ對シテ直ニ賃借地ノ返還ヲ爲ス可ク其返還ニ付賃借人ヨリ強制執行ヲ受クルモ異議ヲ述ヘ得サルコト

第六 前記第一、第二ノ賣買土地ニ付賣主ヨリ買主ニ對スル所有權移轉ノ時期カ前記第五ノ小作料納期以前ナルトキハ田地ニ付テハ其小作料一ヶ年分全額畑宅地ニ付テハ其半ヶ年分ノ小作料ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス、但シ右小作料納期ヲ一日タリトモ經過シタルトキハ前記小作料ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第七 前記第一ノ土地賣買契約カ買主ニ於テ土地代金ノ支拂ヲ怠リタル爲解除セラレ買主ニ於テ其所有權ヲ取得スルコトヲ得サルニ至リタルトキ及前記第二ノ土地賣買契約ニ付買主ニ於テ昭和十二年三月末日迄ニ自作農創設維持資金ノ借受不能ニシテ賣買契約ガ其效力ヲ生セサリシトキハ相

手方ハ其土地買受人ニ對シ期間ヲ昭和十三年十二月末日迄トシ從前通りノ條件ヲ以テ其土地ヲ賃貸シ土地買受人ハ之ヲ賃借スルコト但シ賃借人カ賃借人トシテノ義務ニ違背シタル場合ハ即時賃貸借契約ハ消滅ニ歸シ賃借人ハ賃借人ニ對シ土地返還ヲ爲スヘク其返還ニ付賃借人ヨリ強制執行ヲ受クルモ賃借人ハ異議ヲ述ヘ得サルモノトス

若シ賃借人カ賃貸借契約期間終了後モ引續キ耕作希望アル場合ニハ賃借人トシテノ義務ニ付不履行ノ責ナク又賃借人ニ於テ甚タシキ事情ノ變更ナキ限り賃借人ハ賃借人ニ對シ從前ト同一條件ヲ以テ其土地ヲ賃貸スルコト

第八 前記第五ノ賃貸借契約ニ付賃借人カ其(イ)(ロ)(ハ)ノ條項ニ違背シタル場合ハ其賃借人ト賃借人即チ相手方トノ間ニ於ケル前記第一、第二ノ各土地賣買契約ハ何等ノ意思表示ヲ要セスシテ即時消滅スルコト

第九 申立人等ハ相手方等ニ對シ別紙目錄掲記ノ土地ニ付開墾費其他如何ナル名目ニ於テスルモ財產上ノ請求ヲ爲ササルコト

第十 本件調停費用ハ各自辨ノコト
土地目錄略ス

一〇 群馬縣勢多郡荒砥村大字東大室

(競落地ニ對スル小作契約)

爭議發生 昭和九年二月二十八日

調停申立 昭和九年六月四日

解 決 昭和九年七月四日

關係人員 爭議 地主 二人 小作人 一人
 調停 右ニ同ジ(小作人申立) 利害關係人 三人

關係土地 爭議 田 三反八畝十三步 畑 一反八畝九步 宅地 三百八坪
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

荒砥村大字東大室ナル福島某ハ元右土地ヲ所有シ居リシガ地主吉田某及其弟竝ニ同人等ノ父ノ三名ニ對シ合計二千五百圓ノ借財ヲ有シ本件土地ヲ擔保ニ供シ居リ内千二百五十圓ヲ支拂ヒタルモ其ノ餘ノ元利金ノ支拂ヲ爲サザリシ爲抵當權ヲ實行セラレ昭和六年三月三十一日競賣トナリ右債權者ナル地主吉田某及其弟ノ兩名ニ於テ之ガ競落ヲ爲シタリ。然ルニ前記福島某及同人ノ實父ニシテ別籍ニアリ而シテ同居シ居ル板野某竝福島某ノ母某ハ右土地ヲ占有シテ其引渡ヲ爲サザリシヲ以テ該競落者タル吉田某等ハ之ガ引渡命令ヲ申請シテ其引渡ヲ受ケタルニ偶々同年五月福島某ヨリ土地ヲ小作シ居リタル山田某ナル者本件畑地ノ桑樹ヲ伐採シタル處右吉田某等ハ激昂シテ福島某及板野某等ノ所爲ナリト誤認シ昭和六年十二月右兩名ニ對シ竊盜ノ告訴ヲ爲シタリ。依リテ福島、板野等ハ之ニ憤慨シテ直ニ誣告ノ告訴ヲ提起セムトシタルモ斡旋者アリテ之ヲ中止シタリ。而シテ地主吉田某等ハ板野某ヲシテ本件土地ヲ耕作セシメ近ク同人等ニ該土地ヲ賣却セムトスル考ノ下ニ小作料ヲモ定メズ單ニ占有耕作ヲ爲スガ儘ニ放置セリ。

斯クシテ土地ハ競落後モ地主ノ支配ニ歸セザリシヲ以テ吉田某兄弟ハ福島某及其母ヲ相手方トシテ昭和八年六月十日及十六日ニ事件ヲ三件ニ分チテ土地引渡請求ノ訴訟ヲ提起シ内二件ニ付テハ併合ノ上昭和九年二月二十八日、一件ニ付テハ同年五月二十二日何レモ土地ヲ地主ニ明渡スベキ旨ノ判決アリ、後ノ事件ニ付テハ小作人ハ六月十三日附ヲ以テ控訴ヲ爲シタリ。

而シテ右判決ニ基ヅキ地主ニ於テ之ヲ福島某及其母ヨリ土地ヲ引上ゲ他ニ賣却セムトシタル處現ニ前記事情ノ下ニ耕作シ居リタル板野某ハ斯クテハ耕作ヲ繼續シ得ザルコトトナリ、尙其ノ目的トスル土地買取リヲモ實現シ得ザルヲ以テ地主ニ對シ進ンデ買取リ又ハ賃貸借契約ノ交渉ヲ爲シタルニモ拘ラズ地主ハ右土地ノ賣却ニ付周旋業者ヲシテ多方面ニ交渉ヲ爲サシメ遂ニ昭和八年五月二十日日本件土地全部ヲ前橋市新町宮澤某ナル周旋業者ニ代金一千五百圓ヲ以テ賣渡スベキ契約ヲ爲シ尙前記訴訟關係一切ヲ右宮澤ニ委任スルニ至レリ。而シテ先ヅ繫争土地中既ニ裁判確定セル田一筆畑二筆ニ付昭和九年六月三日引渡ノ強制執行ヲ了シ尙宅地ニ付テハ建物收去命令ヲ申請シ別ニ田一筆畑三筆ニ付テハ前橋地方裁判所ニ於テ控訴事件トシテ抗争中ニアリシガ昭和九年六月四日ニ至リ右板野某ヨリ小作契約ノ締結及小作料決定等ニ關スル小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年六月二十日前橋地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會開カレタル處申立人タル小作人ハ本件土地ヲ耕作シテ一家ノ生活ヲ維持シ宅地ニハ建物ヲ建テ之ニ居住シ居ルノ状態ニシテ該土地ヲ他ニ賣却セララルルニ於テハ小作人一家ハ全ク路頭ニ迷フノ實情ニアルヲ以テ右土地ヲ相當價格ニテ申立人ニ

賣却スルカ然ラザレバ適當ナル小作料ヲ定メテ永年小作セシムルコトヲ要望スト主張シ之ニ對シ相手方タル地主ハ本件土地ニハ訴訟等複雑ナル關係アリテ現ニ宮澤某ナル者ニ賣渡契約濟ナリ。故ニ小作人ノ要求ニ對シ現在ニ於テハ自己ノ意志ヲ以テ交渉シ得ザルモノナリト主張セリ。依リテ關係者ノ出頭ヲ要スル爲期日ヲ續行スルコトナレリ。次デ六月二十七日ノ第二回調停委員會ニ於テ利害關係者全員出頭シ地主及利害關係人タル土地買取契約者ハ從來ノ小作人及小作人側ノ利害關係人ニ對スル訴訟關係事實等ヲ述ベテ到底小作人等ノ賃借希望ニ應ズル能ハズト主張シタル處小作人ハ相當價格ニテ買取リヲ希望スル旨ヲ主張セルヲ以テ其價格ニ付下方ニ於テ交渉ヲ爲サシムベク更ニ期日ヲ續行セリ。第三回調停委員會タル七月四日ニ小作人ハ土地賣買交渉成立ノ見込ナキヲ述ベテ專ラ賃借ノ要求ヲ爲シタル處利害關係人ニシテ現ニ土地買取契約ヲ爲セル宮澤某ハ既ニ判決ニ基キ土地明渡ノ強制執行濟ナル田及畑ニ付テハ栗原某ニ貸付濟ニシテ此ノ分ニ付テハ既ニ處分濟ナル事情ヲ明カニシタルヲ以テ調停委員會ハ爭議ノ經過ト當事者ノ實情ニ鑑ミテ調停ニ努メ遂ニ左記條項ヲ以テ調停成立スルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人(小作人)板野某及利害關係人福島某、同福島某(上記福島某ノ母)ハ別紙記載土地(略)ノ所有權カ相手方吉田某兩名ヨリ利害關係人宮澤某ニ移動シタルコトヲ承認スルコト
- 二 申立人ハ別紙記載土地(略)中勢多郡荒砥村大字東大室字下清龍五百五十五番ノ二田一反一畝

十六步同所字中神澤七十九番田二反七畝二十四步同所字下清龍五百六十一番畑四畝十七步同所五百六十二番畑二畝四步ノ四筆ノ土地ニ付利害關係人宮澤某ニ其ノ占有ヲ移轉スルコト(但シ既ニ引渡ヲ了シタリ)

- 三 利害關係人宮澤某ハ申立人及利害關係人福島某等ニ對シ昭和九年度ヨリ勢多郡荒砥村大字東大室字下清龍五百五十一番ノ一畑三畝步同所五十九番畑四畝十三步同所五百六十番ノ一畑四畝五步ノ土地ヲ合セテ小作料一ヶ年金十三圓八十錢トシ申立人及利害關係人福島某等ハ之ヲ毎年七月末日及十二月二十日限り各金六圓九十錢宛利害關係人宮澤某ニ持參支拂フ約ニテ期間ヲ定メス賃貸スルコト但シ昭和九年度分小作料ハ昭和九年十二月二十日限り金六圓九十錢ヲ支拂フコト

- 四 利害關係人宮澤某ハ申立人及利害關係人福島某等ニ對シ昭和九年度ヨリ勢多郡荒砥村大字東大室字中清龍六百四十九番宅地三百八坪ヲ賃料一ヶ年金二十三圓トシ申立人及利害關係人福島某等ハ之ヲ毎年七月末日及十二月二十日限り各金十一圓五十錢宛利害關係人宮澤某ニ持參支拂フ約ニテ期間ヲ定メス賃貸スルコト但シ昭和九年度分賃料ハ昭和九年十二月二十日限り金十一圓五十錢ヲ支拂フコト

- 五 申立人及利害關係人福島某等第三、第四項ノ賃貸借ニ付連帶責任ヲ負擔スルコト
- 六 申立人及利害關係人福島某等ハ第三、第四項ノ賃料ノ支拂ヲ一ヶ年分忘リタルトキハ第三、第四項記載ノ土地ヲ利害關係人宮澤某ノ請求ニヨリ直ニ有形ノ儘ニテ返還スルコト但シ宅地ハ利害

關係人福島某ニ於テ勢多郡荒砥村大守東大室宇中清龍六百四十九番所在木造草葺平家建本家一棟
(建坪二十八坪五勺) 同上附屬木造杉皮葺平家建便所一棟(建坪五合) 及木造亞鉛葺二階建蠶室
一棟(建坪十九坪五合)ノ地上建物ヲ收去シテ返還スルコト

七 申立人及利害關係人福島某等ハ第三、第四項記載ノ土地ニ付之ヲ轉貸シ又ハ其ノ賃借權ノ讓渡
其ノ他占有移轉行為ヲ爲ササルコト

若シ申立人及利害關係人福島某等ニ於テ之ニ違背シタルトキハ利害關係人宮澤某ノ請求ニ依リ第
三、第四項ノ土地ヲ直ニ有形ノ儘ニテ返還スルコト但シ宅地ハ利害關係人福島某ニ於テ第六項記
載ノ地上建物ヲ收去シテ返還スルコト

八 相手方吉田某兩名ハ申立人及利害關係人福島某等ニ對シ別紙記載土地(略)ニ對スル從來ノ損
害金ヲ請求セサルコト

九 相手方吉田某(兄)ハ利害關係人福島某ニ對シ提起セル前橋區裁判所昭和八年(ハ)第四五五號
土地引渡請求控訴事件ヲ遲滞ナク取下ケ、該事件ノ訴訟費用ハ當事者ノ各自辨タルコト

一〇 相手方君田某(弟)ハ利害關係人福島某ヲ相手方トシテ申請セル前橋區裁判所昭和九年
(カ)三九號建物收去命令申請事件ヲ遲滞ナク取下ケ右事件ノ申請費用ハ當事者ノ各自辨タルコ
ト

一一 群馬縣山田郡矢場川村大字大町 (小作繼續)

爭議發生 昭和九年四月十八日

調停申立 昭和九年六月二十一日
解 決 昭和九年七月十七日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 七反五畝二十步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ栃木縣足利郡山邊村大字八幡永倉某ナル者ノ所有ニシテ小作人西田某ハ田三反九畝一步
ヲ小作料玄米十俵三斗ニテ大正十一年頃ヨリ同須永某ハ二反五畝十步ヲ小作料玄米六俵一斗ニテ大正
四年頃ヨリ小作シ又同山田某ノ小作セル一反一畝九步ニ付テハ元同人所有ナリシヲ三、四十年前ニ足
利市ノ柳田某ニ賣却シ更ニ現地主永倉某ノ所有ニ歸シタルモノニシテ此間引續キ小作料玄米三俵一斗
ニテ小作シ來リタルモノナリ。而シテ西田某ノ小作セル一筆ニ付テハ昭和八年二月十九日ヨリ昭和十
三年二月十八日迄ノ賃借期間ヲ定メタルモ其ノ他ハ何レモ賃借期間ノ定メナキモノナリ。

斯クシテ小作人等ハ小作料ノ滯納等モナク現在ニ至リシガ矢場川大字大町齋藤某ナル女地主ガ其ノ
義弟ナル須藤某ト頗ル不和ニシテ常ニ爭ヲ爲シ訴訟ニ依ル繋争等少カラザリシガ偶々同部落ニ存スル
農事改良團體タル農事組合ノ組合長トシテ右須藤某ガ選任セラレ前記小作人等ハ何レモ其組合員ナル
ト一方地主齋藤某ト其小作人トノ間ニ曩ニ刑事々件アリテ本件小作人等ガ其小作人側ヲ援助セルトニ

ヨリ右齋藤某ノ感情ヲ害スルコト甚シク其報復手段トシテ右齋藤某ハ其甥ニ當ル本件地主ニ迫リテ右土地賃貸ニ關スル權利ノ委任ヲ受ケ昭和八年十二月三十日本件土地ハ何レモ他ニ賃貸契約濟ナリト稱シテ昭和九年三月限り土地返還ノ要求ヲ爲セリ。

次デ昭和九年四月十八日内容證明郵便ヲ以テ即時土地返還ヲ要求シ尙自身右小作人宅ヲ歴訪シテ小作證書ノ返附ヲ爲シタリ。

之ニ對シ小作人ハ昭和九年四月十九日内容證明郵便ヲ以テ地主ノ要求ノ不當ナルヲ主張シテ不承諾ナル旨ヲ回答シ全國農民組合強戸支部幹部指導ノ下ニ之ト對抗ヲ策シ其態度強硬ナリシヲ以テ地主齋藤某ハ辯護士ニ依頼シテ訴訟手段ニ出ズベグ決意シ昭和九年五月二十一日其手續トシテ前記ノ即時土地返還要求ヲ取消シ改メテ内容證明郵便ニヨリ民法第六百十七條ニ依ル解約ノ申入ヲ爲シタリ。

該事情ヲ詳知セル矢場川村助役及小作調停委員等ハ其成行ヲ憂ヘ地主永倉某宅ニ至リテ妥協ヲ勸告シタル處同地主ハ強ヒテ返地要求ノ意志ナク全ク前記叔母齋藤某ノ獨斷ニ出デタルモノナルコトヲ辯明スルノミナリシヲ以テ右調停者ハ更ニ齋藤某ニ付其ノ意志ヲ確メタル處同人ハ頑トシテ土地返還要求ノ意志貫徹ヲ主張シテ如何トモ爲スヲ得ズ、爲ニ該斡旋ヲ打切ルノ已ムナキニ至リタリ。斯クノ如クシテ其ノ後小作人ハ之ガ解決ノ困難ナルヲ察シ昭和九年六月二十一日前橋地方裁判所へ小作繼續ノ調停申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年六月二十六日其ノ第一回調停委員會開カレタル處地主ハ病氣ト稱シテ出頭セズ小作人ハ地

主ノ土地返還要求ハ全ク感情上ヨリ來ル挑戰的要求ニシテ何等其ノ必要ナキモノナルヲ以テ之ニ應ズル能ハズトヲ主張シタリ。依リテ七月十七日第二回調停委員會開カレタル處地主ハ本件土地ノ賃貸ニ關スル一切ノ權利ハ齋藤某ナル者ニ委任シアルヲ以テ自身之ガ決定ヲ爲シ得ザルノ事情ヲ開陳シテ調停ヲ回避セムトシタルモ調停委員會ノ斡旋ニヨリ左記條項ヲ以テ調停ノ成立ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方(地主)ハ申立人(小作人)西田某ニ對シ群馬縣山田郡矢場川村大字大町字市場前四九九番畑(現状ハ田)二反四畝十七步及同郡毛里田村大字市場字前原二百二十二番田一反四畝十四步ヲ賃料一ヶ年粳玄米十俵三斗トシ之ヲ毎年十二月二十五日迄ニ申立人西田某ヨリ相手方住所ニ持參支拂フ約ニテ期間ノ定ナク賃貸スルコト
- 二 相手方ハ申立人須永某ニ對シ群馬縣山田郡毛里田村大字市場字前原二百二十九番ノ甲田一反七畝二十八步及同所二百二十九番ノ乙田七畝十二步ヲ賃料一ヶ年粳玄米六俵一斗五升トシ之ヲ毎年十二月二十五日迄ニ申立人須永某ヨリ相手方住所ニ持參支拂フ約ニテ期間ノ定メナク引續キ賃貸スルコト
- 三 相手方ハ申立人山田某ニ對シ群馬縣山田郡矢場川村大字大町字海道上乙三百六十五番田三畝九步及同所三百七十番田八畝步ヲ賃料一ヶ年粳玄米三俵一斗トシ之ヲ毎年十二月二十五日迄ニ申立

人山田某ヨリ相手方住所ニ持參支拂ノ約ニテ期間ノ定ナク引續キ貸貸スルコト
 四 申立人等ガ夫々右賃料ノ支拂ヲ遲滞シタルトキハ相手方ハ三十日ヲ下ラザル期間ヲ定メテ其支拂ヲ催告シ其期間内ニ尙支拂ナキトキハ本件賃貸借契約ハ當然解除セラレ申立人等ハ該期間満了ト同時ニ夫々第一項乃至第三項ノ賃借土地ヲ有形ノ儘ニテ相手方ニ返還スルコト
 五 申立人等ハ相手方ノ承諾ナクシテ本件各其ノ賃借地ヲ轉貸シ又ハ其ノ賃借權ヲ讓渡シ若シクハ占有權移轉ノ行爲ヲ爲ササルコト

一二 群馬縣群馬郡東村大字稻荷新田 (公正證書ニ依ル執行土地ノ小作繼續)

爭議發生 昭和八年六月十六日
 調停申立 昭和九年八月二十七日
 解 決 昭和九年九月二十一日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人
 調停 右ニ同ジ(小作人申立)
 關係土地 爭議 田 五反七畝二十五步 畑 三反二畝三步
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人柴田某ハ前記土地ヲ擔保トシテ高崎市花村某其他ヨリ借財ヲ爲シ居リタル處之ガ支拂ニ窮シ地主柴田某ニ對シ該土地ヲ賣渡シ地主ニ於テ右土地代金ヲ以テ借財ノ辨濟ヲ爲スベキ契約ヲ結び大正

十二年十月八日反當金八百圓ノ割合ヲ以テ右土地ノ賣買登記ヲ了シ尙小作人柴田某ニ於テ該土地ヲ小作スルコトトナリタリ。

然ルニ右土地中ノ田二反八畝二十一歩ニ付テハ其ノ後兩當事者間ニ協議成リテ自作農創設資金九百圓ヲ借入レ之ヲ買戻シテ自作シ居リシガ地主ガ小作人ノ不在中ニ其ノ家族ヲ動カシ該土地ニ二番抵當權ヲ設定セシメタリトテ紛議ヲ生ジタルモ結局該二番抵當權ハ消滅セシメタリ。然ルニ小作人ガ他ノ債權ノ辨濟ヲ怠リタル爲遂ニ土地ハ競賣ニ附セラレ其ノ所有權ヲ失フニ至レリ。

而シテ其ノ後モ本件地主小作人間ニハ紛爭絶ユルコトナカリシガ昭和七年一月十九日兩者間ニ示談成立シテ本件土地中前記競賣土地ヲ除キ其ノ他ノ土地全部(田二反九畝四步、畑三反二畝三步)ヲ小作人ニ於テ田ハ一ヶ年玄米三石一斗一升九合畑ハ金五十二圓四十七錢ニテ昭和七年一月二十九日ヨリ同十五年一月二十八日迄賃借スルコトトナリ、小作料ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ土地ハ作付ノ儘ニテ返還スルコト尙小作料ノ支拂ニ付テハ強制執行ヲ受クルモ異議ナキコト等ノ條件ヲ附シテ公正證書ヲ作成シタリ。

然ルニ小作人ハ前記債務ノ辨濟ヲ右地主ノ外更ニ同人ノ義兄ナル秋谷某ナル者ニ依頼シ居リ、右秋谷某ガ債權者花村某ニ對シ辨濟セル金六百圓ニ付テモ地主ハ自身ニ於テ辨濟セルガ如キ計算ヲ爲シテ前記示談ヲ成立セシメタルモノナレバ所謂錯誤ニ依ル契約成立ナルヲ以テ右示談條項ハ無効ナルモノナリト主張シテ小作人ハ昭和七年度小作料ヲ支拂ハズ。依リテ地主ハ右小作料及土地明渡ノ強制執行ヲ爲シタル處之ニ對シ小作人ヨリ異議ヲ述ブルニ至リ、遂ニ地主ハ昭和八年六月十六日前橋地方裁判

所へ土地明渡ノ請求訴訟ヲ提起スル處アリタリ。而シテ昭和九年七月十九日小作人ハ其ノ賃借土地ヲ作付ノ儘地主ニ返還スベキ旨ノ判決アリタリ。然ルニ小作人ハ之ヲ不服トシテ東京控訴院ニ控訴シ又小作料ノ強制執行ニ對シテハ小作人ハ其ノ差押ヲ受ケタル藪ハ柴田合資會社ノ所有ニシテ小作人ノ所有ニアラズトテ異議ヲ唱へ訴訟繫屬中ニアリシガ其ノ後小作人ヨリ昭和九年八月二十七日小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年九月七日前橋地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會開カレタル處小作人ハ本件土地ヲ引上ゲラルルニ於テハ生活ニ支障ヲ生ズルノ實情ニアリトテ昭和九年ヨリ向フ十ヶ年間ノ賃借ヲ要求シ而シテ義兄秋谷某ノ債權者花村某ニ對スル辨濟金ニ付テハ別ニ訴訟ニヨリテ争フベキ旨ヲ主張シタルニ對シ地主ハ小作人ノ過去ニ於ケル不信行爲ヲ責メ其人物ノ全然信用シ得ザルヲ述ベテ今回ハ訴訟ニヨリ飽ク迄其ノ目的ヲ遂行セムトスル考ヘナリト主張セリ。

次デ九月十四日第二回調停委員會開カレタルモ尙成立ニ至ラズ依リテ九月二十一日ノ第三回委員會ニハ利害關係人秋谷某ヲ參加セシメ極力調停ニ努メタル處利害關係人ハ小作人ノ窮狀ニ同情シ且其ノ義兄弟トシテ深キ親戚關係ニアルヲ以テ之ヲ放任スルニ忍ビズトテ今後ノ保證責任ヲ負フベキコトヲ進ムデ明言スルニ至リタルヲ以テ遂ニ左記條項ヲ以テ調停成立ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方(地主)ハ申立人(小作人)ニ對シ群馬郡東村大字稻荷新田字東村三十三番田七畝十一歩同所字社巡五十四番田一反六畝二歩同所字稻荷北九十八番田二十二歩同村大字箱田字張近千二百六十五番田四畝二十九歩ヲ引續キ賃料合計一ヶ年玄米三石一斗一升九合トシ申立人ハ之ヲ毎年十二月二十日限り相手方ニ持參支拂ノ約ニテ期間ヲ昭和十四年六月末日迄ト定メ賃貸スルコト
 - 二 申立人ニ於テ第一項ノ小作料ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ申立人ハ第一項記載ノ土地ヲ相手方ノ請求ニヨリ直ニ有形ノ儘ニテ返還スルコト
 - 三 相手方ハ申立人ニ對シテ群馬郡東村大字川曲字伊勢六十二番畑四畝十五歩外五筆(土地物件記載省略)計二反七畝十八歩同所字稻荷北甲九十六番ノ一田一畝歩ヲ引續キ賃料一ヶ年金五十圓トシ申立人ハ之ヲ毎年六月末日限り相手方ニ持參支拂ノ約ニテ期間ヲ昭和十三年九月末日迄ト定メ賃貸スルコト
 - 四 申立人ニ於テ第三項ノ小作料ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ申立人ハ第三項記載ノ土地ヲ相手方ノ請求ニ依リ直ニ有形ノ儘ニテ返還スルコト
 - 五 利害關係人秋谷某ハ第一項及第三項ノ賃貸借保證責任ヲ負フコト
 - 六 申立人ハ第一項及第三項記載ノ土地ニ付之ヲ轉貸シ又ハ其ノ賃借權ノ讓渡其ノ他占有移轉行爲ヲ爲ササルコト
- 若シ申立人ニ於テ之ニ違背シタルトキハ相手方ノ請求ニ依リ申立人ハ第一項及第三項ノ土地ヲ直ニ有形ノ儘ニテ返還スルコト

七 申立人ハ第一項記載土地ニ對スル昭和八年度小作料玄米三石一斗一升九合ヲ分割シ内玄米三斗一升九合ヲ昭和九年十二月二十日限り相手方ニ持參支拂ヒ其殘額玄米二石八斗ハ昭和十年及昭和十一年ノ各十二月二十日限り玄米二俵宛昭和十二年十二月二十日限り玄米三俵ヲ相手方ニ持參支拂フコト

八 申立人ニ於テ第一項ノ分割支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ相手方ノ請求ニ依リ期限ノ利益ヲ失ヒ殘額ヲ一時ニ相手方ニ支拂フコト

九 申立人ハ第三項記載土地ニ對スル昭和七年及昭和九年度分小作料（但シ昭和八年度分小作料ハ相手方ニ於テ請求セス）金百四圓九十二錢ヲ分割シ内金二十五圓ハ昭和九年十月二十日限り其ノ殘額七十九圓九十二錢ハ昭和十年ヨリ昭和十二年迄毎年九月末日限り金二十六圓六十四錢宛相手方ニ持參支拂フコト

一〇 申立人ハ第九項ノ分割支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ相手方ノ請求ニ依リ期限ノ利益ヲ失ヒ殘額ヲ一時ニ相手方ニ支拂フコト

一一 申立人ガ第九項ノ金二十五圓ヲ昭和九年十月二十日限り相手方ニ持參支拂ヒタルトキ相手方ハ前橋地方裁判所々屬公證人高橋某作成第二四、九七一號執行力アル公正證書正本ニ基キ昭和八年六月十日申立人ニ對シテ爲シタル強制執行ヲ解放スルコト

一二 相手方ハ申立人ニ對シテ提起セル前橋地方裁判所昭和八年（ワ）第七六號土地引渡請求事件（目下上訴中）ヲ遲滯ナク取下ケ申立人ハ右取下ニ同意スルコト

該事件ノ訴訟費用ハ當事者ノ各自辨タルコト

一三 申立人及利害關係人ハ第十二項ノ訴訟事件ニ付爲シタル昭和七年一月十九日ノ示談契約ニ違背アリトノ主張竝其ノ他何等ノ主張ヲ相手方ニ對シテ爲ササルコト

一三 埼玉縣大里郡男衾村大字富田（舊地主ノ小作要求）

爭議發生 昭和九年一月十日

調停申立 同年五月一日

解 決 同年七月二十四日

關係人員 爭議 新地主 一人 舊地主 一人
調停 新地主 一人 舊地主 一人 參加人 三人（舊地主申立）

關係土地 爭議 畑 三反三步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議 概況

舊地主新井某申立人ハ第三者ノ債務ニ對スル擔保トシテ提供シタル前記畑地ヲ岩崎某ノ爲競落セラレタル爲耕作繼續竝ニ買戻シノ交渉ヲ試ミタルモ新地主ノ容ルル處トナラズ却ツテ耕作ニ着手セラレタル爲遂ニ耕作要求ノ調停ヲ熊谷支部ニ申立タリ。

(二) 調停ノ經過

本件畑ハ元申立人新井ノ先代ノ所有ナリシガ先代ハ村松某ヨリノ借財ニ對シ之ヲ抵當ニ供シタル儘

明治四十四年柴崎某ニ賣却右柴崎ハ債務者新井某(甲)ニ對スル債權取立ノ爲新井(甲)ヲシテ頼母子講金ヲ受領セシムベク該畑ヲ新井(甲)ノ爲擔保ニ供シ其儘再ビ大正九年四月本件申立人新井某ノ先代某ニ賣却セシヨ相續シ今日ニ至レルモノナリ。然ルニ新井(甲)ハ頼母子講金ノ償還ヲ怠リタル儘死亡シ其ノ相續人ニ於テモ尙之ヲ支拂ハザリシ爲同講幹事大澤某ハ昭和八年十一月自己ノ債權者タル本件相手方岩崎某ニ協議ノ上該畑ヲ競落セシメタルモノニシテ此ノ外申立人新井ノ先代某ハ自己所有及前記柴崎某所有ノ田三反歩ヲ抵當トシテ農工銀行ヨリ金七百圓ヲ借受ケ現在尙未償還金二百九十餘圓ヲ存セリ。以上ノ如ク複雑セル貸借關係アリ且關係者ノ何レモガ死亡シ其ノ子又ハ孫ニテ事情判明セザルノ状態ニアリ柴崎某ノ子、新井某(甲)ノ孫及大澤某ヲ利害關係人トシテ調停ニ參加セシメ委員會ヲ重ネルコト四回ニ及ビ七月二十四日次ノ調停條項ヲ以テ解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人新井某ハ
大里郡男衾村大字富田字長ヶ谷戸三千四十三番ノ一畑二反三步ノ土地ニ對スル相手方岩崎某ノ耕作ニ對シ何等異議ヲ言ハサルコト
- 二 參加人柴崎某ハ申立人新井某ニ對シ昭和九年八月三十日限り金百圓同年十二月二十日限り金百圓ヲ贈與スルコト
- 申立人新井某ハ先代某ガ柴崎某ノ先代某所有名義ノ土地

大里郡男衾村大字富田字中六反田

二千五百二十一番

一 田一反七畝二十四歩

同 所

二千五百三十一番地ノ二

一 田六畝二十九歩

ヲ抵當トナシ大正九年九月二十日株式會社埼玉農工銀行ヨリ借用シタル年賦金ヲ完済シ且右土地カ柴崎某ノ所有ナルコトヲ承認シ之ニ對シ異議ヲ言ハサルコト

三 參加人大澤某ハ申立人新井某ノ先代カ第一項記載土地ヲ抵當トシテ村松某ヨリ借用シタル金員二口ヲ申立人新井ノ先代ニ代リ辨償シタルニヨリテ申立人新井某ニ對シ有スルニ至リタル求償ノ債權ヲ拋棄スルコト

四 參加人新井某(甲)ハ第一項記載ノ土地カ競賣セラルルニ至リタル關係上申立人新井某ノ蒙リタル損害ヲ金二百圓トシ同金員ヲ申立人新井某ニ辨償スルコト

同辨償金ノ支拂ハ昭和九年八月三十日同年十二月十日昭和十年六月三十日同年十二月十日ノ四回ニ毎回金五十圓宛支拂フコト

五 調停費用ハ各自辨ノコト

一四 千葉縣東葛飾郡高木村大字金ヶ作 (小作契約繼續)

爭議發生 昭和九年十月九日

調停申立 昭和九年十月九日

調停成立 昭和九年十二月二十六日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 二町九反九畝十九步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人大橋某ハ地主石川某ヨリ前記ノ土地ヲ大正七年ヨリ大正十五年ノ間ニ三回ニ區分借入松林及桐林ヲ開墾ノ上小作シ來リシガ地主ハ昭和六年來該地ガ共同墓地トシテ買收セラルルニ依リ開墾費用ヲ給スベキヲ以テ返還サレタシト申出デタリ。小作人ハ之ヲ承諾シ同年度ノ小作料ハ右對價ト相殺スル意味ニテ支拂ハズ昭和七、八年度ハ凶作ノ爲ニ小作料全免或ハ減額ノ要求ヲ爲シ之亦支拂ハズシテ小作ヲ繼續セルヲ以テ地主ハ小作人ニ無斷ニテ他ト小作契約ヲ爲シタルヲ以テ爭議トナリタルモノナルガ、小作人ハ地主ノ開墾補償反當リ二十圓ノ申出ヲ承諾シ返還土地ニ應ズルコトトナリ居タルガ、昭和七、八年ハ凶作ナリシ爲ニ小作料ノ免除及減額ヲ要求シ居タルニ無斷ニテ小作人ヲ變更シタルハ不都合ナリトテ辯護士ヲ代理人トシ開墾手数料二百圓竝ニ凶作ノタメ畑地ニテ蒙リタル損害金支拂ノ調停申立ヲ爲シタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過及結末

昭和九年十一月七日、同年十二月二十六日ノ前後二回ノ調停委員會開催ノ上左記條項ヲ以テ解決シタリ。

調停條項

- 一 申立人ハ千葉縣東葛飾郡高木村金ヶ作字海道四〇八番ノ一所在ノ畑九反八畝二十六步、同所畑八反六畝十一步、同番ノ五畑一町一反四畝十二步ノ耕作地ニ關シ賃借權ノ存在セサルコトヲ承認スルコト
- 二 相手方ハ申立人カ大正八、九年中本件賃借ニ係ル耕作地ヲ自費ヲ以テ開墾シタル事績ニ鑑ミ前記土地ノ延滞料合計金四百四十九圓六十三錢ヲ免除スルコト
- 三 相手方ハ申立人ニ對シ昭和九年十二月三十日限り涙金トシテ金百五十圓ヲ贈與スルコト
- 四 申立人ハ前項以外ノ本件土地ニ關スル開墾ニ因ル改良費又ハ有益費及相手方カ不法ニ申立人ノ賃借權ヲ侵害シタルコトヲ事由トスル損害賠償請求權等一切ノ權利ヲ拋棄シ又相手方ニ於テモ本件土地ニ關スル爾餘ノ請求ハ總テ拋棄スルコト

一五 横濱市中區最戸町 (小作地返還要求)

爭議發生 昭和九年三月二十日

調停申立 昭和九年六月二十九日

解決 昭和九年九月二十二日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 九人
調停 右ニ同シ(地主申立)

關係土地

爭議 田 一町〇反二畝二十六步
畑 一町一反四畝三步
計 二町一反六畝二十九步
調停 右ニ同シ

(一) 爭議ノ概況

右關係土地ハ何レモ地主タル千手院ノ檀家小作人(檀家總代全部ヲ占ム)ニ於テ永年繼續小作(但シ約五年毎ニ小作人間ニ於テ便宜割換ヘ耕作ス)ヲ爲シ來レルモノナルガ大正十二年關東大震災當時倒潰セル同院ノ復興ニ絡ミ檀家小作人ハ金錢其ノ他院所有財産問題等ヨリ全然住職ヲ信任セザルニ至リ、同住職ニシテ永ク留任スルニ於テハ遂ニ廢除ノ止ムナキニ至ルベキヲ憂ヘ昭和八年十月同宗管長宛任職即時罷免願ヲ提出スルト共ニ同年分田畑小作料ヲ申合セ滯納シタル爲ニ爭議ノ勃發ヲ見タルモノニシテ地主千手院住職ハ先ヅ檀家總代ノ改選ヲ企圖シ舊檀家數ヲ遙カニ超過スル新檀家ヲ糾合シ九年四月三日總代選舉ヲ決行シ何レモ所謂新檀家中ヨリ當選セシメタリ。

茲ニ於テ住職ハ四月中旬新檀家總代宮川某外二名ヲ帶同シ舊檀家ニ右届出調印ヲ要求スルト共ニ嚴重ニ滯納小作料ヲ督促スル所アリタルモ小作人側(舊檀家一同)ハ何レモ同院ノ前途ノ爲ニ之ヲ拒絕シタリ。

其ノ後宮川某ハ住職ノ意ヲ含ミ數回ニ亘リ小作料納入方ヲ督促セルモ小作人等ハ其ノ都度之ヲ峻拒

セリ又右關係水田ハ當時土地區劃整理組合ノ整理地區内ニ包含セラレ組合ニ於ケル換地交付等ノ都合アルヲ口實トシ一應全部ノ土地ノ返還ヲ要求シタルモ小作人側ハ之ヲ一蹴セル爲ニ六月二十九日住職ヨリ小作調停申立ヲ爲スニ至リタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年九月二十二日横濱地方裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開會シタルニ地主(住職)ハ關係小作地ガ區劃整理中ナルト現小作人中ニハ敢テ小作地ヲ必要トセザル土地所有者モ在ルヲ以テ是非共一應全部ノ返還ヲ受ケ一部ハ目下住職ニ於テ保護中ナル少年保護事業關係少年ヲ使用シテ自作シ他ハ之ヲ腹心ノ小作人ニ貸付クベク執拗ニ返地ヲ要求シ小作人側ハ横濱市街地膨脹ト共ニ附近一帶逐年耕地減少ノ折柄永年小作セシ田畑ノ返地ノ如キ思ヒモ寄ラザルコトト主張シテ強硬ニ之ニ反對シタリシガ委員會竝ニ小作官ニ於テ極力斡旋ノ結果同日遂ニ左記條件ヲ以テ解決ヲ遂ゲタリ。

(三) 結 末

調停 條 項

- 一 申立人(住職)竝ニ相手方等(小作人)ハ申立人所有土地ニ係ル別紙土地貸借表々示ノ全土地ヲ目的トシ申立人ヲ貸賃人相手方等全員ヲ連帶貸借人トスル右土地貸賃借表記載内容ノ貸賃借契約ノ存スルコトヲ確認ス
- 二 相手方等ハ各自申立人ニ對シ別紙滯納小作料表々示ノ滯納小作料債務又ハ滯納借地料債務ノ存在スルコトヲ認メ申立人ニ對シ昭和九年九月末日限り之カ支拂ヲ爲スコト

三 本件申立ニ關スル費用ハ各自辨ノコト
附記

土地賃貸借表

田地反別合計 一町〇反二畝二十六步
此小作料一ヶ年賦米 八石二斗二升八合也
畑地反別合計 一町一反二畝三步
此小作料一ヶ年金 四十七圓七十九錢五厘也
滯納小作料表
合計 金二百四十一圓十五錢五厘也

一六 新潟縣岩船郡保内村大字坂町 (土地返還)

爭議發生 昭和九年五月十五日
調停申立 同 年十二月十日
解 決 同 十年二月十六日
關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人 利害關係人 一人
調停 右ニ同ジ(地主申立)
關係土地 爭議 五反二十九步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主松田某ハ從來糶摺精米ヲ以テ業トセシガ近年事業不振ノタメ農業ヲ開始スベク昭和九年五月前地主國井某ヨリ本件土地購入ノ契約ヲ爲シ十一月八日所有權移轉登記ヲ完了スルト共ニ小作人磯部某ニ對シ自作ヲ理由ニ土地ノ引渡ヲ要求シタル處小作人磯部某ハ十一月十八日本件土地全部ニ付田打ヲ敢行シ爭議發生ニ至レリ。而シテ其後當事者間ニ於テ再三交渉ヲ重ネタルモ意見一致ニ至ラズ地主松田某ハ十二月十日日本調停ヲ申立タリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年十二月二十日期日ニ於テ當事者ノ意見ヲ求メタルニ地主松田某ハ近年事業不振ノ爲農業ヲ經營スベク本件土地ヲ購入シ小作人磯部某ニモ其旨通告シ豫メ承諾ヲ得タリ。然ルニ十一月八日所有權移轉登記ヲ完了シ土地引渡ヲ要求シタル所小作人ハ不當ニモ九年度小作料ヲ納入セズ本件土地全部ニ對シ田打ヲ敢行シ地主ノ申出ヲ拒絶セリト述べ、昭和九年度小作料ノ支拂、土地ノ引渡ヲ要求シタルニ對シ小作人磯部某ハ本件土地ハ昭和八年前地主國井某トノ間ニ地主ニ於テ他ニ轉賣スル際ハ小作人ニテ買受クベキ約束ヲ爲シ其證據トシテ金五十圓ヲ支拂ヒ亦昭和九年度小作料ハ前地主ニ納入濟ナル旨ヲ述べ地主松田某ノ要求ニハ應ジ難シト主張シ、更ニ本件土地ヲ返還スルトキハ耕地不足ヲ來シ之ヲ補ハンガ爲ニハ現在本件土地所在地方ハ反當百圓内外ヲ以テ小作權ノ賣買行ハルルヲ以テ相當ノ小作權賠償ヲ爲スニ非ザレバ入手困難ナリト申述べタリ。依ツテ昭和十年二月十六日第二期日ニ前地主國井某ノ出頭ヲ求メ事情ヲ聽取シタル處小作人磯部某ノ主張ノ誤ナキヲ認メタルヲ以テ種々折衝

ノ結果前地主國井某ヨリ本件土地ニ對スル小作權賠償（賣買契約證據金五十圓ヲ含ム）トシテ金六百圓ヲ小作人ニ支給シ、地主松田某ハ昭和九年度小作料ヲ前地主ニ贈與スルコトトシ圓滿解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

第一條 相手方ハ申立人ニ對シ本件土地（別紙表示記載）ヲ昭和十年三月十五日限り引渡シ且右引渡シニ關シ何等ノ給付ヲ求メサルニト

第二條 利害關係人（前地主）ハ相手方ニ對シ本件土地ノ離作補償料トシテ金六百圓ヲ左ノ通り割賦支拂フコト

一 昭和十年三月末日限り 金二百五十圓

二 昭和十年十二月末日限り 金二百五十圓

第三條 申立人ハ利害關係人ニ對シ本件土地ノ買受ニ付附帶シ爲シタル申立人利益ノ契約ハ總テ之ヲ拋棄シ且之ニ關シ何等ノ給付ヲ求メサルコト但シ利害關係人カ申立人ノ爲株式會社日本勸業銀行ニ對シ爲スヘキ本件土地ノ抵當權抹消登記手續ニ付テハ此限りニアラス

第四條 相手方竝利害關係人ハ昭和十年二月十六日現在ニ於テ相互ノ間ニ第二條所定以外ノ債務關係其他ノ請求分ナキコトヲ承認ス

一七 新潟縣北蒲原郡紫雲寺村大字米子（小作繼續並ニ小作料減免）

爭議發生 昭和八年三月十四日

調停申立 昭和九年一月二十四日
解 決 昭和九年四月二十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人
調 停 右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地 爭議 田 九反七畝七步
調 停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ新潟市齋藤某ノ所有地ニシテ小野間某ニテ借受ケ小林某ニ又小作セシメ來リタル處昭和七年度小作料減免ニ付協定調ハズ一石八斗ノ未納ヲ生ジ、而シテ小野間某ハ之ヲ理由ニ昭和八年三月土地返還訴訟ヲ提起シ且假處分ヲ申請シ其ノ決定ニヨリ土地ハ新發田區裁判所ノ執達吏ノ保管スル所トナリ小林某ハ小作料ノ八割ニ相當スル補償金ヲ納付シ耕作ヲ繼續スルコトトナリタルモ、土地返還訴訟ハ九月二十七日判決ノ結果小野間某ノ勝訴トナリ小林某ハ直ニ新潟地方裁判所ニ控訴シタルモ之亦控訴棄却トナリタルヲ以テ小林某ハ北日本農民組合ニ加入シ昭和八年度小作料ヲ不納シ實力ヲ以テ耕地ヲ死守セントシ多數組合員ノ應援ヲ得テ田打ヲ敢行スルト共ニ九年一月二十四日日本調停ヲ申立タリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年二月八日期日ニ於テ小林某ハ本件土地ハ前小作人ノ未納米ヲ負擔シ借受ケタルノミナラズ

他ニ耕作地少ナキヲ以テ未納米ハ分割支拂トシ小作セシメラレタシト要求シタルニ對シ小野間某ハ中間小作人トシテ多大ノ迷惑ヲ蒙リ堪エ難キ故自作致度ニ付返還セラレタシト主張シ、双方ノ意見全ク對立シ、調停委員會ニ於テ折衝ノ結果小野間某ハ

一 田三反五畝ヲ昭和九年一ケ年間限リ小作セシム

二 昭和七、八年度小作料未納分十三石二斗ハ其半分ヲ免除スベシ

ト讓歩意見ヲ述ベタルモ小林某ハ右ニ應ジ難シト主張シ意見一致ニ至ラズ其後小作官現地ニ出張當事者ヲ會合セシメ折衝ヲ重ネタル結果小野間某ハ

一 小林某ノ親戚坂井某小林某ノ保證ヲ得タル上繼續小作セシム

二 未納米ハ五割ヲ免除ス

ト讓歩意見ヲ述ベタルヲ以テ小林某モ亦之ヲ承認シ四月二十日第四回期日ニ於テ圓滿解決セリ。

(三) 結 末

其後小林某ハ未納米ノ納入ヲ爲サザリシヲ以テ小野間某ハ昭和九年四月三十日不履行ニヨル執行ヲナシタルガ小林某ハ組合ヲ背景ニ共同田打ヲ敢行シ再ビ爭議トナリ村方重立ノ仲裁ニヨリ昭和九年度一ケ年小作セシムルコトニ解決セリ。

調 停 條 項

第一條 本件土地(別表第一第二記載)ノ昭和八年度以前小作料未納分ヲ四斗入單俵玄米十五俵三升ト決定ス

第二條 申立人ハ相手方ニ對シ前條小作料未納分ヲ昭和九年四月三十日限リ納入スルコト但シ申立人玄米ヲ以テ納入スルコト能ハサルトキハ相手方ニ對シ一石ニ付金二十一圓五十錢ノ割合ニ換算シタル合計金百二十九圓六十四錢ヲ支拂ヒ之ニ代フルコトヲ得

第三條 申立人ハ相手方ニ對シ別表第一記載ノ土地ヲ昭和九年四月二十一日限リ引渡シテ返還スルコト

第四條 相手方ハ申立人ニ對シ別表第二記載ノ土地ヲ小作料一ケ年反當一石二斗ト定メ昭和九年度ニ限リ又小作セシムルコト

第五條 申立人ハ相手方ニ對シ前條小作料ヲ新潟縣生產米檢查規則ニ據リ並玄米ヲ四斗入單俵トシテ昭和九年十二月二十五日限リ納入スルコト

第六條 申立人ハ相手方ニ對シ前各條ノ履行ニ付北蒲原郡紫雲村大字稻荷岡小林某同郡同村大字小川坂井某ヲ保證人ニ附スルコト

第七條 申立人第二條第六條ノ履行ヲ爲ササルトキハ第四條小作契約ヲ解除シ相手方ニ對シ即時第四條土地ヲ引渡シテ返還スルコト

第八條 相手方ハ本件土地ニ付申立人ニ對シ爲シタル新發田區裁判所昭和八年(ト)第六七號假處分事件執行ヲ即時解除スルコト

第九條 前條假處分事件及新發田區裁判所昭和八年(ハ)第一一一號土地引渡事件ノ訴訟費用ハ各自辨ノコト

一八 富山縣西礪波郡石堤村大字柴野 (小作料減免、小作繼續)

爭議發生 昭和七年三月二十日

調停申立 昭和九年六月二十一日

同 昭和九年十月十六日

解決 昭和九年十月十六日

關係人員 爭議 地主 十一人 小作人 十九人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 二十五町四反七畝二十七步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

昭和六年度ノ稻作ハ平年ニ比シ著シキ減收ヲ來シタリトシ小作人等ハ地主ニ對シ小作料四割減免方ヲ要求シタルニ發端セリ。而シテ地主ハ小作人等ノ要求過大ナリトシテ之ヲ拒否シタルニ依リ小作人等ハ不納同盟ヲ結ビ小作料ヲ支拂ハザリキ。茲ニ於テ地主側ハ有利解決ニハ訴訟手段ニ依ルニ如カズトシ小作人中村某外四人ヲ相手方トシ富山地方裁判所高岡支部ニ土地明渡ノ請求訴訟ヲ提起シタル爲小作人側ハ無產黨ニ屬スル辯護士ニ依頼シテ之ニ應訴シ以來法廷ニ於テ鬭爭ヲ繼續シ來レリ。斯クシテ昭和七年末トナルヤ同年度モ不作ヲ理由トシテ小作料三割減免ヲ要求シ、更ニ昭和八年度ニ至ルヤ同年稻作ハ平年作ナレドモ小作人側ハ不合理ナル小作料増徴ノ改廢ヲ叫ビ即チ帽子米ヲ撤廢シ且減租

米ヲ明治初年當時ニ復活シ又穀物検査ニ因ル小作人ノ負擔加重ノ補償トシテ小作料ノ一割五分ニ相當スルモノヲ支給スルヲ當然トシ八年度小作料ハ此等ノモノヲ差引キタル額ヲ支拂ハントシタル爲、地主ハ之ガ受領ヲ拒ミ遂ニ三ヶ年間ハ何等小作料ノ受渡ハナカリキ。而シテ此ノ間小作人側ハ團結ヲ強固ニシテ對抗シ双方共激シク争ヒ來リタリ。然シナガラ昭和九年ニ至ルヤ双方共爭議ノ不利ヲ自覺シタルガ如キ兆アリタルヲ以テ小作官ハ解決方ヲ懲慝シ小作側ヨリ小作調停ヲ申立テシメタリ。

(二) 調停ノ經過

申立當時ノ小作人側ノ主張ハ左ノ如シ。

(イ) 係争地ハ從來通り小作セシムルコト

(ロ) 昭和六年度小作料ハ四割、同七年度ハ三割ヲ減免スルコト

(ハ) 明治初年減租米トシテ小作料一石ニ付一斗六升ヲ協定シ支給シ來リタルニ明治三十八年頃ヨリ支給セズ昭和ニ至リ六升ヲ復活シタルヲ以テ明治三十八年以降支給セザリシ一斗ヲ計算支給スルコト

(ニ) 産米検査ニ因リ小作人ノ負擔加重トナリ他面實質上過量ノ小作米ヲ支拂ヒ來リタルヲ以テ検査施行ノ明治三十八年以降小作料ノ一割五分ニ相當スルモノヲ返戻スルコト

(ホ) 帽子米ヲ撤廢シ之ヲ既往ニ遡リ返戻スルコト

右ニ對シ地主ハ全々拒否シ且昭和六、七年度小作料モ些カノ減免ヲモ肯ゼズ。調停委員會ハ種々調停

ニ苦心シ帽子米ノ如キハ内容不明ノ爲當事者立會ノ上各筆毎ニ調査シ且事情ニ應ジテ之ガ存廢ヲ決シテ小作料ヲ協定セシメ又滯納小作料支拂ニ付テノ難關ニ接スルヤ小作人組合ノ會計帳簿ヲ提出セシムル等凡百ノ手段ヲ講ジ漸ク左ノ如キ調停條項ヲ以テ調停成立セシメ圓滿ニ解決ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方等(地主)ハ申立人等(小作人)ニ對シ夫々別紙第一目錄記載(略)ノ土地ヲ從前通りノ小作條件ニ依リ耕作セシムルコト
- 二 相手方等(地主)ハ毎年十二月十日限り別紙第一目錄記載(略)ノ各小作米(檢査合格米)ヲ相手方(地主)又ハ其管理入方へ持參納入スルコト
- 三 相手方等(地主)ハ各自申立人等(小作人)ニ對シ昭和六年度ノ小作米二割ヲ減額スルコト
- 四 申立人等(小作人)ハ連帶シテ相手方等(地主)ニ對シ昭和六年度ヨリ同八年度ニ至ル別紙第二目錄記載(略)ノ三ヶ年間ノ未納小作米ヲ右三ヶ年平均米價一石ニ付十八圓ノ割合ニ依リ換算シタル金三千七百九十一圓三十錢ヲ左記方法ニ依リ決濟スルモトス
 - (イ) 金二千圓ハ昭和九年十月末日限り支拂フコト
 - (ロ) 金八百九十五圓六十五錢ハ昭和十年ヨリ昭和十六年迄ノ七ヶ年賦トシ毎年十二月末日限り金百二十七圓九十五錢宛ヲ富山縣西礪波郡石堤村柴野二千六百三十番地中山助藏方ニ持參支拂フコト

- (ハ) 金八百九十五圓六十五錢ハ相手方(地主)ニ於テ申立人等(小作人)ニ貸與シ申立人等(小作人)ハ相手方等(地主)ニ對シ該借用證書ヲ差入ルルコト
- 五 相手方等(地主)ハ申立人等(小作人)ニ對シ正當ノ事由アルニアラザレバ別紙第一目錄(略)記載土地ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ズ
- 六 不作又ハ凶作ノ時ハ申立人(小作人)相手方(地主)等双方協議ノ上小作米ノ減額率ヲ決定スルコト若シ右協議調ハザルトキハ調停ノ申立ヲ爲シ減額率ヲ決定スルモノトス
- 七 申立人等(小作人)ハ夫々自己ノ前記第二項ノ小作米ノ納入ヲ怠リ又ハ相手方等(地主)ノ承諾ヲ得ズシテ別紙第一目錄記載ノ自己小作土地ヲ轉貸シタルトキハ直チニ右自己小作土地ノ引渡ヲ求メラルルモ異議ナキコト但シ前項ニ依リ調停申立アリタルトキハ相手方等(地主)ハ當該事件終了迄右土地ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ズ

- 八 當事者双方ハ將來和衷協同ヲ旨トシ舊來ノ善良ナル制度ヲ恪守シテ部落一同ノ福祉増進ニ努ムルコト

備考 第四項(ハ)ニヨリ小作人ヨリ地主ニ差入レタル借用證書ニ付テハ小作人ガ年賦ヲ履行シタル場合地主ハ證書面ノ全員ヲ請求セザルコトトセリ

一九 石川縣鹿島郡越路村武部區 (小作料請求及土地返還)

爭議發生 昭和九年十一月二十七日

調停申立 昭和十年三月十五日
解決 昭和十年四月五日

關係人員 爭議 地主 十人 小作人 七十人
調停 地主 三人 小作人 十二人(地主申立)

關係土地 爭議 田 三十五町
調停 田 六町五反六畝十七步

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ地主ニ對シ本年ノ稻作ガ氣候不順ト病蟲害トニヨリ收穫平年作ニ比シ四割減少シタルトノ理由ヲ以テ當年ノ小作料ヲ三割減額セラレ度キ旨要求シタルコトニ原因スルモノニシテ、小作人ハ要求ノ目的ヲ貫徹センガタメ全國農民組合石川縣幹部員ト稱スル圓山某ノ支持ヲ受ケ同年十一月二十七日會合決議ノ上結束ヲ固メ代表委員泉某外四名ハ區長柿木某ヲ訪問シ事情ヲ述べ地主ニ交渉方ヲ依頼セリ。區長ハ地主ヲ招致シ對策ヲ協議シタル處地主側ニアリテハ作況ニ付種々意見交換ノ末問題ノ解決ヲ區長ニ無條件一任セリ、區長ハ地主ノ無條件一任說ニ對シ小作代表委員ニ無條件一任ヲ要求シタルニ小作代表委員ハ區長ノ要求ニ疑ヲ抱キ之ニ應ゼズ。區長ハ小作代表委員ノ態度ニ鑑ミ事件ノ誤解ト紛糾ヲ避クルタメ問題ヲ慎重ニ取扱ヒ且公平ニ解決センモノトナシ之ガ協議策ニ關シ十二月九日區ノ協議員(區ノ出來事一切ヲ協議解決スル役)十名ニ諮リ更ニ區ノ有志眞館某(方面委員醫師)、坂井某(銀行員元村長)、後藤某(前區長)其ノ他農會惣代議員等十餘名ノ集會ヲ求メ區ノ平和維持ト小

作問題ノ解決ニ付熟議ヲ重ネタルガ、右有志ハ村ノ農業技術員ヲ加ハラシメ作況其ノ他各方面ノ事情ヲ慎重ニ調査考慮シ減免額一割五分ト定メ協議案ヲ作製シ區平和ノ爲是非双方ヲシテ本案ニ依ラシメ解決スベキニアリトナシ區長ノ努力ヲ求メタリ。區長ハ右有志ノ意嚮ニ基キ十二月十一日小作人中強硬派ト目セラルルモノヲ個人的ニ自宅へ招致シ區有志ノ意嚮ヲ傳へ協議案ヲ内示シテ無條件一任ニ同意セラレ度キ旨ヲ勸奨シタルニ小作人等ハ本年ノ不作ニ一層窮乏ノ度ヲ深メ既ニ飯米スラ缺乏ヲ告ゲ居ルモノアリ、而モ近時米價騰貴セル反面ニ小作人ノ苦痛忍ブベカラザルモノアリトノ旨ヲ主張シテ讓步セズ。仍テ區長ハ十二月十三日同區說教場ニ於テ全區農民ノ集會ヲ求メ本問題ノ解決ニ關スル經過顛末ノ報告ヲナシ又同村農業技術員ハ本件ニ關シ先ニ調査ヲナセル坪刈、平年作ノ推定、減收ノ程度、減免額等ニ付村有志ノ作製セル協議案ノ具體的事情ヲ説明シ該案ノ妥當ナル所以ヲ述べ區長其他有志ト共ニ全小作人ノ諒解ニ努メタルニ小作人七十名中約半數ノモノハ區長ノ提案ニ異議ナキガ如キモ半數ノモノ之ニ反對シ徹底的當初要求ノ三割減ヲ主張シテ應ゼズ物別レトナリタリ。其ノ後地主及區長ハ小作人ニ對シ數回折衝交渉シタル處本係爭小作人ヲ除ク他ノ小作人ハ漸次協議案ニ賛成シ關係地主ト夫々解決ヲ告ゲタルガ、本係爭小作人十二名ノミハ強硬派ニシテ全國農民組合員ト稱シ結束ヲ固メ飽ク迄要求貫徹ヲ計ラントシ爭議ノ手段トシテ小作料ノ不納同盟ヲ企テ地主ニ對抗セリ。

本爭議ノ發生當時双方ノ當事者多カリシガ漸次妥協シ解決ヲ告ゲタルモ最後ニ大地主三名對小作人十二名ノ爭ヒトナレリ。爭議中偶々地主ノ一名ハ小作人ノ強硬ナル態度ニ激昂シ強硬小作人ノ一名ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ小作地明渡ヲ請求シタルニヨリ小作人ハ憤慨スルニ至リ小作料ノ請求及土地

返還ヲ繞リ問題ハ漸次悪化紛糾セントシタルヲ以テ地主及區長ハ出縣シ小作官ニ事態ヲ陳情スルト共ニ昭和十年三月十五日金澤地方裁判所七尾支部へ小作調停ノ申立ヲ爲セリ。

(二) 調停ノ經過

昭和十年四月五日現地ニ於テ調停委員會ヲ開キタルガ地主側ニアリテハ曩ニ區長及有志ノ調停ニヨリ多數ノ小作人ガ賛成シ妥協ヲ告ゲタル一割五分減以上ノ減額ハ既ニ解決ヲ告ゲ小作料ヲ納入セル他ノ小作人ニ影響ヲ及ボシ差別待遇ヲ與フルモノナルヲ以テ絶對不可能ナリトノ旨ヲ主張シ、尙利害關係人トシテ列席シタル柿木區長ハ本調停申立以前法外調停ニ奔走シタル經過ニ付説明ヲ爲シタリ。之ニ對シ小作人側ニアリテハ係争地ノ生産力ガ係争外ノ土地ヨリモ劣リ不作被害ノ程度ニ著シク異ナルモノアリ、昭和九年不作ノ際係争外土地ノ減收ガ平年作ニ比シ二割乃至三割程度ニ止リタルモ本係争地ハ平均四割ニ達セリ。從ツテ小作料ノ減免額ヲ一様ニ論ズルコト能ハザル具體的内部事情ヲ述べ當該年度ノ不作ニヨル小作農經營收支状態ノ計算書ヲ提出シ、尙小作料及小作權、土地割替等ニ付從來地主側ノ採リタル横暴手段ヲ俎上ニ供シテ問題トナシ當初要求ノ三割減ヲ強硬ニ主張セリ。調停主任、調停委員、小作官等ハ兩者ノ主張ヲ聽キ事態ヲ慎重ニ考慮シ當事者ニ對シ感情ヲ宥メ極力調停斡旋ニ努メタルトコロ其ノ間幾多ノ波瀾曲折ヲ經タルモ漸ク双方ハ接近互譲スルニ至リ遂ニ左記條件ヲ以テ調停成立シ圓滿解決ヲ告ゲタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人延命某ハ相手方田中某ニ對シ從來通り鹿島郡越路村字武部ムノ十九番ムノ二十一番ムノ二十四番ムノ三十一番オノ十九番ノ二ノ土地ヲ小作料二石三斗四合(苗代ノ分ヲ含ム)ト定メ小作セシムルコト
- 二 右小作料ハ毎年十一月三十日迄ニ相手方田中某ハ申立人延命某ニ納入スルコト
- 三 但シ不可抗力ニヨリ凶作ノ場合ハ毎年刈取十日前迄ニ相手方ヨリ申立人ニ對シ檢見ノ申出ヲナシ申立人相手方、武部區長、越路村農會ノ技術員、武部區協議員立會ノ上收穫量ヲ計リ之ヲ申立人、相手方以外ノ立會人ノ協定ニヨリ減免率ヲ定メ申立人相手方ハ之ニ對シ異議ヲ申出デザルコト
- 四 相手方田中某ハ申立人延命某ニ對シ第二項ノ納期ニ小作料ヲ納入セザルトキハ申立人ヨリ相手方ニ對シ二週間ノ期間内ニ納入スベキ旨書面ヲ以テ催告ヲナシ相手方ハ右期間ヲ過グルモ納入セザル場合ハ相手方ハ直ニ前記小作土地ヲ申立人ニ返還スルコト
- 五 申立人延命某外二名ハ相手方會我某、荒牧某、卜部某、會我某、卜部某、田中某、會我某、岡崎某、山本某、會我某、島某ニ對シ昭和九年度ノ小作料一石ニ付一割五分ノ減引ヲナスコト
- 六 申立人延命某外二名ハ相手方會我某外十名ニ對シ本件調停成立手打金トシテ若干ノ金員ヲ交付スルコト
- 七 相手方會我某外十名ハ申立人延命某外二名ニ對シ納入スル第五項ノ小作料ト申立人延命某外二人ガ相手方會我某外名人ニ交付スル第六項ノ金員ト差引計算スルコト
- 八 右差引計算ノ結果相手方會我某外十名ハ申立人延命某外二名ニ對シ納入スル小作料ハ左記ノ通りト定ム

記

申立人	相手方	相手方が申立人ニ 納入スル小作料
延命某	會我某	六斗四升八合
同	荒牧某	三斗六升五合
同	田中某	六斗四升二合
延命某	會我某	四斗七升
同	卜部某	五斗三升四合
同	會我某	一石八斗三升
同	岡崎某	五斗八升五合
同	山本某	一石五升九合
同	會我某	二斗一合
同	卜部某	一斗三升二合
延命某	同人	一斗六升七合
同	田中某	一斗九升六合
同	島某	五斗三升

九 前記小作料ハ昭和十年十一月三十日迄ニ納入スルコト

一〇 相手方各自ハ右納期迄ニ右小作料ヲ納入セザルトキハ納期當時ニ於ケル時價ニテ換算シタル

金額ヲ以テ申立人等ヨリ差押ヲ受クルモ異議ナキコト

二〇 山梨縣中巨摩郡落合村 (小作料減額) (小作契約繼續)

爭議發生 昭和九年七月五日

調停申立 昭和九年十月二十五日

解決 昭和九年十二月二十六日

關係人員 爭議 地主 三十六人 小作人 三百四十五人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 三十九町八反七畝步 畑 百十七町二反八畝步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本村ハ大正十四年旱魃被害ニ加ヘテ水害ヲ受ケ小作料(反當平均六斗六升入六俵)ニモ充タザル大減收ヲ見當時小作人ハ組合ヲ背景トシ猛烈ニ地主ニ減額要求ヲ爲シタルガ小作官ノ斡旋ニヨリ解決シタリ。然ルニ其ノ後ニ於テモ年々總ユル手段ヲ盡シ果敢ナル爭議ヲ展開シ縣下屈指ノ小作爭議激甚地ト目サルルニ至レリ。斯クテ毎年法上或ハ法外ノ調停ニテ解決シ來レリ。今各年ノ減免狀況ヲ記セバ左ノ如シ。

年度	田小作料(反當平均) 付六俵 減免率	畑小作料(反當平均) 金三十三圓 減免率
大正十四年	三割引	三・五割引

大正十五年
昭和元年

五年	五	四・八
四年	五	四・八
三年	五	四・八
二年	五	四・八
七年	五	四・八
六年	五	六・一
五	五	六・一
	五	四・八

而シテ昭和九年ニ至リ例年ノ如ク爭議ノ發生ヲ見ルニ至レリ。即チ小作人等ハ昭和八年度畑小作料（小作料支拂期ハ翌年六月三十日）ニ付法外調停條項四割八分引ニテハ繭價暴落ノ爲（八年ハ繭價ハ貫當五圓内外ナリシモ實際ノ支拂期ニ於ケル繭價ハ暴落シタルニ依ル）到底支拂フ能ハズトテ七割六分引ヲ要求シ、又田ニ付テハ從來ノ定免五割引ヲ飽ク迄持續セシメントシ、之ニ對シ地主等ハ畑ニ付テハ既ニ協定シ在リ、然モ八年度繭價ハ近來稀ナ高騰ナレバ之ニ應ズル能ハズ、尙又毎年減額率ヲ協定スルモ未納者多ク之等ヲ精算ノ上ニ非ザレバ如何ナル要求ニモ不應ノ態度ヲ採リ、又田ニ付テハ從來ノ五割引ニテハ公租公課ニモ事缺ク次第ナレバ一桶乃至一桶半（一桶ハ一斗一升入、一割六分乃至二割四分ニ當ル）ノ値上ヲ希望シ再ビ爭議ト爲ルニ至レリ。小作官ハ村ノ要望ニヨリ現地ニ出張シ双方ノ主張ヲ聽取シ調停ヲ試ミタルニ双方ノ意見強硬ニシテ妥協ニ至ラズ。依ツテ再考ヲ促シ引上ゲタリ。間モナク前小作官轉任シ新小作官赴任スルニ及ビ同小作官ハ前任者ノ意志ヲ繼ギ數回現地ニ出張シ小作

問題ノ根本的解決ハ農業委員會ノ設立ニアリト極力主張シタル爲漸クニシテ双方ニ委員會設立ノ氣分見エタレバ小作官ハ年々法外調停ヲ行フコトハ勞多ク却ツテ效少キヲ思ヒ双方諒解ノ上依法調停ヲ利用シ解決ヲ圖ル事トシ昭和十年十月二十五日甲府地方裁判所ニ調停申立ヲ爲サシメタリ。

(二) 調停ノ經過

調停ノ進行ヲ圓滑ナラシムル爲先ツ地主、小作人ヨリ夫々五名宛ノ委員ヲ選任セシメ農業委員會ヲ設ケシメテ協議ヲ爲サシムルト共ニ調停委員會ノ調停ヲ併行シテ行フ形式ヲ取リタリ。

第一回調停委員會ヲ同年十一月二十四日同村役場ニ開催シタルニ双方ニ妥協氣分相當濃厚ナルモ小作人側ハ昭和八年及同九年分畑小作料ヲ夫々七割引、田ノ小作料（八年度ハ支拂濟）ハ將來五割引ヲ主張シ、之ニ對シ地主側ハ畑小作料ハ夫々五割引迄讓歩スルモ、ソノ對價トシテ田ノ小作料ハ一桶乃至一桶半（一割六分乃至二割四分）ノ増額ヲ主張シタルヲ以テ双方ニ再考ヲ促シ期日ヲ延期セリ。其ノ後三回調停委員會ヲ開催シ極力妥協ヲ促シタル結果年末モオシツマリタル十二月二十六日ノ第四回委員會ニ於テ遂ニ妥協成立シタリ。斯クテ永年ノ爭議激甚地ニシテ縣下ノ左翼村ト稱セラレタル落合村ニモ平和ノ鐘ガ鳴リ渡ルニ至レリ。

超エテ十年二月十日同村氏神社ニ於テ壯嚴ナル更生祭ヲ舉行シ、村民協力シ村ノ平和向上發展ニ邁進スルコトヲ誓ヒタリ。爾來同村ハ更生ノ意氣ニ燃エ着々更生ノ途ニアリ、農村工業協會ノ指定村ニモ選定セラレ、同協會ノ應援ヲ得テネクタイノ製造ヲ爲シ又近ク人絹工場ノ設立ヲ見ントシ、尙最近縣ノ經濟更生ノ指定村トモナリ、其ノ活動ハ縣下各方面ヨリ注目セラレツツアリ。

初秋及晩秋取引開始四日目ヨリ六日目迄ノ三日間ノ買馴平均相場ヲ各式分五厘宛トシ其ノ割合ニ依リ壹貫匁ノ代金ヲ算出スルモノトス

二一 長野縣南安曇郡梓村大字梓 (小作繼續)

爭議發生 昭和九年二月十三日

調停申立 昭和九年四月二十五日

解 決 昭和九年六月五日

關係人員 爭議 地主 三人 小作人 一人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 四反一畝二十三歩 畑(桑園) 二反一歩
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主ハ家政ノ窮迫ノ爲ニ繫争地ヲ賣却セントシ小作人ニ一應交渉シタルガ小作人ニハ其ノ資力無キモ本件土地ハ祖先傳來ノ所有地ナリシヲ明治二十五年頃相手方ニ賣渡シタルモノニシテ且現在耕作地ノ大半ヲ占メ土地返還ハ苦痛ナルヲ以テ他ニ賣却スルトスルモ引續キ小作シ得ル様要求シ地主亦之ヲ諒トシ奔走シタルガ適當ノ買主無ク處置ニ窮シタル結果地主ハ繫争地中田二反九畝二十一步ヲ當分賣却ヲ見合セ小作セシムルコトトシ他ハ第三者二名ニ賣却シ即時返還ヲ要求シ新地主モ亦土地ノ即時明渡シヲ要求スルト同時ニ強制耕作ヲ開始シタルニ因ル。

双方ノ主張左ノ如シ。

(1) 前地主ノ要求 賣却セザル田(二反九畝二十一步)ヲ他ニ賣却スル迄當分小作セシム他ハ即時

無條件返還

(2) 新地主ノ要求 土地即時返還

(3) 小作人ノ要求

(イ) 賣却サレタル田ハ二年乃至三年小作繼續

(ロ) 殘餘ノ土地ニ就テハ五年乃至七年小作繼續又ハ作離料百圓

(二) 調停ノ經過

二月十三日 小作人ハ舊地主ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ土地返還ニハ應ジ難キ旨ヲ通知セリ。一方前地主ハ小作人ヨリノ異議ニハ顧慮セズ小作人ハ土地明渡ヲ承諾シタリト稱シテ新地主二名ニ繫争地ノ内田一反二畝二歩及畑全部ヲ賣却二月十四日移轉登記ヲ終了セリ。二月十五日以後數回ニ亘リ小作人ハ同村有志ニ調停ヲ依頼シ前地主ニ交渉シタルガ進捗セズ、地主ハ却テ感情ヲ害シ自作ヲ理由ニ他ニ賣却セザル田ノ返還ヲモ要求スルニ至レリ。

三月五日 畑ヲ購入セル新地主ハ小作人ガ土地返還ヲ肯ゼザル事實ヲ識リ包金ヲ持シテ小作離レヲ要求シタルモ勿論小作人ハ之ニ應ゼズ、且該畑ハ小作人ニ於テ荒畑ナリシヲ開墾シ自己負擔ニテ桑園トナシタルニ付作離料百圓ノ支拂ヲ受クルニ非ザレバ土地ハ明渡ス事ヲ得ズトシ之ヲ拒絶物別レトナリタリ。

斯クシテ小作人ハ處置ニ窮シタル結果隣村小倉村元全農小倉支部長降旗某ニ應援ヲ求メソノ結果四月十七日新舊地主双方ニ永小作ナル故ニ絶對ニ返還セザル旨ヲ内容證明郵便ヲ以テ通告セリ。

四月十九日ニ至リ畑ヲ購入セル新地主ハ無暴ニモ繫争畑ノ桑條ノ伐採ヲ開始シ之ヲ發見セル小作人ハ大イニ驚キ村有志及前記降旗某ト共ニ至リテ之ガ中止ヲ要求シタルニ新地主應ゼズ。小作人ハ此ノ旨村駐在所ニ届出デタリ。新地主ハ引續キ繫争畑ニ施肥ヲ爲シ一部ニ大豆、馬鈴薯等ヲ植付ケタリ。

四月二十五日 小作人ハ松本支部ニ小作繼續ヲ求メテ調停ヲ申立タリ。

五月五日 前地主モ亦繫争田ニ立入り畔切ヲ爲スト共ニ鶏舎ノ塵埃ヲ散布シ無理矢理ニ占有ヲ奪ハントセリ。五月八日小作官現地ニ於テ實情調査ヲ爲スト共ニ法外調停ヲ試ミタルガ地主ハ左記ノ主張ヲ爲シテ解決ニ至ラズ小作官ハ地主側ニ對シ強制立入ノ無法ナル事ヲ説明シ之ヲ中止セシメタリ。

前地主ノ主張 一ヶ年小作セシム

新地主ノ主張 畑 土地即時返還、作離料二十圓

田 一ヶ年小作セシム

六月四日 村長双方ヲ役場ニ集メ種々斡旋仲裁ヲ爲シタルモ双方讓歩セズ解決ニ至ラザリキ。

(三) 結 末

六月六日 松本支部ニ於テ裁判所直接ノ調停ヲ開始シタル處漸ク左記條件ニテ成立解決セリ。

調 停 條 項

相手方山口某(註前地主)對申立人間

一 相手方ハ其ノ所有ニ係ル南安曇郡梓村大字梓字水ナシ(略三筆田合反別二反九畝二十一歩)ノ土地ヲ一ヶ年ノ小作料合計穀十五俵(但シ一俵ハ正味十四貫五百匁入)ニテ昭和九年ヨリ向フ五ヶ年間申立人ニ對シ繼續小作セシムルコト但シ右小作料ハ申立人ニ於テ毎年十二月十五日限リ相手方へ持參支拂フコト

二 相手方ハ昭和九年ヨリ向フ三年間ハ右記載所有土地ヲ他ニ賣却スルコトアルモ申立人ノ右小作ノ權利ヲ保證スルコト右期間後ニ賣却シタル場合ハ申立人ハ當時ノ耕作物收穫後小作土地ヲ返還スルコト

三 相手方ハ申立人ニ對シ有スル明治四十四年十一月二十九日附貸付金百圓及大正元年十二月十九日附貸付金五十五圓竝ニ其ノ他ノ債權ハ全部之ヲ免除スルコト

四 第一項ノ期間經過後尙相手方ニ於テ土地ヲ所有シ居ル場合ニハ本小作契約ヲ更新スルコト但シ條件ニ付テハ双方協議シ決定スルコト

相手方倉田某(註田ノ新地主)對申立人間

一 相手方ハ申立人ニ對シ其ノ所有ニ係ル

南安曇郡梓村大字梓字行人塚二千二百八十番

一 田一反二畝二歩

ノ土地ヲ小作料一ヶ年租六俵（但シ一俵ハ正味十四貫五百匁）ニテ昭和九、十ノ兩年間小作セシムルコト但シ右小作料ハ毎年十一月十五日限り相手方へ持參支拂フコト
相手方二木某（註畑ノ新地主）對申立人間

一 申立人ハ相手方所有ニ係ル

南安曇郡梓村大字梓字道添三千九百七十八番

一 畑二反歩

ノ小作土地ヲ本日無條件ニテ相手方ニ返還スルコト

二 相手方ハ申立人ニ對シ右作離料トシテ金五十圓ヲ左ノ二回ニ分割支拂フコト

(イ) 昭和九年八月末日限り 金三十圓

(ロ) 同 年九月末日限り 金二十圓

(二二) 長野縣下伊那郡市田村大字下市田字羽根 (小作繼續)

爭議發生 昭和九年九月三十日

調停申立 昭和九年十月二十四日

解決 昭和十年一月二十九日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人 利害關係人 三人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 二反二十歩 宅地 百十九坪
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

小作人ハ明治初年以來繫争地ノ一部ニ小屋ヲ建テ小作シ來リ小作料ハ現在玄米四斗入五俵ナリキ。然ルニ小作人(未成年)ノ先代ハ懶惰ナル性格ニシテ小作料ノ支拂確實ナラズ數年ニ亘リ滯リヲ生ジタリ。偶々昭和九年八月小作人先代ハ山中ニ炭焼ニ入りタル際谷間ニ墜落慘死シタル爲、地主ハ當主ヲ失ヒタル小作人ガ將來益々小作料ノ支拂困難トナルベキヲ憂慮シ滯納小作料換算金約百五十圓ノ支拂ヲ督促スルト共ニ土地返還ヲ要求シタルニ因ル。双方ノ主張左ノ如シ。

地主ノ主張 滯納小作料百五十圓支拂 土地即時返還

小作人ノ要求 滯納小作料ヲ五十圓ニ減額二回ニ分割支拂 小作繼續

(二) 調停ノ經過

地主ハ滯納小作料換算金(百五十圓)ノ督促急ナリシガ保證人ハ既ニ死亡シ其ノ相續人ハ養子ナル爲小作人ニ對シ進ンデ援助セントセズ。小作人ノ長男(十六歲)ハ東京ノ親戚ニ奉公シ又同村ニ小作人(寡婦)ノ兄石屋ヲ營メルガ之亦赤貧ニシテ援助ノ力無ク小作人ハ同村有志ニ調停ヲ依頼シ再三交渉ノ結果漸ク滯納小作料ヲ七十五圓ニ減額シ之ヲ九月三十日迄ニ支拂フ事ニテ一應示談成リタルガ、右ノ交渉意外ニ長引キタル爲亡夫ノ死亡見舞金モ何時シカ消費シ履行不可能トナリタリ。仍而地主ハ

小作人ノ家屋ヲ滯納小作料ノ一部ノ代物辨濟トシテ引受ケ土地ハ即時明渡サレ度シト要求スルニ至リ
小作人ハ處置ニ窮シ十月二十四日飯田支部ニ小作調停ヲ申立タリ。

十一月十二日 飯田支部ニ於テ第一期日ヲ開キ調停ニ着手シタルニ小作人ハ無資産ニシテ加フル
ニ寡婦トナリ三名ノ幼兒ヲ有シ、而モ本件土地以外ニハ全然耕作地無ク將來ノ小作料支拂困難ナルノ
ミナラズ滯納小作料ノ支拂ニモ方策無ク結局親戚ノ助力ヲ求ムル外無キモ同村居住ノ兄二名ハ無資産
ニシテ恃ムニ足ルハ結局東京ニテ上繪師ヲ業トセル寡婦ノ弟ノミナルガ當人ハ本年春前記ノ弟ト仲違
ヲ爲シ小作人ヨリ援助ヲ請ヒタルニ對シ東京ニ引揚ゲ來ラバ幼兒ノ面倒ハ見ルモ郷里ニ止ルナラバ滯
納小作料支拂ノ援助ハ爲シ難キ旨ヲ回答シ來リタルヲ以テ小作官ヨリ今一應交渉スル事トシテ延期セ
リ。其ノ後小作官ニ於テ小作人ノ兄弟ニ對シ援助セシムル様種々交渉ノ結果十一月十九日ニ至リ漸ク
滯納小作料ヲ兄弟分割シテ引受ケ支拂フコトトナレリ。

十年一月二十九日 飯田支部ニ於テ小作人兄弟ヲ利害關係人トシテ出席セシメ第二期日ヲ開キ地
主ニ對シ土地返還ノ要求ヲ撤回セシメ漸ク左記調停條項ニ依リ成立シ尙今後ノ小作料支拂ニ就テモ之
ヲ兄弟ニ於テ援助セシムルコトトセリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 相手方ハ申立人ニ對スル別紙(略)ノ土地(田二反二十步、宅地百九坪)ノ昭和九年度分迄ノ
滯納小作料ヲ金七十圓ニ減額スルコト

右金七十圓ハ其ノ内金五十圓ヲ申立人ニ於テ昭和十年一月三十一日迄ニ相手方ニ支拂ヒ殘金二十
圓ハ利害關係兩人ニ於テ各十圓宛相手方ニ支拂フ事トシ其ノ支拂期日ハ昭和十年四月三十日迄ニ
各金五圓宛同年十二月二十五日ニ各金五圓宛ト定ム

一 相手方ハ申立人ニ對シ別紙記載ノ土地ヲ小作料年額玄米四斗入五俵ヲ以テ小作セシムルコト
右小作料ハ申立人ニ於テ相手方ニ對シ毎年六月三十日及十一月三十日ニ各半額宛ヲ支拂フコト
一 申立人ニ於テ右小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ相手方ニ於テ十日間ノ猶豫期間ヲ置キ書面ヲ以
テ催告ヲ爲シ尙不履行ノ場合ハ右土地全部ヲ相手方ニ返還スルコト

二三 長野縣上伊那郡美簫村 (小作料永久減額)

發 生 昭和八年十二月十七日

調停申立 昭和九年四月二十七日

調停成立
第一次 昭和九年十二月十四日
第二次 昭和十年五月二十六日
第三次 昭和十年九月二十九日

關係人員
爭議 地主 六人 小作人 十六人
調 停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地
爭議 田 四町六反四畝九步
調 停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

二八〇

地主ハ村内第一ノ大地主ニシテ慶應大學ヲ卒業シ以前ニ村長タリシコトモアル人物ナルガ私慾強ク漸次小作料ヲ値上ゲシ他地主分ニ比較シ約一割五分高率ニシテ小作人一般ヨリ評判悪ルカリキ。偶々昭和八年初メ地主ガ其ノ所有地ノ開墾ヲ爲シタル際區有地ヲ侵蝕シ而モ村ノ土地調査委員タル地位ヲ惡用シテ之ヲ糊塗シタリトシテ區民一同ヨリ攻撃セラレ地主ハ之ニ對抗シテ區費ノ納入ヲ保留シタリ。其ノ際區有土地ノ境界問題ニ關シ測量ヲ依頼セラレタル人物ガ國家社會黨所屬ノ人物ナリシ爲其ノ指導ヲ得テ昭和八年三月二十三日區民ハ下縣更生會ヲ組織シ小作部ヲ設ケ係争地主ニ對抗スルニ至レリ。地主ハ小作人數名ニ對シテ土地返還ノ要求ヲ提示シテ半強制的ニ承諾書ニ捺印セシメタリ。六月上旬コノ事實ヲ知リタル更生會小作部ノ幹部ハ地主ノ處置ヲ不當トシテ縣小作官ニ陳情シ其ノ調停ノ結果八年度ハ何レニセヨ小作人ニ耕作セシムルコトトシテ落着シタリ。双方ノ主張左ノ如シ

地主側 小作料ノ引下反對土地一部(一町二反歩)即時返還
小作人側 小作料永久減(平均シテ約一割五分)土地返還反對

(二) 爭議ノ經過

八年十月十五日小作人側ハ同村小作調停委員ノ立會ヲ求メテ係争地ノ坪刈ヲ爲シ更ニ引續キ係争地ノ實測ヲ爲シ實測坪著シク不足ナリトシ前記要求ヲ決定シ解決迄小作料ヲ納入セザルコトヲ協定シ十二月十日頃小作料ヲ村農業倉庫ニ共同保管シ、超エテ十二月十七日小作人代表四名ハ更生會名ヲ以テ

主ニ前記要求ヲ提示シタリ。

十二月十九日 小作人ハ連署ヲ以テ縣小作官ニ調停方ヲ申請セリ。

十二月二十三日 小作官現地ニ出張調停セムトセシガ地主ハ病氣ト稱シ出頭セズ、小作官ハ地主ニ期日ヲ指定セシメ調停スルコトトナスト共ニ村長ニ於テ調停方懲慝シタリ。

九年一月ニ入り地主ハ小作人ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ小作料ノ納入方ヲ督促スルト共ニ小作人中七名ニ對シ同一方法ニヨリ土地返還ノ要求ヲ爲シタリ。

一方村長ハ調停ノ瀕踏ノ爲一、二度地主ト會談シタルモ其ノ見込ナシトシテ手ヲ引キタルヲ以テ小作官ハ結局小作調停ニヨリ解決スルヲ適當ト認メ小作人ニ指示シタル結果二月二十七日調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(三) 調停ノ經過

五月十三日 第一回委員會ヲ開キ小作料總額四斗入約百七十俵ヨリ特別ノ理由ニヨリ納入濟ノ分ヲ除キ百三十俵ノ内入トシテ百俵ヲ支拂フコトヲ協定シ更ニ五月二十九、三十兩日ニ亘リ小作官立會ノ上係争地ノ作坪ヲ實測シタリ。

之ヨリ先四月中旬地主ハ係争地中ノ一部ヲ年賦ヲ以テ他ニ賣却シ新地主ヨリ土地返還ヲ要求シタルガ小作人ハ假裝ノ賣買ナリトシ登記ヲ完了スルニアラザレバ賣買ヲ認メズトシテ拒絕シタリ。地主、新地主ハ共同シ新地主名ヲ以テ土地引渡ノ假處分ヲ申請シタリシガ所轄區裁判所ハ書面審理ヲ以テ申請ヲ認メ六月九日假處分ヲ執行セリ。之ニ對シ小作人ハ不當ナリトシ巡視ノ爲メ附近ニ出張中ナリシ

地方裁判所長ニ陳情シ所長ノ仲裁ニヨリ三分ノ一ヲ新地主、三分ノ二ヲ小作人ニ於テ耕作スルコトトナリテ六月十二日解決シタリ。

更ニ地主ハ係争地ノ一部ガ負債ノ爲競賣ニ附セララルルヤ親戚名儀ヲ以テ競落シ、之ヲ理由トシテ返還ヲ要求スル外六、七反ノ田ヲ他ニ賣却又ハ讓渡シタリトシテ新地主ヨリ返還要求ヲ爲サシメ小作人ハ之ヲ以テ假裝賣買ナリトシテ應ゼズ、爲ニ地主ハ最初一名ナリシモノガ六名トナリ新地主ヲ利害關係人トシテ參加セシメ調停ヲ進行シタリ。

昭和九年十一月第五回目ノ委員會ニ於テ約一町六反歩ノ土地ヲ坪平均一圓二十錢ヲ以テ自作農資金ニヨリ小作人ニ買取ラシムルコトノ協議成立シタリ。(第一調停條項)

二月二十二、三、四ノ三日間ニ亘ル第五回委員會ニ於テ昭和九年度小作料中四斗俵百十四俵ヲ内納メスルコトヲ協定セリ。

超エテ昭和十年五月二十四、五、六日ニ亘ル第七回委員會ニ於テ地主自作ノ爲返還スベキ土地ト其ノ時期並ニ將來小作スベキ土地ノ小作料ノ減額ニ關スル問題調停成立シタリ。(第二調停條項)

更ニ九月二十六、七兩日ノ第八回委員會ニ於テ昭和八、九兩年度ノ滯リ小作料ノ支拂方法ヲ調停シ總ノ問題ノ解決ヲ見タリ(第三調停條項)

(四) 結 末

解決ノ主要條件ハ係争地中一町六反六畝歩ヲ坪一圓二十錢ヲ以テ小作人ガ自作農資金ニテ買受ケ更ニ六反五畝歩ヲ地主等ノ自作ノ爲返地シ殘部ハ從來ノ小作料ヨリ平均七分六厘ヲ引下ゲ小作セシメ

八、九兩年度ノ滯リ小作料ハ七分五厘減額ノ上三ヶ年賦ニテ支拂フモノナルガ詳細ハ左記條項ノ如シ。

調 停 條 項

第一(昭和九年十二月十四日作成)

一 相手方春日正直及利害關係人春日省三ハ別紙目錄記載(略)ノ各其ノ所有土地ヲ該目錄記載ノ買受人ニ對シ各記載ノ代金ヲ以テ賣渡シ昭和十年四月末日迄ノ間ニ該代金受領ト同時ニ各其ノ買受人ニ對シ夫々所有權移轉登記手續ヲ爲スコト

二 相手方春日正直ノ右賣渡土地ニ對シ設定セル昭和四年六月十一日受附第三〇八二號債權額一千圓債權者株式會社日本勸業銀行債務者春日正直友春日正一名儀昭和五年十月四日受附第四〇七五號債權額一萬圓債權者株式會社日本勸業銀行債務者春日正直名義昭和五年十二月三十日受附第五四七七號債權額二千五百圓債權者酒井千里債務者春日正直名義昭和八年九月二十六日受附第三三五七七號債權額八百五十圓債權者春日美里債務者春日正直名義ノ各抵當權登記及昭和六年一月七日受附第一三一號春日修一郎ノ所有權移轉假登記等總テ右移轉登記前ニ抹消登記手續ヲ爲スコト

第二(昭和十年五月二十六日作成)

一 相手方春日正直、春日さい、利害關係人春日省三酒井千里小林正衛ハ別紙第一目錄記載(略)ノ各所有地ヲ該目錄記載ノ申立人ニ對シ各其ノ記載ノ小作料ヲ以テ引續キ賃貸スルモノトス
二 右第一目錄記載ノ土地中(六)ノ土地ニ付キテハ賃貸期間ヲ三ヶ年トス但シ相手方春日正直カ面

積利便小作料等右土地ニ匹敵スル替地ヲ賃貸スルトキハ申立人春日年一ハ右期間中ト雖モ該土地ヲ返還スルコト

二八四

三 第一目錄中(六)ノ土地ヲ除キタル土地ニ付キテハ賃貸期間ヲ定メス但シ相手方春日さいノ夫春日快造カ居村役場書記ヲ退職シタルトキハ申立人春日良男ハ第一目錄(ハ)ノ土地ヲ相手方春日さいニ返還スルコト

尙第一目錄(十三)ノ土地ニ付キテハ利害關係人酒井千里ハ申立人赤羽廣男ニ對シ今後二ケ年間ハ事情ノ如何ヲ問ハス賃貸スルモ其ノ後利害關係人酒井千里一家ニ於テ酒井松慈ヨリ賃借セル居村字神田所在ノ田一反六畝歩ヲ松慈カ出稼先(同人ハ目下出稼中)ヨリ歸郷シ同人ニ返還シ且酒井千里一家ニ於テ第一目錄(十三)ノ土地ヲ自作スル際ハ申立人赤羽廣男ハ該土地ヲ利害關係人酒井千里ニ返還スルコト

四 相手方春日正直ハ申立人山岸宇源治ニ對シ上伊那郡美篤村字下縣四千八百三十八番一、田一反二畝二十七歩ヲ小作料土地臺帳面積ヨリ畦畔坪數ヲ控除シタル面積ニ付キ七十六坪ニ付玄米一俵(但三斗五升入)ノ割合トシテ期間ヲ定メス賃貸スルコト

五 本件ノ小作料支拂時期及支拂方法ハ地方ノ慣習ニ從フモノトス

六 申立人春日年一、山岸八藏、山岸千浪、赤羽義人、赤羽廣男、山岸宇源治ハ各小作ノ別紙第二目錄記載(略)ノ土地ヲ同目錄記載ノ夫々ノ地主タル相手方又ハ利害關係人ニ返還スルモノトス

七 前項ノ土地ノ内麥蒔付ノ字下縣四、九四二番ノ内東方二枚ハ昭和十年六月三十日限り其ノ他ノ土地ハ同月五日限り返還スヘキモノトス但シ第二目錄(二)(三)(六)ノ土地ハ既ニ返還済ナリ

八 右返還スヘキ土地ノ上ニ紫雲英ヲ蒔付アルモノニ付テハ各小作人ニ於テ右返還期日タル六月五日迄ニ該紫雲英ノ刈取ヲ爲シ各地主ハ夫々小作人ニ對シ一反歩ニ付金一圓五十錢ヲ土地返還ト同時ニ贈與スルモノトス

九 相手方春日さいハ申立人山岸宇源治ニ對シ第六項ノ返還地ノ作離料トシテ金十五圓ヲ該土地返還ト同時ニ支拂フコト

第三(昭和十年九月二十七日作成)

一 別紙目錄(本件土地全部ナルモ略)記載ノ土地ノ賃貸借ニ付相手方竝利害關係人ハ申立人等(小作人)ノ昭和八、九兩年度ノ未納小作料ヲ左記ノ通ニ減額シ其ノ餘ハ免除スルモノトス

相手方(地主)春日正直ニ對スル分

玄米十一石七斗三升二合

利害關係人(地主)春日省三ニ對スル分

玄米四石九斗二升六合

相手方(地主)春日さいニ對スル分

玄米九斗二升三合

利害關係人(地主)酒井千里ニ對スル分

二八五

玄米一石一斗

二 申立人等ハ連帶シテ前記ノ未納小作料ヲ相手方春日正直、春日さい利害關係人春日省三ニ對シテハ昭和十年ヨリ昭和十二年迄毎年十二月二十日限り各其ノ三分ノ一宛ヲ利害關係人酒井千里ニ對シテハ昭和十年十二月二十日限り金額ヲ各支拂フモノトス

三 申立人等ハ連帶シテ昭和十年二月二十四日附本件調停調書末尾目錄中字羽場字中村ノ土地ニ付相手方春日正直利害關係人春日省三カ二番井堰普通水利組合ニ昭和十年第一期分水利組合費トシテ支拂ヒタル金員ヲ昭和十年十月末日限り支拂フモノトス

二四 岐阜縣山縣郡岩野田村大字粟野 (小作繼續)

爭議發生 昭和八年二月二十日

調停申立 昭和八年十一月十四日

解決 昭和九年十二月二十七日

關係人員 爭議 地主 九人 小作人 四十一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 八町一反七畝九步 畑 一反七步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件ハ協約期間滿了ノ爲之ガ更新ニ當リ小作料ノ協定困難ニ陥リタルニ基因スルモノニシテ、小作

人ハ前協約通り中年掬(定免ノ意)ヨリ一割八分引ノ定免掬トナスコト及小作地ハ引續キ耕作スルコトヲ要求、地主ハ前協定期限ハ昭和五年度ニテ滿了セルモノニテ、該協約ハ其ノ締結當時ガ農民運動ノ最高潮期ナリシ爲小作人ノ強要セル不當減額ヲ容認シタルモノナルニ付、昭和六年度ヨリ中年掬ニ復歸セシメントシ、自作ノ必要ナル地主ニ對シテハ即時返地スルコト、餘ハ全部小作期間ヲ定メ期限滿了後一旦返還セシメ改メテ貸付ヲナスコトヲ要求セリ。

爭議地ハ他部落ニ比シ地味惡ク而モ用水不足ノ爲勞力ヲ要スルコト大ナルニ拘ラズ收穫尠ク、小作料ハ隣接部落トノ比較ニ於テモ亦收穫量ノ分配關係ニ於テモ高率ナリシニ依リ、大正八年以來屢々爭議ヲ惹起セシ爲普通掬ヨリ中年掬ニ改メ以テ紛爭ヲ斷ントシタルモ目的ヲ達シ得ズ。更ニ大正十五年ヨリ五ヶ年間中年掬ヨリ一割八分引ノ定免掬トナシ漸ク爭議ヲ解消セリ。斯クシテ昭和六年期間滿了ニ付小作人側ハ之ガ更新ヲ望ミタルモ、地主側ハ中年掬ヘノ復歸ヲ要求シ、玆ニ物議ヲ醸シタル儘昭和七年ノ稻作收穫期迄經過シタルニ、小作人側ハ昭和七年ノ稻作ハ病蟲害ノ爲減收ヲ蒙リタリト稱シ中年掬ヨリ二割五分減ヲ要求セリ。

地主ハ此ノ稻作被害ヲ認メズ小作人ノ態度ヲ挑戰的ナリト憤激シ契約解除ノ通告ヲ發シ、昭和八年三月八日小調第六號乃至十五號事件トシテ地主側ヨリ土地返還調停ノ申立ニ及ビシモ、地主ノ主張通ラザルヲ認メ取テ爲シ、岐阜地方裁判所ヘ土地返還請求訴訟ヲ提起シ目的ノ貫徹ニ努メタレバ、小作人側ハ耕作繼續ヲ求メントシテ調停申立ニ及ビタリ。

(二) 調停ノ經過

前回ノ調停ニ於テハ數度ノ委員會ヲ開キ一割三分引ノ定免控ヲ調停案トシテ勸説ニ努メタルモ、地主側ハ八分引小作側ハ一割五分引ヲ共ニ固執シテ妥協スルニ至ラズ、遂ニ地主側ヨリ訴訟ヲ提起セシヲ以テ小作人側ノ感情ヲ刺戟シ一層結束ヲ鞏固ナラシメ愈々双方對峙シ、小作人側ハ有利ナル展開ヲ求メンガ爲部落問題ハ勿論個人交際迄一切地主トノ連繫ヲ絶チ事毎ニ非難排斥セリ。

斯カル事情ニアリシヲ以テ調停開始ニ際シ調停委員ノ合意選定ヲ慫慂シタルニ地主側ハ飽迄訴訟ヲ以テ徹底的ニ膺懲セントシテ調停ヲ拒絶セリ。爲ニ調停主任ノ指定シタル委員會ニテ調停ニ努メタルモ前回ニ於ケル調停ノ經緯ニ鑑ミ調停案ノ樹立ニ考慮ヲ要スル點アリシ爲左ノ方針ヲ採リタリ。即チ眞ニ自作ノ必要アル地主ニ對シテハ若干ノ土地ヲ返還セシメ、其ノ他ノ土地ニ對シテハ小作期間ヲ定メズ、小作料ハ中年控ヨリ一割引トナシ前回ノ調停案ニ比シ小作料ノ減額率ヲ低下セシメタル代價トシテ山林ノ落葉ヲ市日ヲ定メ採取セシムルコト及萱ノ賣却ヲ部落ヲシテ爲サシメ其ノ賣却代金ノ一部ヲ部落ヘ寄附セシムルコト。右方針ヲ以テ調停ニ努メタル所左ノ主張ヲ爲シ互ニ辯駁ヲ試ミテ讓步セズ。地主ニ於テハ小作料ハ一割引ノ定免ヲ認ムルモ、小作期間ヲ五ケ年トシ期間滿了後一旦返還セシメ、山林ノ落葉採收ト萱ノ賣却代金ノ寄附ニハ應ジ難シト主張スルニ對シ、小作人ハ小作料ニ關シテハ前回ノ調停案ニ依ル一割三分引タルコトトシ、小作地ノ返還ニハ應ジ難ク、尙昭和六年度ヨリ八年度ニ至ル經過期間ノ小作料ハ一割八分引タルコトヲ主張セリ。

右ノ如ク双方ノ主張ニハ本質的ノ相違アルノミナラズ、昭和九年暴風被害ニヨル小作料減額問題モ介在シ其ノ妥協容易ナラザルヲ認メシヲ以テ、之ガ局面打開ノ必要上村長其ノ他村内有力者ノ助力ヲ

促シ其ノ活動ト呼應シテ調停ノ進行ヲ計ラントシテ十二月二十一日同村役場ニ於テ委員會ヲ開キ、村長及村會議員三名ト提携シテ徹宵勸説ニ努メタル結果、將來ハ地主小作人間ノ圓滿ト部落改善ノ爲ニ協調會ヲ組織シ一切ノ小作問題ヲ協調會ニ於テ處理セシムルコトヲ前提トシテ別紙調停條項ノ通り調停成立シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ本件土地ヲ第八項ノ例外ノ土地ヲ除キ申立人等ニ對シ夫々昭和十四年度迄貸貸シタリ
- 二 右期間更新ハ栗野西區住民ヲ以テ組織スル諮問機關(地主小作中立各同數ノ委員ノ合議體)ニ諮リテ更新スルモノトス
- 三 本件係争土地ノ昭和七、八年度分控米ハ中年控ヨリ夫々一割八分引トシ申立人等カ右年度ニ夫々納付スヘキ控米ヲ共同賣却シタル價格ニ從ヒ賣却シタル分ニ就テハ金錢ニ換算シテ支拂フコト
- 三 右昭和七、八年度控米ヲ換算金ヲ以テ支拂フ分ハ遲滞無ク申立人等ヨリ相手方等ニ支拂フコト
- 四 昭和九年度控米ハ中年控ヨリ二割五分引ヲ以テ昭和十年一月三十一日限り申立人等ヨリ相手方ニ支拂フコト
- 五 昭和十年度ヨリ同十四年度迄五ケ年間ノ控米ハ之ヲ定免トシ中年控ノ一割一分五厘引トスル

コト但シ不可抗力ニヨリ收穫カ平年作ノ半作以上ニ及ハサル時ハ第一項記載ノ諮問機關ニ諮リテ該裁定ニ從フコト

六 掬米ノ納入ハ毎年一月三十一日限り岐阜縣生産検査合格米ヲ以テ其ノ前年分ヲ納入スルコト但シ年柄ニヨリ合格米ヲ得ルコト能ハサリシトキハ此ノ限りニ非ス

七 申立人等ニ於テ將來掬米ノ納入ヲ一ケ年間怠リタル者アルトキハ其ノ申立人ハ相手方ニ對シ其ノ賃借地ヲ返還スルコト

八 申立人小森某、山田某、衣笠某ハ相手方衣笠某ヨリ借受ケ居ル小作地ヲ又宇留野甲某ハ相手方衣笠某ヨリ借受ケ居ル小作地ヲ各昭和十年六月十日限り宇留野乙某ノ土地ノ借受人ハ貸主ニ於テ事實上二戸ノ分家ヲ爲シタルトキハ分家一ケ年以内ニ小作地ヲ各返還スルコト

九 相手方カ萬已ムヲ得ス本件土地ヲ賣却センコトヲ欲スルトキハ一年以前ニ豫告シテ之ヲ爲スコトヲ得

十 本件爭議ニ付本調停條項ニ疑義ヲ生シ又ハ本調停條項ノミニヨリテハ盡ササル虞アリテ爭ヲ生スルニ至リタルトキハ第一項ノ諮問機關ノ裁定ニ從フコト

二五 岐阜縣安八郡大藪町西大藪 (掬米減額)

爭議發生 昭和九年十二月二十二日

調停申立 昭和九年十二月二十二日

解決 昭和十年四月十日

關係人員

爭議 地主 六人 小作人 六十二人
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地

爭議 田 十七町八反二十五步 畑 四町六反五畝二十一歩
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件ハ暴風ノ被害ヲ理由トシテ小作料減額ヲ要求シタルニ基因スルモノニシテ、地主ハ減收程度ヲ嚴密ニ調査シタル上本年度小作料ヲ反當一石二斗ノ所八斗ニ減額シタルヲ以テ、更ニ之以上ノ減額要求ニハ絶對應ジ難キヲ主張スルニ對シ、小作人ハ坪刈ニ依リ實收調査ヲ爲シタルニ反當收量三俵ニ過ギザルヲ以テ田小作料ハ地主主張ノ反當八斗ノ掬ヨリ二斗五升程度ヲ減額シ、畑小作料ハ反當四斗引ヲ要求セリ。

昭和九年十一月二十一日地主ハ本年度掬ヲ反當八斗ニ減額スベキ旨ヲ發表セリ。小作人ハ之ニ應ゼズ交渉ヲ重ネタルモ地主強硬ナルヲ以テ小作人ハ小作官ニ調停方ヲ依頼シ來レリ。小作官ハ現地ニ出張シテ當事者ノ内意ヲ聽取シタルモ双方意外ニ強硬ナルヲ以テ作柄ノ調査ノ必要ヲ認メ當事者ニ諒解ヲ求メ十一月二十九日ヨリ三日間ニ亘リ坪刈ニヨル實收調査ヲ遂ゲ、更ニ協調解決ヲ勸メタルモ地主ハ強硬ニシテ調停ヲ拒絕セリ。地主ハ小作人ノ態度橫暴ナリトシ此ノ際徹底的解決ヲ必要トシ、協議ノ結果最後迄歩調ヲ亂サザル爲中途脱退シタル者ニ對シテハ五百圓ノ違約金ヲ課スルノ堅キ協定ヲ遂

ゲタリ。小作側モ之ニ應戦スル必要上三部落集合團結ノ必要ヲ力説シ、三部落一致團結シ不取敢三部落共十二月二十二日小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

而シテ該地方ハ小作料減額協定前立毛刈取ヲ爲シタル場合ハ小作料減額ヲ爲サザル強キ慣習アルヲ以テ小作側ハ地主ニ對シ立毛刈取ノ承認ヲ求メタリ。然ルニ地主ハ之ニ應ゼザリシヲ以テ小作側ハ協議ノ結果立毛ノ約半數刈取ヲ爲シタリ。仍テ地主ハ小作官ノ坪刈ニヨル實收調査アルニ拘ラズ、訴訟ニヨル解決ノ爲證據保存ノ必要ヲ認メ之ガ申請ヲ爲シタリ。小作側ハ證據保全執行期日ノ前日總動員ヲ爲シ立毛ノ刈取リニ着手シタルヲ以テ、地主側ハ形勢不穩ト認メ證據保全ノ取下ヲ爲シタリ。斯クシテ各筆毎ニ四分ノ一程度ノ立毛ヲ殘シタルニ過ギズ。其ノ間地主側ハ地主ヨリ他ノ地主ニ渡スベキ檢見帳ヲ小作代表者ニ託シタリ。然ルニ小作側ニ於テ開封シタルヲ以テ之ヲ理由トシテ告訴ヲ爲シ、小作側總代ハ警察ニ留置セラルル等ノ事件アリ、双方ノ態度益々惡化シ形勢不穩ノ狀態ヲ呈セリ。

(二) 調停ノ經過

爭議ノ情況上急速調停開始ノ必要ヲ認メ十二月二十六日裁判所ニ於テ調停ヲ開始シ、立毛刈取處分ニ付キ説示シタルモ地主側ハ小作側ノ刈取ヲ認メズ、小作側亦地方慣習上全部刈取ノ結果ハ小作料減額ニ影響アルヲ虞レ刈取ノ態度ニ出デズ、合意ナキヲ以テ裁判所ハ調停委員會ノ調停ヲ適當ト認メ延期セリ。

昭和十年一月七日適當ナル調停委員ナキ爲裁判所調停ヲ試ミ再ビ殘存立毛處分ニ付小作人ノ刈取ヲ勸メタルモ地主應ゼザル爲調停法第二十五條ヲ適用シテ小作人刈取ノ處分命令ヲ發シ調停ヲ後日ニ延期セリ。

本件地主ハ他村地主トモ連絡アリ、調停解決ヲ斥ケ訴訟提起ノ虞アリシヲ以テ、小作官ハ調停法外ニ於テ屢々當事者ト接見シテ調停ニ努メ漸クニシテ調停氣分ヲ認メタル結果、二月二十四日將來ノ契約條項ニ付テハ双方同意ヲ得タリ。尙九年度小作料減額ニ付双方ニ讓歩ヲ勸メタルモ應ゼズ、仍テ一應打切り狀勢ヲ監視シ、其ノ間當事者ヲ招致シテ讓歩解決ヲ勸メ時機至レリト認メ三月二十五日現地ニ出張シ三晝夜ニ亘リ調停ニ努力シタル結果解決ヲ遂ゲタリ。而シテ右解決條項ヲ其ノ儘次回調停期日ニ於テ調停條項ト爲スコトニ協定ヲ見、四月十日裁判所調停ニ於テ左記條項ノ通りニテ解決シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ申立人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ同欄記載ノ掟額ヲ以テ賃貸スルコト
- 二 當事者間ニ於テハ昭和十四年度ヨリ昭和十四年度迄本條項以下ノ條項ヲ協定ス右期間滿了後當事者異議ナク默認スル場合ハ爾後一ケ年毎ニ更新シテ本契約ヲ續行スルモノトス
- 三 掟米ハ其ノ年度ノ翌年一月二十五日限り岐阜縣移出検査合格米ヲ以テ相手方ノ指定スル場所ニ持參支拂フモノトス但シ年柄ニヨリ一般的ニ米質不良ニシテ合格米納入困難ナル場合ハ特ニ考慮スルモノトス

- 四 申立人ハ相手方ノ承諾ナクシテ小作地ヲ轉貸シ又ハ請負小作ヲ爲サ、ルモノトス但シ入營又ハ病氣等已ムヲ得サル事情アル場合ハ此ノ限リニ在ラス
申立人ハ小作地ニ建物ノ建設ヲ爲シ又ハ土地地目ノ變換分割合併ヲ爲サ、ルモノトス若シ之ニ違反シタル場合ハ原狀回復ニ要スル費用ハ申立人ノ負擔トス
- 五 風水害其ノ他不可抗力ニヨリ減收ヲ示シ收量反當一石八斗ニ達セスト認メタル場合ハ申立人ハ相手方ニ對シ檢見ノ申出ヲ爲スコト相手方ハ檢見ノ申出アリタル場合ハ遲滯ナク檢見ヲ爲シタル上檢見免ヲ申立人ニ通知スルモノトス申立人右檢見免ヲ承認シ得サル場合ハ申立人ノ希望小作料ノ申出ヲ爲シ小作料ノ協定ヲ爲スモノトス
前項ノ協定ノ成立セサル場合ハ申立人ハ相手方ニ對シ收穫全部ヲ提供シ相手方ハ申立人ノ希望小作料額ニ相當スル玄米ヲ申立人ニ交付スルモノトス
- 六 申立人ニ於テ檢見ノ申出ヲ爲サスシテ立稻刈取ヲ爲シタル場合ハ契約小作料ヲ完納スルモノトス
相手方ニ於テ土地改良ノ爲耕地整理起工其ノ他適切ナル方策ヲ講スル場合ハ當事者ハ協力シテ其ノ達成ニ努力シ申立人ハ決シテ異議ヲ謂ハサルコト
- 七 昭和十年度以降ハ申立人ハ農村振興ノ主意ヲ體シ一致共和其ノ達成ニ邁進シ其ノ第一歩トシテ毎年各自其ノ收入ノ五分以上ヲ左記要綱ニヨリ備荒貯蓄ヲ爲シ不事ノ用ニ備フルモノトス
備荒貯蓄要綱

會員組織トナシ委員ヲ設ケ管理スルコト

集金ハ毎年二月トシ産業組合預金トス

支出ハ委員會ノ決議ヲ經ルコト

役員ハ毎年二月選舉スルコト

貯蓄ハ收入ノ五分以上トス

委員兼相談役トシテ地主内ヨリ一人宛毎年交互ニ推薦スルコト

- 八 申立人ニ於テ第七條ノ積立ヲ履行シタル場合ニ於テハ相手方ハ農村振興並ニ農事獎勵ノ趣旨ニ基キ申立人ノ申出ニヨリ田方ニ限リ肥料トシテ昭和十年度ヨリ昭和十四年度迄毎年反當五升ヲ給與スルモノトス但シ昭和十五年度以降ハ之ヲ給セス

- 九 當事者ハ協調精神ニ基キ左記要綱ニヨリ協調組合ヲ組織シ小作關係ノ圓滑ヲ期スルコト

協調組合要綱

協調組合ニ委員會ノ制度ヲ設クルコト

委員ハ地主小作各側ヨリ同數委員ヲ選出スルコト

委員會ノ決議事項ハ組合員異議ナク承認スルコト

- 十 申立人ニ於テ本協定事項ニ違反ナキ限り相手方ヨリ土地返還要求ヲ爲サ、ルコト

- 十一 昭和九年度掬米ハ左ノ通り減額スルコト

田ニ於テハ契約小作料ヨリ反當四斗七升減額スルコト

桑畑ニ限リ契約小作料ヨリ反當一斗五升減額スルコト

十二 昭和九年度掬米ハ昭和十年四月末日限り納入スルコト

二六 静岡縣庵原郡小島村宍原 (一、永小作權確認 二、小作繼續 三、永小作保證敷金返還、永小作地及右地内植林ノ權利侵害ニ對スル損害金請求)

爭議發生 昭和八年七月中

第一 昭和八年八月三十日

調停申立 第二 昭和九年五月三十日

第三 昭和九年五月三十日

解 決 昭和十年三月九日

關係人員 爭議 地主 新舊各一人 地主側利害關係人 四人 小作人 二十三人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 二十六町九反四畝二十五步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

沿革 庵原郡小島村宍原字戌間山ハ口碑ニハ古來ヨリ櫻野村民(現在庵原郡由比町入山字櫻野)ガ耕作利用シ來リシ山ナリ。

然ルニ武田信玄今川義元ト合戰ノ際興津薩陀峠ヘ甲斐ヨリ進軍ノ途次此ノ戌間山ヲ道案内セル山田某ニ其ノ功トシテ此ノ山ヲ所領セシメタリト云フ。今モ山上ニ一基ノ宮形ノ石碑アリ、臺石ハ間口一

尺奥行一尺三寸高サ三尺五寸ニシテ、其ノ上ニ間口六寸奥行七寸高サ九寸三分ノ石體アリ、中央ニ於ケル厚サ七寸ノ屋根ヲ被ル石體ノ表面ニハ「武田神社、山田文藏建之」トアリ其ノ左右ニハ「武田法性院殿機山大居士、甲斐ノ國士武田(此處一字不明)法入道信玄、武田二十四將之神儀」ト刻マレ裏面ニハ大要左ノ如キ文字刻マレアルモ諸所摩滅シ判讀シ難キ所アリ。(×印ヲ以テ之ヲ示ス)
永錄十一年武田今川薩埵坂×時信玄公本陣ヲ櫻野ヘ蒲原城ヲ落シ先陣山縣真田×山外三村内房ヨリ長坂ヲ越ヘテ宍原ニ宿陣夜ニ入村民ノ案内ニテ×平小島村ニ出今川勢大ニ恐レ氏真情見ノ陣ヲ明××遠洲掛川城ニ貶レ本國ヲ失ヒ一時我田領トナリシトキ右×道案内ノ賞トシ此戌間山壹里四方之地ヲ山田某ニ給ス所也云々

地主 山田文藏建之

隨テ櫻野村民之ヨリ以後宍原村山田家ニ對シ其ノ土地ノ使用料ニ當ルベキモノヲ納付シ來リタルモノト思ハル。然ルニ何代カ經過スル内、山田家ノ財政困難トナリ此ノ山代金ヲ引當ニ櫻野村民ヨリ屢々金融シ來リタルモ、明治年代ニ至リテ之ヲ同村山田文平ニ賣却スルニ至リテ、永小作付廻シニテ今回ノ事件ノ地主山田家ト小作人ノ關係結バルルコトトナリタリ。從ツテ土地ノ所有關係等ニ拘ラズ櫻野村民ハ數百年來此ノ戌間山ヲ自己ノ自由ニ經營スル土地トシテ其ノ生活ヲ維持シ來リタルナリ。即チ戌間山三十町歩ノ土地ハ古來櫻野村ニ取リテ生活ノ基礎ナル土地ニシテ、明治年間行政區畫ノ改變ニ影響セラレテ、宍原村ハ庵原郡小島村宍原トナリ、櫻野村ハ庵原郡由比町入山ノ一字トナリ、土地ノ關係ハ地目ハ山林トナリ畑トナリ、往時ノ過料山、質地等ノ形式ハ普通ノ小作料ヲ支拂フ關係ニ移

リテ、武田信玄ノ代ニ山田家之ヲ領シテ以來明治二十六年ニ至リ現山田耕三ノ祖父山田文平ガ此ノ成
間山ヲ買受ケタル當時ハ民法ニ謂フ永小作權アル土地トシテ賣渡サレタルモ、年月ノ經過ト共ニ地主
ノ當主ハ普通ノ小作關係トシテ取扱ヒ財政整理ニ當リテモ小作人ノ存在ノ如キハ毫モ介意セズ單ニ山
林賣却トシテ買手ヲ求ムルコトニ狂奔シタル結果生ジタル爭議ナリ。

左ニ本件土地成間山ノ櫻野部落トノ從來ノ關係ヲ判ジ得ベキ文書トシテ櫻野部落ニ保存セララルモ
ノノ一部ヲ摘記セシ。

一 賣渡シ申山地之事

猪間山茅場藪代共ニ壹卷

此代金貳拾五兩也 但文字金也

右ハ御年貢金ニ差支書面ノ通り山地賣渡代金愷ニ請取賣渡申候處實正也年季ノ義ハ貳拾五ケ年季ニ
相定メ申候年季來リ候へ者右之山地拙者方へ請取先々ノ通り過領山ニ差出シ可申候尤モ其儘證文引替
置度候節ハ金五兩ノ切金ニ相成候積リ又ハ其節地主方へ山地相返シ被成候節ハ右出金貳拾五兩ヲ以テ
請返シ可申候尙又年季證文引替致シ候節ハ少々ノ金子御出金被下候積リ双方納得仕候上ハ右山地ニ付
他ヨリ一言ノ故障申者無御座候萬一六ケ敷申者御座候ハバ其村方へ一切御難澁相懸申間敷候爲後日證
人加判之證依而如件

文政十年亥拾一月

日

穴原村

賣主	太郎兵衛
證人組合	九左衛門
同	要
親類	仁左衛門
同	宗右衛門

櫻野村

久野 七殿

清左衛門 殿

山内村

宗 七殿

太兵衛 殿

二 貸置申猪間山書付之事

猪間山茅場藪代共ニ壹卷 但五拾ケ年之間此過料金貳拾五兩也

金貳分宛切金ニ相成候積リ
對談ニ取極申候

右者此猪間山之儀ハ是迄年々過料山ニ貸置申候處此度相互ニ双方相談ヲ以テ五拾ケ年分ノ過料壹度
ニ金貳拾五兩只今愷ニ請取當子年ヨリ來丑年迄五拾ケ年季ニ相定メ貸置申候處實正也然ル上ハ其村方
ニテ五拾ケ年間御勝手次第ニ御支配可被成候且此過料金貳拾五兩之義ハ五拾ケ年ノ間ニ金貳分宛切金

ニ相成候積リヲ以テ年季來リ候節ハ金子持參ナシニ而此猪間山私方へ御戻可被成對談ニ而双方相談行
居相極候ニ付右年季來リ候節ハ御對談通り金子持參ナシニ而此猪間山私方へ無相違御戻シ可被成候猶
又吳々モ書印シ置申候處五拾ケ年ト申候而ハ程遠キ義ニ付相互ニ慥成取極メ致置度候ユへ念入置申候
間前書申上候通り金子持參ナシニ而此山地私方へ無相違御戻可被成候依之入置申書付爲後日親類組合
連印一札仍而如件

嘉永五壬子年正月 日

宍原村

山主 太郎 兵衛

組合 九左衛門

同要 右衛門

親類 仁右衛門

櫻野村

久七殿

清左衛門殿

山内村

惣七殿

太兵衛殿

三 貸置申猪間山書付之事

猪間山茅場藪代共ニ壹卷 但百五拾ケ年之間

此過料爲草切ハ金五拾三兩也

但金壹分壹朱ト五厘宛切金ニ相成様對談取極申候

右者此猪間山之義是迄年々過料山貸置申候處此度相互ニ双方相談ヲ以テ百五拾ケ年過料金切金壹度
ニ金五拾兩也唯今慥ニ受取且年季ノ義ハ當午年ハ來亥年迄百五拾ケ年季相定貸置申處實正也然上ハ其
御村方ニテ百五拾ケ年之間ハ御勝手次第御支配可被成候且此過料金切金五拾三兩ノ義ハ百五ケ年之間ニ
年々金壹分壹朱五厘宛切金ニ相成候積リヲ以年期ニ來リ候節ハ金子持參ナシニテ此猪間山私方へ御戻
シ可被成候對談ニテ双方相談行届取極候ニ付右年季來候節ハ對談ノ通金子持參ナシニテ此山地私方へ
無相違御戻可被成候吳々茂所印置申候處百五拾ケ年ト申候而モ程長キ義ニ付相互ニ慥成取定致置度候
故念入申候間前記申上候通金子持參ナシニテ山地私方へ無相違御戻シ可被成候且年季中ハ御無心等決
シテ申間敷候依之入置申書付爲後日親類組合連印一札依而如件

明治三庚午年十二月

宍原村

山主 太郎 兵衛

組合 維藏

同由 藏

櫻野村

惣 八殿
久 七殿
清 右衛門殿

親類
同 仁右衛門
安藏

四 拾ヶ年季山地賣渡シ之證
九拾壹番地

字猪間山雜木立五町八畝步地券證預ヶ置候

一 金百四拾圓也但シ

境之儀ハ西ハ小河内村山境也
南ハ入山村之内小名櫻野村山境也

此割 金七拾參圓 北之向櫻野支配地
金六拾七圓也 南向山地支配地

但シ 境之儀者赤坂迄
澤筋見通シ

地券掛リ金拾圓八錢八厘右之通り正ニ請取申候也

東者中尾根迄水渡シ
境ヘテ殘壹卷地

右地所ニ付而者去明治三午年事故ニ因テ各方へ百五十ヶ年之年季作ニ相渡シ其ノ草切トシテ壹ヶ年ニ金分壹朱ト五厘ツツ切金ニ可致筈之所右年數一度ニ書面之金子儘ニ請取年季來リ候節ハ前書ノ金子無之ニシテ右地面御辰シ可被下旨規定書爲取替置候次第相違無御座然所私シ此度金子入用ニ接迫致シ不得止右年季中之内金百圓増金被下候上ニ者永賣ニ可仕旨申入候處則各方御承知ニ相成候ニ付前金四拾圓正ニ請取跡金之儀者右地券證引換可申筈ニ而歸村仕不取敢書面相認メ候處剩調印ニ不都合ヲ生シ

候間其筋ニ相伺候處豈科保證人加判無之而者與印難致旨被申渡且以前書入置候書面等モ御規則上不都合之義モ有之哉ニ被申聞驚嘆之餘リ無據其趣各方再エ々達シテ御無心申入候所倚願之通り是亦御承知被下難有候然上ハ明治九年ヨリ來ル明治十八年迄拾ヶ年之間右地面御勝手次第御支配可被成年季來候節ハ右書面之通金子調達候上ニハ元姿ニ泥メ地面御渡シ可被下候若又其年限ニ至リ私勝手ニ付書面相認メ直シ年季相延度節ハ何分ノ御談ニ預リ度此地之儀ハ格別成前々之次第有之候間必然無御斷他エ賣買等一切致間敷萬一他エ賣渡シニ致候儀御聞及ニ相成リ候節ハ私シエ御談ノ上古證文面之通各方ニ而御支配可被成候且年季來リ候節ハ請辰之儀歟或者書面認メ替之儀歟兩様之内不申上候節ハ向後流地タルベク候爲其右地券證相預ヶ爲取替證書仍而如件

紀元貳千六百三拾六年

明治九年一月 日

山賣主 山田太郎兵衛
組 合 山田由藏
同 山田梅吉
親 類 山田仁兵衛
同 大木安藏

入山村之内字名山内里

望月新右衛門殿

望月 太平殿
望月 新兵衛殿

同字櫻野里

青木 惣八殿

宇佐美 喜三郎殿

宇佐美 交次郎殿

前書ノ通相違無之ニ付奥印候也

明治九年子一月二十三日

右村副戸長

山田

文藏印

五 約定之證

第一條

明治十九年二月乙第十六號本項二三ヶ年季ト記載是アルト雖モ双方ノ都合ヲ以テ右證書其儘据置明治三十八年迄中二十ヶ年ト相定第四條之增加金ヲ質取金ヨリ可差出事

第二條

租稅諸費共悉皆地主之負擔可爲致

第三條

年季中如何様之事故出來致トモ決シテ違約致間敷事

第四條

增加金拾八圓双方熟談ノ上相定候事

第五條

增加前金ヲ以翌年分ヲ前年ノ舊十二月二十日限リ地主へ相渡事

第六條

地界之義ハ下大澤屈リ奥ハ小河内界上ハ尾羽根通リ北向之平壹卷櫻野村受持之分

第七條

明治三十八年迄ト雖モ前金ニ相渡シ同三十七年迄限增加金相濟候事

右之條項双方示談之上相定メ候ニ於テハ期限中違背申間敷依而保證人連署爲取替約定ノ證如件

明治十九年二月十二日

駿河國庵原郡安原村

山田 太郎 兵衛

山田 九左衛門

山田 勝五郎

大木 安藏

同國同郡入山村字櫻野

宇佐美 喜三郎殿

青木家作殿

宇佐美文次郎殿

六 五ヶ年期小作約定證

駿河國庵原群小島村宍原三千五十七番地第一ノ乙字戌間

一 山林拾壹町三反八畝拾步

地價 金拾貳圓六錢七厘

同國同郡同村同番ノ第六

字同

一 畑八反七畝九步

地價 金三圓三拾錢貳厘

同國同郡同村同番ノ第七

字同

一 畑八町貳反八畝貳拾步

地價 金三拾三圓廿六錢八厘

合反別貳拾町五反四畝九步

此地價金 四拾六圓六拾四錢七厘

此小作金壹ヶ年分

金貳拾圓也 期限中年々相納可申候

右者前書之地所本村山田友吉カ今般拙者方へ買取候ニ付テハ往古カ貴殿方右地所永小作仕來リ候ニ付先々通小作聞届候ニ付テハ以來小作金之外ニ永小作約定保證敷金トシテ山田友吉御預ケ金之義同人カ附廻ニ相成様當方へ正ニ預リ置申候ニ付小作約定スル件左ノ如シ

第一條

一 境界之義ハ北者山内組小作地大澤通リテ西へ見通シ西ハ小河内山尾根境東ハ鈴木善次郎持山背

境下ハ澤へ下リ上ハ池田山尾根へ見通シ南ノ方櫻野山尾根水渡リ境西ノ方小河内山へ續ク

第二條

一 右地所永小作保證敷金七拾參圓也前カ山田友吉へ預ケ金有之候今般同人ヨリノ附廻相成拙者方ニ正ニ預リ置申候且向後小作金ニ不納有之候節ハ右金ニテ引去リ納付候事

第三條

一 小作之義ハ壹ヶ年分金貳拾圓ニ相定期限中年々舊十二月二十五日限リ相納可申事但組内ニ小作不納者有之候トモ世話人ニ於テ速ニ調達相納可申事

第四條

一 第二條ニ掲クル永小作保證敷金保管中ハ地主ニ於テ他へ小作替等ノ權利無之者トス又保證金消滅之節ハ小作替ノ機利ヲ有スルモノトス

第五條

一 期限ハ當明治二十六年一月ハ來ル三十年迄ヲ一期トシテ每五ケ年目ニ至リ約定切替可致事
 但本年ハ三ツ又相場壹駄ニ付三圓以上四圓以下ナルニ付約定ス期間五ケ年後ニ三ツ又薪炭相場ニ
 異動有之節ハ小作ヲ増減スルコト有ベシ且異動無之節ハ猥ニ増減スルコトヲ得ス
 右之通り今般約定取極候上ハ以來小作上ノ義ニ付相互ニ不實不公平ナル義決シテ申間敷候爲後日双
 方連署爲取換約定證仍而如件

庵原郡小島村安原
 地主 山 田 文 平 印
 同郡同村
 保證人 大 木 安 藏 印

庵原郡由比町入山字櫻野

宇 佐 美 喜 三 郎 殿
 青 木 惣 作 殿
 宇 佐 美 淺 次 郎 殿

即櫻野部落民ガ今回地主ノ土地賣却ニ對シ該土地ヨリ離ルルコトハ生活ノ根據ヲ失フコトニシテ且
 契約上モ當然永小作地ナリトシテ爭ヒタル契約上ノ根據ハ前記六ノ契約ニ基ク永小作保證敷金ニア
 リ。

爭議ノ原因前述ノ如ク成間山三十町歩ノ山地ヲ櫻野部落民ハ古來ヨリ引續キ自由ニ經營シ來リ或ハ

秣場トシテ或ハ切替畑トシ或ハ桑畑トシ、明治年間ノ契約書ニモ見ラルル如ク明治時代ハ三極栽培ニ
 依リ最有利ノ經營ヲナシ來リタリ。然ルニ三極栽培ハ相當年數後ハ土地瘦セテ引合ハザルニ至レモ孰
 レモ之ヲ放棄シテ新地ヲ探ネ栽培スルモノニシテソノ跡地ハ自然生雜木林トシテ薪炭經營ニ移リ地力
 恢復スルニ至リテ榛ノ木ヲ生ズルニ至リ再ビ三極栽培ニ適スル様ニナルニハソノ間相當ノ年月ヲ必要
 トス。

然ルニ大正年間櫻野部落民ニテ組織スル櫻野報徳社本社駿河報徳社ノ社長片平九郎左衛門氏成間山
 ヲ視テソノ山地利用上報徳社ノ恒産ヲ造成スル爲ニソノ一部ニ杉檜ノ植林ヲナシ百年ノ大計ヲナスベ
 キコトヲ勸奨シ、大正十一年片平九郎左衛門氏外二三ノ有志者ノ寄附ヲ主トシ杉檜苗三萬五千本ノ植
 林ヲナシ、地主山田耕三ト植林ニ關スル契約ヲ左記ノ如ク締結シタリ。

契 約 書

庵原郡小島村字安原字成間山
 合計反別 貳拾町五反三畝二十六步

内 譯

字成間山參千五拾七番
 一 山林拾壹町參反八畝拾步 此内凡五町歩ハ小字大畑ト稱ス
 字同番ノ六大日向中道上
 一 切替畑八反七畝九步

字同番ノ七大日向中道下

一 畑八町貳反八畝七步

吾等貳拾六名報徳社ヲ組織シ櫻野報徳社事業トシテ前書御貴殿御所有地ニ植林仕リ度種々歎願仕リ候處格別ノ御詮議ヲ以テ幸ヒニ御承諾ヲ得候段誠ニ有難ク依テ爲後日後項契約仕候事實正也

記

一 契約書作製上貴殿ヲ甲ト仕リ吾等貳拾六名ヲ乙トシテ後項契約仕リ候

二 甲ハ乙ニ植林地トシテ戊間山合反別貳拾町五反參畝二十六步ノ内凡五町步小字大畑ヲ貸付候事

三 乙ハ甲ノ承諾デ甲所有地戊間山ニ大正拾壹年ヨリ大正拾六年迄ニ全部乙ノ費用ヲ以テ地番全般ニ

亘リ植林ヲナス事

四 乙ハ植林地全部ヲ植林完了後拾五ケ年間貳回宛自己ノ費用ヲ以テ下刈ヲナスコト

五 乙ハ該植林地内ニ有ル五木ヲ植付ヨリ四拾年未滿ノ年數ニテ此ヲ伐株セザルコト

六 甲乙合議ノ上ニ非ザレバ立木ノ賣却ハ勿論伐株ヲナス事ヲ得ズ

七 賣却價格ハ甲ト協議シ甲ノ承諾ハ勿論乙之ニ應ゼズバ立木ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ズ

八 所得稅ハ立木賣却ノ時前引トシテ甲ニ預ケ置ク事所得稅ハ其時ノ稅率ヲ以テ採用ス但甲ノ取得ノ分ニ限ル

九 乙ハ此ノ賣上總額ノ内百分ノ五拾七半ヲ取得シ甲ハ賣上價格ノ百分ノ四拾貳半ヲ取得スルモノトス

十 右契約ハ此契約締結後五ケ年間ニ植付滿了セシ立木賣却サルト同時ニ效力生ズルモノトス

十一 甲ハ右契約ノ效力存在中乙ノ承諾ナク該地ノ所有權ノ移轉ヲナサザルノミナラズ乙ノ地上權ニ重大ナル可キ行爲ヲナサザル事

十二 乙ハ其ノ權利ヲ甲ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ他へ賣却及讓渡スル事ヲ得ズ

十三 甲ノ承諾ナク乙ガ其ノ權利ヲ他へ轉賣及讓渡シタル時ハ其ノ權利ハ甲及他ノ乙ニ對シ何等權利ノ主張ヲ爲ス事ヲ得ズシテ效力ハ自然消滅スルモノトス

十四 乙ガ第三項及第四項ノ契約ヲ實行セザル場合ハ本契約ノ效力ヲ失シ其時ノ現狀ヲ以テ無條件ニテ甲ニ地所ノ引渡ヲナスモノトス

十五 乙ハ充分ナル注意ヲ以テ植林地ノ保護ヲナシ年々伐株ニ至ル迄ノ間ハ防火ノ設備ヲ完全ニ行フ可事

十六 右契約書貳通ヲ作製シ甲乙各一通ヲ所持スルモノトス
右契約證仕リ候事實正也依而契約如件

庵原郡小島村宍原字七十貳番地

地主 山田文平

山田耕三

保證人 青木喜市

庵原郡由比町入山字櫻野報徳社

鈴木 周作殿
望月 文吉殿
青木 重作殿
宇佐美 角次郎殿
青木 惣作殿

大正拾壹年五月四日

然ルニソノ後昭和四年ニ至リ地主ハ自家ノ財政状態ハ既ニ全財産ノ處分ヲナスモ負債ヲ償フ能ハザル
ヤノ虞アルニ至リ右契約ノ履行モ困難トナリ、該契約ヲ改ムル交渉ヲナシソノ結果左ノ契約ニ改メタ
リ。

契約 證

今般成間山賣買ノ件ニ付山田重松ト櫻野報徳社兩間ニ於テ山田重松ヲ甲ト呼ビ櫻野報徳社ヲ乙ト呼
ビ以テ左ノ條項ヲ締結ス

- 一 乙ハ前記場所へ五拾ケ年契約ニテ殖林セシモ甲ノ都合ニ依リ轉賣ノ際ハ彼ノ殖林地現在迄ノ經營
者トシテ甲ヨリ乙へ壹千圓也ヲ納附シ別紙五拾ケ年契約ヲ解除スルコトヲ承諾ス
- 二 萬一昭和四年後下刈リ時期迄轉賣ノ見込無時ハ甲乙兩者間相談合ノ上下刈リヲナス事但シ費用ハ
甲ノ負擔トスベキ事

- 三 各自小作ノ雜木五年生以上ノ場所ハ昭和四年中ニ伐採スルコト
- 四 各自隨意ニ殖林セシ場所ハ解除ト同時ニ苗代トシテ相當ナル手間代ヲ支拂フ事
- 五 萬一昭和四年中ニ轉賣ニナラザル場合ハ同年中ニ於テ收益ヲ得ル個所ニ限り小作金ヲ納入スル事
右ノ五項ヲ甲乙ニ於テ妥協ノ結果承諾ス依テ爲後日契約ノ證トシテ二通ヲ作製シ各自一通宛所持スル
コト但シ昭和五年度末迄ニ轉賣ヲ得ザル場合ハ從前通り小作權ヲ甲ハ乙ニ改テ契約ス

昭和四年三月三十日

庵原郡小島村安原

山田 重松

同郡同村

立會人 望月 久太郎

山田 耕三

櫻野報徳社長

鈴木 周作殿
宇佐美 角次郎殿
青木 惣作殿
宇佐美 吉太郎殿
望月 文吉殿

次デ昭和七年ソノ延期證ヲ差入レタリ

延 期 證

今般成間山殖林地ニ對シ昭和四年三月三十日別紙契約證交換致候處都合ニ依リ昭和九年四月二十七日迄延期致ス事ヲ約諾ス然レドモ前記ノ期間内ニ轉賣セザル場合ハ殖林當初ノ契約ヲ履行スル事ヲ契約ス依テ爲後日延期證差入置候也

庵原郡小島村宍原

山 田 重 松

立會人 望 月 久 太 郎

庵原郡由比町櫻野報徳社長

青 木 嘉 一 殿

昭和七年四月二十七日

然レドモ地主ハ其ノ財産ヲ競賣セラルル機迫リテ成間山七十町歩ヲ清水市村野某ニ強テ買求メシムルコトニ成功シタリ。然レドモ地主ハ櫻野村民側ニハ該土地ノ山林ニ對スル解約示談金ノ提供ヲ爲サズ。人ヲ介シテ土地ノ買求メヲ請求シ之ニ應ゼザルニ於テハ土地ノ引渡ヲ求メタリ。即櫻野部落民ハ事ノ意外ニ驚キ其ノ善後策ヲ立テントシテ茲ニ地主ト對立スルコトトナリタリ。

(二) 爭議ノ經過

昭和八年七月地主側ノ代理人トシテ望月某ヨリ契約金一千圓ヲ減額スルコトノ交渉ヲ受ケタルモ小

作人側ハ之ヲ拒絶シタリ。然ルニ間モナク地主代理人トシテ稻葉某櫻野ニ來リ減額ノ交渉ニ應ゼザルナラバ本日ヨリ一切ノ耕作ヲ差止ムル旨ヲ小作人側ニ告ゲ歸リタリ。事ノ意外ナルニ驚キ櫻野部落民ハ櫻野ニ傳フル古來ヨリノ文書竝ニ本件契約書、小作料受取書等ヲ蒐メ櫻野報徳社長青木某外數人ヲ以テ縣小作官ニ地主ノ意ノ如ク耕作ヲ差止メラレタル場合ノ小作人ノ立場ニ付質シ尙本件ニ付テノ今後ノ處置等ニ付希望ヲ述べタルニ由リ、小作官ハ取敢ズ調停申立ヲナスコトト極力地主ト折衝シ適當ノ解決ヲ爲スコトヲ勸メタリ。爾來地主側ハ小作人ガ契約ニ反シテ土地ノ明渡ヲ爲サズト稱シテ親籍ナリト稱スル附近町村長其ノ他ノ者ヲ介シテ小作官ニ種々ノ申出ヲナシ來リタルモ何レモ其ノ小作人ニ提供スベキ金額ヲ三百圓位ト申出デタルヲ以テ到底調停ノ餘地ナキモノトシテ一層考慮スベキコトヲ勸メタリ。

(三) 調停ノ經過

地主ノ主張ハ解約金ノ一千圓ハ成間山三十町ノ櫻野部落民ノ全小作地ニ付テノ事ナリ。然ラザレバ斯ル約ヲ成ス理由ナシ。故ニ即時明渡ニ應ズルコト當然ナリト云フ。小作人ハ櫻野報徳社ノ植林ニ對スル解約ニ依リテ全小作地ガ同時ニ失ハルル様ナ約束ヲナシタル覺ヘモナク又カカル主張ニ從ヘバ櫻野部落民ノ將來ノ生活ヲ保チ得ザル大問題ナリ、故ニ解約金ノ問題ヨリモ小作ノ繼續ニ付テ地主ノ確認ヲ求ムルコト目的ナリト云フ。

小作人ガ申立ヲ爲シタル當時ハ本件土地ハ尙賣却セラレザリシモ既ニ第一回調停委員會ヲ開キタル當時ハ登記ヲ了リタル後ニシテ買手ハ既ニ其ノ賣買契約ニ基キ櫻野小作人ハ小作地ヲ明渡シ其ノ植林

ノ部分モ買取リタルモノト信ジ居リタリ。即チ買受代金ノ前渡金一千圓ハ小作人ニ渡ス約束ニテ支拂ヒタリト云フ、然レドモ小作人ハ地主ヨリ賣却シタル通知ヲ受ケズ、買主トノ契約ニ基ク示談金一千圓モ受領シ居ラザル事實ヨリ、相手方賣主ノ不信ノ行爲ヲ責メタルモ賣主ハ家事上ノ窮地ヲ唱ヘテ多年恩義ヲ受ケシ地主ニ對シ斯ル調停手續ヲ執リタルコトヲ攻撃シテヤマズ、容易ニ解決スル方法ナキヲ以テ當日ハ地主ニ對シ本件ハ單純ナル民事事件ニアラズ、刑事事件トナル場合相當重大ナル結果ニ陷ルベキコトヲ指摘シテ考慮ヲ求メ櫻野部落民ノ案内ニテ急峻ナル成間山ニ現地檢證ヲ爲シテ了リタリ。

備考山田ヨリ村岡ニ差出シタル一千圓受領ノ際ノ契約證ハ左記ノ如シ

契 約 證

庵原郡小島村安原字成間山參千五拾七番地外九筆計反別七拾六町四反壹畝壹歩ノ土地今回貴殿ニ賣渡登記申請ト同時ニ異議ナク小作權ヲ解除致シ若シ小作者ニ於テ異議ノ申立ヲスル時ハ拙者等引受貴殿ニ御迷惑相懸ケ申間敷依テ日爲後契約證如件

昭和八年八月二十九日

賣 主	庵原郡小島村安原
山 田	耕 三 印
同 所	鈴 木 敏 一 印

消水市上清水一四六

村 岡 源 次 郎 様

爾來委員會ヲ開クコト數回調停委員ヲ更ヘ調停場所ヲ變ヘ其ノ間報徳社或ハ地元有志等モ種々調停ニ奔走シクルモ相手方賣主ガ財政上櫻野部落民ニ對シテ補償ヲ爲スベキカナキコトヲ主張スルノミナルヲ以テ仲介者ハ何レモ手ヲ引キタリ。

調停委員會モ櫻野部落民ガ成間山ノ耕地ヲ失フコトハ部落民ガ生活ヲ維持シ得ザル結果ヲ導クモノトシテ之ガ耕作繼續ニ主力ヲ置キ、新地主村岡某ニ對シ極力植林計畫ノ一部ヲ變更シテ暫ク耕作ヲ繼續セシムル様説キタルモ、新地主ハ舊地主ガ小作人ニ渡スコトニ依リ圓滿解決シテ植林ニ支障ナキモノトシテ手交シタル一千圓ガ小作人ノ手ニ交附サレズシテ荏苒今日ニ及ビ自己ノ事業ニ着手シ得ザル迷惑ヲ主張シ、櫻野部落民ニ對シテ耕作ヲ認ムルコトニハ應ジ得ズト主張シ、又止ムヲ得ズ買取リタルモノナラバ櫻野部落民ニ該土地ヲ賣渡スモ可ナラズヤトスル意見ニ對シテハ買取リタル以上ハ之ヲ

同 所	稻 葉 友 三 郎 印
同 所	山 田 重 藏 印
同 所	望 月 久 太 郎 印

賣渡スコトニハ應ジ得ズト主張シ容易ニ調停ノ方途ナク經過シタル内、新地主ハ家庭上ニ不幸相次デ起リ期日モ延期ヲ重ネタルガ、翌年五月ニ至リ小作人側ハ最初ノ調停申立ガ舊地主ノミヲ相手方ト爲シタル爲他ノ關係者ガ自己ノ事ニ非ザルガ如ク回避スル状態ニ堪エカネ調停委員會ノ諒解ノ下ニ新ニ舊地主竝ニ其ノ山ノ賣却ニ付新地主ト直接關係アル保證人ヲ相手方トシテ損害賠償ヲ求ムル調停申立ヲ爲シ、新地主ニ對シテハ小作繼續ヲ求ムル調停申立ヲ爲シ事件ノ進行ヲ計ルコトトシ、更ニ數回ノ委員會ヲ開キタル結果昭和十年三月清水市役所ニ於ケル委員會ニ主ナル當事者大部分集リ熱心ナル調停委員ノ勸告ニ依リ當事者間ニ於テ遂ニ妥協成リ土地ヲ明渡シ示談金ヲ減額シテ受領スル調停成立シタリ。當日ハ清水静岡兩市ニ於ケル防空演習ノ日ニシテ委員會モ夜間消燈ノ中ニ交渉ヲ進メテ遂ニ三年越シニ紛糾シタル事件モ一段落ト爲リタリ。

(四) 結 末

一 櫻野部落民ハ當初ヨリ主トシテ耕作ノ繼續ノ調停ヲ求メタルモ相手方ニ之ヲ認メシムルコト困難ナリシ爲、將來生活ヲ展開スベキ畑地ノ購入ニ付由比町産業組合ヲ通シテ自作農資金ノ轉貸ヲ得ル様縣小作官ノ將來ノ盡力ヲ得ルコトトシ、昭和十一年春該土地ヲ明渡シ成間山ニ付テハ只新地主ノ植林ニ付出來ル丈ケ櫻野部落ニ好意ヲ寄セラシ、様諒解ヲ得舊地主ヨリハ植林契約ノ解約示談金ト其ノ他ノ賠償要求ヲ合シテ舊地主竝ニ保證人五名ノ連帶ノ下ニ金九百圓ヲ受クルコトヲ以テ満足スルコトトナリタリ

二 舊地主ハ當初小作地全部ヲ放棄スル爲金一千圓ノ示談金ヲ出ス契約ナリトノ主張ヲ翻サズ且ソノ契約金ヲ二百圓乃至三百圓ニテ我慢セヨト主張セシモ、利害關係アル保證ニ立チシ人々ノ内相當資産家ニシテ宍原郵便局長ヲ勤ムル鈴木某ガ責任ノ重大ナルコトヲ諒解シ相當ノ出金ヲナスコトヲ認メタル爲保證人連帶シテ金九百圓ヲ支拂フコトヲ承諾シタリ

三 新地主ハ櫻野部落民ガ三月九日ノ委員會ニ於テ事件ヲ解決セシムル迄ニ讓步セルコトニ對シ金七十圓ヲ贈與シ、土地ハ昭和十一年三月九日迄ニ地上ノ薪炭用雜木一切ハ之ヲ小作人ガ伐去シテ同日限り有形ノ儘明渡ヲ受クルコトヲ以テ承諾シタリ。而シテ今後成間山植林ニ關スル下刈植付管理等ニ付テモ好意ヲ以テ櫻野部落民ニ勞銀ヲ取得セシムル様協議スベキコトヲ諒解シタリ。右結末ノ内調停條項トシテ記載シタル事項左ノ如シ

調 停 條 項

- 一 相手方山田耕三同鈴木敏一同稻葉多三郎同山田重藏同望月久太郎ハ連帶ニテ申立人等ニ對シ金九百圓ヲ昭和十年五月十日限り支拂フコト但シ其ノ支拂ノ方法ハ右九百圓ヲ分割シ相手方鈴木敏一ニ於テ金貳百圓同山田耕三ニ於テ金六百圓同山田重藏ニ於テ金百圓ヲ出金スル事
- 一 相手方村岡源次郎ハ申立人等ニ對シ
 - (一) 金七拾圓ヲ昭和十年五月十日限り支拂フ事
 - (二) 庵原郡小島村宍原三千五十七番ノ八畑十町七反八畝二十步同所同番ノ六畑一町三反八畝二

十七步及同所同番ノ七畑十四町七反八畝八步（但シ昭和八年小調第一二號小作調停申立書ニハ庵原郡小島村安原字成間山合計反別二十町五反三畝二十六步ト記載シアルモノ）ノ地上ニ現存スル雜木全部ヲ現場ノ儘本件調停成立ト同時ニ無償贈與ノコト

一 申立人等ハ昭和十年三月九日限り前項贈與ニ係ル雜木ヲ伐採シ土地ヲ明渡ス事但シ相手方村岡源次郎ノ殖林ニ差支ナキ場所ニ搬出シ置ク事

尙同日迄ニ伐採セサル雜木ニ付テハ申立人等ニ於テ之カ所有權ヲ拋棄シタルモノトシ相手方村岡源次郎ニ於テ住意處分スル事

一 第二項記載ノ不動産中申立人等ニ於テ從來畑トシテ耕作使用シ居タル部分ニ付テハ相手方村岡源次郎ハ昭和十一年三月九日迄申立人等ニ對シ無償ニテ使用收益セシムル事但シ同日限り之ヲ申立人等ヨリ相手方村岡源次郎ニ明渡ス事

一 相手方等カ申立人等ニ對シ支拂フヘキ前記各金員ハ申立人中ノ望月文吉ヲ申立人等ノ代理人ト定メ同人宛テ之ヲ送金スル事

一 本件ニ於テ申立人等カ第二項記載ノ不動産ニ關シ爲シタル其ノ餘ノ請求ハ全部拋棄スル事
一 本件ニ關スル手續費用ハ各自辨ノ事

以上

調停成立後ノ經過

地主山田某ハ金九百圓ノ支拂ヲ期日ニ於テ參百圓支拂ヒ其ノ後小作人ヨリ屢々督促シ遂ニ小作官ヨ

リ裁判所ノ手續ヲ以テ執行スルコトアルベキ旨ヲ通知スルニ及ビ昭和十年十月月中ニ支拂ヲ了シタリ。

新地主村岡ハ調停成立後櫻野村民ガ下刈其ノ他ヲ低賃銀ヲ以テ請負ヒ且九月二十一日ノ靜岡地方震災ノ當時逸早ク見舞ニ駆付ケ諸片付ニ從事セントシタル誠意ニ感激シ櫻野村民トノ關係ハ親密ナル状態ニアリ。

二七 愛知縣東春日井郡小牧町大字舟津（小作繼續）

爭議發生 昭和六年五月二十五日

調停申立 昭和七年十一月二十一日

解 決 昭和十年三月十八日

關係人員	爭議	地主 十七人	小作人 四十五人
	調停	地主 十五人	小作人 十人（小作人申立）
關係土地	爭議	田 一町八反八畝八步	畑 七反一畝十四步
	調停	田 二町六畝十二步	畑 七反二畝步

(一) 爭議ノ概況

本件係爭ハ各々境遇ヲ異ニセル地主（自作地擴大ヲモットトセル勤勞主義ニ徹底セルモノ、小學校長、元銀行員、小商人等）、小作人（自作農者ニ近キ小作人モアレバ自作地ハ勿論少シモナク小作地モ僅カニシテ荷馬車曳キヲナスモノモアリ）間ニ起レルモノニシテ、其ノ發端トモ見ル可キハ耕地整

理後ニ於ケル掟改定ヲ不滿トシテ其ノ引下ゲ方ヲ要求セルニアルガ如シト雖モ單ニ此ノ事ノミニ止マラズ、次ノ如キ複雑ナル事情ノ下ニ發生セルモノナリ。

一 大自作農ニ依ルニ非ザレバ生活費ノ向上ヲ支へ得ズ又家族増加ノ曉ニ於テ分家等ヲ爲スノ資ニナス能ハズトスル主張者(伊藤某)ヲ中心トシテ地主團ノ連鎖ヲ爲シ居ルコト(縣ノ指導方針ヲ遵奉スルモノナルコトヲ強調ス)

二 自作經營ニ難色アル地主ハ耕地不足ノ状態ニ置キ小作料高率状態ヲ出現セシムル爲大自作農主義者ニ迎合スル事

三 掟減額問題ガ昔日ノ如ク地主ノ申渡ガ直ニ決定ト成ラザル傾向アルニヨリ之ヲ昔日ノ如ク地主ノ申渡ヲ承服セザル場合ニハ即時占有引渡ノ契約ヲ成立セシメントスル事

四 辯護士ニ鑑定セシメタルニ小作料問題ニ觸レズ返地豫告ヲ爲サシメ調停其ノ他ノ仲裁ヲ排除シ然ル後各自ノ都合好キ方策ヲ採ル事

地主側ニ於テハ上述ノ如キ底意ノ下ニ昭和六年三月全然地主本位ノ小作證書(返地ニ對シ、小作料決定ニ對シ地主ノ絶對的自由ヲ確保セルモノ)ヲ小作人側ノ主ナル者ニ示シ、之ヲ差入ル可キコトヲ關係小作人四十五名ニ通達方申渡シタリ。茲ニ於テ小作人ハ協議ヲ重ネタルモ耕地整理後永久減額ヲ要求セントスル下協議ヲ爲シ其ノ時期ヲ考ヘツツアリシ際ナルヲ以テ其ノ意外ナル要求ニ驚キ之ヲ拒絕セリ。其ノ後地主側ヨリ小作人全員四十五名ニ向ツテ内容證明郵便ニヨル返地ノ豫告ヲ發セリ。此ノ通告ハ豫告ナルガ故ニ小作人ノ對策モ速ニ協議セララル事ナク、昭和六年ノ納米期トナリ小作人側ヨ

リ地主ニ向ツテ不作ヲ理由トシテ田三割畑一割五分引ヲ要求セリ(此ノ要求ニハ本係争地ガ耕地整理後永久引ナキヲ理由トシテ一割ヲ附加セル意味ノ含蓄アル附言アリ)。地主側ハ返地豫告中ナルヲ以テ素ヨリ何等ノ回答ヲ與ヘザリシガ、其ノ間區長ノ盡カスル所トナリ曩ニ要求セル小作證書ヲ差入ルルナラバ田二割畑一割引ヲ應諾スル旨解答ヲ與ヘタルモ、小作人側ハ小作證書ノ問題ニ觸ルルヲ避ケ永久引ヲ要求セリ。茲ニ於テ區長ハ仲介辭退ヲ申出デ事態漸ク繁カラントスルヤ副區長ハ區長、議員十名、村年行事十名ノ合議體ニ於テ將來ニ關係スル一種ノ協定案ヲ作成シ、之ニ一任スルノ案ヲ提出セリ。此ノ合議體ニ於テ作成セル案ノ骨子ハ

一 永久減額ニ關スル事(五升位)

二 不作ノ場合ニ於ケル減免限界點ノ事

三 小作ノ性質ヲ賃貸借ナルコトヲ明確ニスル事

四 明渡豫告期ヲ三年前トスル事

五 無豫告返地ノ場合ニハ金何圓ヲ支出スル事

等ナリシモ双方該合議體ヘ一任スルヲ肯ゼズ。殊ニ地主中ニハ多數者ノ干涉ニヨリ事ノ決スルヲ好マザル者アリテ交渉順調ニ進展セズ、偶々小作人中十三名ノ正義團員トナルモノアルヤ、地主中ノ一員伊藤某ハ正義團ニ加入セザル小作人ト密ニ款ヲ通ジ小作證書ヲ徵スルコトナク、田一割三分五厘畑六分引ニテ解決シ、殘レル正義團員ニ向ヒテハ何等ノ交渉ヲ開始スルコトナク豫告滿期ニ至リ(昭和七年六月二十日)返地訴訟ヲ提起セリ。小作側ハ一、二回應訴ノ後七年十一月二十一日ニ至リ小作繼續

ニ關スル調停ノ申立ヲ爲セリ。

(二) 調停ノ經過

本件爭議が大地主對小作人ノ問題ニ非ズシテ中、小地主ニ關スル問題ニシテ現時ノ農村社會ニ於ケル現實ノ社會相ナルヲ以テ、委員會ニ於テハ此ノ取扱ニ最モ慎重ヲ期シ努メテ不自然ヲ排撃スル趣意ニ出デタリ。之ガ爲ニ回数ヲ重ヌルコト二十六回、時ヲ閱スルコト二年四ヶ月ニ及ベリ。今大體調停委員會ニ於ケル兩者ノ主張ヲ摘記スレバ

小作側

- 一 自分等ハ昭和六年度コソ不作減免ヲ要求シタルモノソレ以前ハ多少ノ不作位ハ辛抱シ掟米ヲ皆納シ何等不都合ヲナシタル覺ナシ
- 二 村年行事等ノ世話ニナリシ際何故協調セザリシヤトノ事ナルモ大體此ノ時ハ地主側ニ於テ成立セシムル誠意ガナカリシモノト思フ且區長ハ地主側ニシテ中立ナル副區長等ノ起草ニ對シ其ノ内情ヲ地主側ノミニ通ジタルノ形跡アリ
- 三 返地ヲ要求スル地主中耕作能力アルモノハ一、二ニ止マリ他ハ耕作出來ザルモノト思フ且耕作能力アル人モ其ノ現耕地面積小作人中ノ最モ多キ耕作面積ヨリモ多ク二町内外ナリ
- 地 主 側
- 一 適法豫告期間ニヨリ返地要求ヲ爲セルモノニシテ之ニ付返地ノ理由事情等ヲ問ヒ訊サレルハ心得難シ

二 返地ヲ求メル事由如何ニ依テ左右セラルルガ如キ事アラバ土地ノ權利ガ無クナルト思フ

三 法律デモ改正セラレテ地主ノ權利ガ薄ラグラバ甘ンジテ承服ス可キモ今日ノ狀況ニテ返地要求ヲ押ヘラルルハ心得難シ

四 銀行員ヲ退職シ身體モ强健ニ非ズ且負債モ有ル故返地ヲ受ケ一部ハ手作ヲ爲シ一部ハ賣却ヲ致シ度シ

五 小作附ノ儘ニテハ土地ノ價格甚ダ低シ又大體小作附ノ土地ハ今日買手ナシ

六 返地後ノ處分ハ今日未定ナリ賣却スルヤ或ハ小作人ヲ變ヘテ耕作サスヤ計リ難シ (小學校長ノ言)

七 小商業ノミニテ生活困難ナル故傍ラ少シバカリニテモ自作シタシ

八 斯ノ如ク聯合シテ返地要求ヲナスハ空氣面白カラズトノ説ナルガ今日ノ地主ハ單獨ニテ土地ヲ取上グルガ如キ事ハ爲シ得ザル故ナリ

九 一部ノ小作人ノミニ對シ返地要求スルハ穩カナラズトノ御説ナルモ地主連ノ希望セル土地ガ偶然ニモ相手方小作人ニ一致シタル迄ナリ、正義團員ノミヲ敢ヘテシタル譯ニ非ズ

一〇 一部ノ者ニ對シ訴訟ヲ提起シ其ノ他ノ者ニ一割三分五厘迄モ減額シ且小作證書ヲモ徵スル事ナク妥協シタルハ一應異様ニモ感ゼラルルガ、訴訟ヲ提起セザル小作人モ妥協ニ應ゼザル限リハ追訴ヲナスベキ豫定ナリシガ之ニ應ジタル故其ノ必要ナク且小作證書ハ何時ニテモ徵シ得ルモ特ニ徵セザル迄ナリ

一一 訴訟ノ相手方ニ對シテハ他ノ妥協シタル小作人ト同一條件ニテ協調スル意志ナシ、甲ニ對シテハ妥協シ乙ニ對シテハ妥協セザル事アルモ此ノ點ハ地主ノ權利ナリ

以上例示スルガ如キ空氣ノ下ニアル案件ナルヲ以テ想像シ得ルガ如ク、其ノ執拗ニシテ調停委員會ノ言ヲ容易ニ肯ゼズ年餘ヲ經過セリ。而シテ地主ガ調停委員會ノ實狀ニ即シタル調停即チ眞ニ自作ノ要アルモノハ之ヲ返地セシメ、其ノ然ラザルモノハ小作繼續ヲ爲サシメ小作人ノ境地ニモ充分ナル理解ヲ有スル主旨ヲ領カザル所以ハ素ヨリ利害打算ニヨリ出發スルモノナリト雖モ代理辯護人ノ一旦返地ヲ受ケタル後ニ於テ自由ノ處置ヲ取ル事トシ豫告返地ニ徹底ス可シト云フ協調排撃ノ主義ノ支援モ又與テ大イニカアルモノノ如シ。

委員會ハ小作人ニ土地ヲ買取ラシムル點ニ付キテモ數回ニ亘リ調停ヲ試ミ大體小作人ハ適當ノ價格迄ニ買取應諾ノ色ヲ見セタルモ地主ニ於テ裸地價格(小作離地ノ價格)ヲ固守シテ動かズ。此ノ點ハ兩者ノ關係ガ平和氣分ノ充實スル時機ニ讓ルヲ可トシ兩者ニ勸告ヲ爲ス程度ニ止ムルノ已ムナキニ終レリ。然シテ繼續小作セシムル事トナリタル土地ニ付小作條件不一致ノ點ハ有期小作トス可キヤ不定期トス可キヤ、又特殊ノ場合ニ於ケル返地條件等ニ關スルモノニシテ此ノ點ニ付テハ調停條項ニ示スガ如ク信義ヲ中心トシテ取捨判斷ス可キモノトシテ協調ヲ進ムル所アリ。

委員會ニ於テハ組織員全員ガ協力シテ實情立脚主義ノ下ニ調停ヲ進メ、各人別ノ事情ニ基キ説得之努メタルモ停頓ヲ來スヤ勸解人ヲ介入セシメ遂ニ四ヶ年ニ亘リ委員會ノ主義ヲ反映セシムル調停ノ成

立ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

第一 別紙目錄第一掲記ノ各被申立人地主ハ夫々同目錄掲記ノ各申立人小作者ニ對シ本件土地明渡ノ請求ヲ撤回シテ同目錄記載ノ本件土地ヲ從前ニ引繼キ賃貸シ小作者等ハ之ヲ賃借スルモノトス

一 賃貸借ノ期間ハ昭和九年六月十一日ヨリ昭和十三年六月十日迄滿四年トス但シ地主ハ小作者ニ背信ノ行爲ナキ限り契約ノ更新ヲ拒マサルモノトス

二 賃貸借期間中ト雖モ地主ニ於テ自作、分家其ノ他必要已ム事ヲ得サル事由生シタル時ハ解約ヲ申入レ返地ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ小作者ハ異議ナク返地スルモノトス

三 掬米ハ別紙目錄記載ノ通リトシ検査合格米ヲ以テ毎年舊十二月二十五日限り支拂フモノトス

四 小作者ハ地主ノ承諾ナクシテ賃借權ヲ讓渡シ又ハ小作地ノ轉貸、地目、形狀ノ變更、土壤ノ採取等ヲ爲スヲ得サルモノトス

五、小作者若シ前項又ハ前々項ニ違背シタルトキハ直チニ賃貸借契約ヲ解除シ返地ヲ請求セラルルモ異議ナキコト

第二 別紙第二目錄掲記ノ各申立人小作者ハ夫々同目錄掲記ノ各被申立人地主ニ對シ同目錄掲記ノ本件土地ヲ何レモ昭和十年六月二十七日限り明渡スコト但シ同目錄末尾ノ畑ハ桑樹植栽ノ儘明渡ス

第三 別紙第一目錄第二目錄掲記ノ本件土地ニ付キ小作料ヲ延滞セル各申立人小作者ハ夫々被申立人地主ニ對シ同目錄記載ノ延滞小作料ヲ昭和十年六月三十日限り支拂フコト

第四 當事者間ノ名古屋地方裁判所昭和七年(ワ)第六二二號土地明渡等請求訴訟事件ハ双方連署シテ速ニ取下クルコト其ノ訴訟費用ハ各自辨トス

此ノ調停條項ガ示ス調停關係面積等其ノ範圍ヲ表示スルニ左ノ如シ。

調停關係面積	田 二町六畝十二步	返地面積	田 五畝三步
	畑 七反二畝步	田 二町七反八畝十二步	畑 一反二十三步
		小作繼續面積	田 二町一畝九步
			畑 六反一畝七步

調停關係人員	地主 十五名	返地關係	地主 三名
	小作人 十四名	小作人	七名
		繼續關係	地主 十五名
		小作人	八名

人員ニ於テ合計ハ細別ト一致セザルハ一人ニシテ返地ニモ繼續ニモ關係セルガ爲ナリ。

二八 滋賀縣栗太郡葉山村大字高野 (小作料永久減額並ニ小作契約改定)

爭議發生 昭和九年二月二十八日

調停申立 昭和九年二月二十八日

解決 昭和九年四月十四日

關係人員	爭議	地主 二十六人	小作人 四十人
調停	爭議	右ニ同ジ(小作人申立)	
關係土地	調停	田 十六町五反六畝十九步	
	調停	右ニ同ジ	

(一) 爭議ノ概況

本大字ニ於ケル一地主ノ小作契約ハ常免小作料ニシテ、凶作ノ際ニ於ケル小作料減免ハ普通小作地ニ於テ小作料ノ一割以上減額ノ場合ニ限り減免スベキ慣行ナリ。爲ニ常ニ小作側ハ普通小作地ノ小作料減免ヲ一割以上ニ達成セシムルヲ目標トシテ過大ノ減額要求ヲナシ其ノ解決ニ甚ダ苦慮セリ、故ニ小作側ハ爭議ノ煩ヲ防止スベク昭和六年以降小作料一時減免要求毎ニ小作料ノ改定統一ヲ併セ要求シ來タリシガ、地主側ハ口ニハ其ノ必要ヲ唱フルモ實行ノ誠意無ク遷延時日ヲ經過セリ。

之ガ爲小作側ハ地主側ノ態度ニ憤慨シ昭和八年一月實行委員三名ヲ選任シテ、小作料ノ改定等一切ノ解決ヲ委員ニ一任シ地主ニ交渉ヲ開始セリ。

爾來實行委員ハ大字區長ヲ經テ各地主ヲ訪問シ之ガ實行ヲ迫レルモ、地主側ハ從來ノ如ク各個人トシテハ承認ノ意ヲ洩セルモ、地主協議會ノ結果ハ議論百出シ協定困難ナルヲ理由トシテ之ヲ拒絶セリ其ノ後小作側ハ再三再四地主側ニ改定統一ノ實行ヲ促セルモ之ニ應ゼズ、十二月ニ入り小作側ハ愈々目的ヲ遂行スベク之ガ解決ニ至ル迄小作料ノ不納同盟ヲ敢行セリ。地主側ハ十二月小作料納入期ヲ經過セルモ小作人ノ小作料ヲ納入セザルニ驚キ、本年ノ如キ豊作ニ際シ小作料ノ不納同盟ヲナスガ如キ

ハ暴舉ナリトテ極度ニ憤慨シ耕地ノ一齊返還要求ヲナスベク協議ヲ進メ事態ハ益々惡化ノ傾向ヲ示セリ。

大字評議員武村某外二名ハ形勢險惡ヲ憂ヘ之ガ調停ヲナスベク地主側ニ小作料改定ヲ慫慂セルモ、地主側ハ小作側ノ強硬手段ニ憤慨シ絶對應ゼズト調停ヲ拒絶セリ。

其ノ後數次有志ノ調停ニ介在セルモ地主ノ主張強硬ニシテ譲ラズ、小作側モ面目ヲ保持シテ更ニ主張ヲ曲ゲズ全ク解決ノ途ナキニ至レリ。

小作側ハ更ニ協議ノ結果頑強ニ抗爭對峙セル地主ニ對シ最後ノ解決ノ手段トシテハ、小作調停ノ申立ニヨルノ外ナシトシテ二月二十八日大津地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲナシタリ。

(二) 調停ノ經過

三月十九日栗太郡農會ニ於テ地主總代七各小作總代三名ヲ集メ調停委員會ヲ開催セリ。

小作側ハ小作料ハ小作地等級ヲ土地賃貸價格等級ニ依リ三等級ニ分チ一等地小作料坪當四合二勺、二等地三合九勺、三等地三合六勺ニ改定シ、先買權ノ承認、凶作時ノ小作料減免方法等ヲ併セ協定ヲ希望シ、地主側ハ改定ノ必要無キヲ主張シテ容易ニ讓步セザリシモ、總代ヲシテ再三協議セシメ漸ク地主側ノ主張トシテ小作料ハ土地賃貸等級ニ基キ一等地ハ坪當四合五勺、二等地四合三勺、三等地四合トシ十ヶ年毎ニ之ヲ改定更新シ且地主ニ於テ自作ノ目的ヲ以テ一ヶ年以前ニ豫告ヲナス時ハ異議無ク耕地ヲ返還スルコト、轉貸ヲ禁止スルコト及如何ナル凶作ノ年柄ニ於テモ小作料ノ減免ヲ行ハザルコト等ヲ改定條件トシテ提示セリ。

委員會ハ夜ヲ徹シ双方ノ主張ニ基キ讓步ヲ慫慂セルモ應ゼズ、故ニ續行ヲ期シテ更ニ考慮セシムルコトトセリ。

三月十四日第二回委員會ヲ同所ニ開催シ、前回ニ引續キ双方ニ互讓ヲ慫慂セシガ、小作側ハ解決一切ヲ舉ゲテ委員會ニ無條件一任セルニ拘ラズ、地主側ハ前回ノ主張ヲ固持シテ容易ニ讓步セザリシモ委員會ハ極力讓步ヲ慫慂シ漸ク承認セシメ次ノ調停條項ニ依リ調停成立解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 賃貸人ハ賃借人ニ對シ其ノ所有耕地ヲ賃貸小作セシム
- 小作耕地ノ位置、地番、地目、反別、小作地等級、賃貸人及賃借人氏名ハ別紙小作耕地明細表ノ通り
- 二 小作料ハ小作耕地ノ等級區分ニ依リ左記ノ通りトス
 - 一等地(賃貸價格八八級) 反當リ一石三斗五合
 - 二等地(同 八七級) 同 一石二斗三升
 - 三等地(同 八六級) 同 一石一斗二升五合
- 右小作料額ハ昭和九年ヨリ昭和十三年ニ至ル五ヶ年間之ヲ有效トシ昭和十四年以後五ヶ年毎ニ當事者協議ノ上之ヲ定ムルモノトス
- 若シ協議調ハサル場合ニ於テハ小作調停法ニヨル調停ノ申立ヲ爲シ調停委員會ニ一任シテ適當ナ

ル決定ヲ受クルモノトス

三 小作耕地ノ反別ハ土地臺帳ノ記載ニヨル但シ畦畔ヲ含マス

四 小作料ノ納入期日ハ毎年十二月二十五日限リトシ滋賀縣產米檢查合格米（生産檢查等級四等以上）ヲ以テ貸貸人ニ納入ス但シ其ノ年ノ作柄ニヨリ合格米不足ノ場合ニ限リ其ノ不足額ハ等外米ヲ以テ納入スルコトヲ得貸借人ニ於テ小作料ノ納入ヲ怠リ納入期日後一ヶ月ヲ經過スルモ尙納入ヲ爲ササルトキハ貸貸人ハ未納小作料納入期ニ於ケル地方ノ時價ニ換算シテ請求スルコトヲ得貸貸人ハ貸借人カ生産檢查等級三等以上ノ玄米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ補給米ヲ支給シ等外米ヲ以テ小作料ヲ納入シタルトキハ追徵米ヲ徵收ス
補給米及追徵米ノ額ヲ定ムルニハ貸貸人總代貸借人總代協議ノ上之ヲ決定ス
若シ協議調ハサルトキハ葉山村長及滋賀縣小作官ノ裁定ニ一任ス

五 貸借人ハ貸貸人ノ承諾ナクシテ小作地ノ轉貸賃借權ノ賣買讓渡質入ヲ爲シ又ハ土地ノ現狀ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

六 貸借人カ該小作地ヲ他ニ賣却セムトスルトキハ先ツ關係ノ貸借人ニ買取ノ機會ヲ與フルモノトス

七 貸貸人カ正當ノ理由ニ依リ小作地ノ返還ヲ求メントスルトキハ貸借人ニ對シ一ヶ年前ニ豫告ヲ

爲スコトヲ要ス

貸借人ニ於テ理由ノ當否ニ付異議アリテ當事者間ニ協議調ハサルトキハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲シ調停係官ニ一任シテ之カ解決ヲ爲スモノトス

八 貸借人ニ於テ本件賃貸借契約ヲ解除セムトスルトキハ表作及裏作々付三ヶ月前ニ貸貸人ニ其ノ旨申立ツルモノトス

九 不可抗力ニヨル凶作ノ爲實收米ノ額カ平年作ニ比シ一割以上減收ノ場合ニハ小作料ヲ減免シ凶作ノ爲租稅ヲ免除セラレタル耕地ニ對シテハ其ノ小作料ヲ全免ス

平年作トハ各等級共小作料ノ二倍トス

小作料ノ減免額ハ實收米ノ額ト平年作トノ差額トノ半額トス

一〇 一般的凶作ノ爲小作料ノ減免ヲ求メムトスルトキハ貸借人ハ總代ヲ選ヒ收穫着手前其ノ旨ヲ各貸貸人ニ申出テ貸貸人總代ト共ニ大字區長並ニ葉山村農會役職員若クハ双方協議ノ上適當ト認メタル者ノ立會ノ下ニ檢見又ハ坪刈ノ方法ニヨリ實收額ヲ査定ス

局部的凶作ノ場合ニハ貸借人ハ收穫着手前其ノ旨貸貸人ニ申出テ双方立會ノ下ニ檢見又ハ坪刈ノ方法ニヨリ實收額ヲ定ム

實收額査定ノ方法ニ關シ協議調ハサルトキハ滋賀縣小作官ノ指定シタル方法ニ依ル

實收額査定ノ爲檢見又ハ坪刈ヲ爲スヘキ稻ヲ其ノ手續前ニ刈取リタル場合又ハ刈取後ニ小作料減額要求アリタル場合或ハ故意ニ肥培管理ヲ懈怠シ爲ニ減收セル場合並ニ稻以外ノ作物ヲ栽培シ爲

ニ減收セル場合ニハ小作料ノ減免ハ之ヲ行ハサルモノトス檢見又ハ坪刈ニ要シタル費用ハ貸貸人
 賃借人各之ヲ平等ニ負擔スルモノトス
 一一 將來其ノ他ノ事項ニ付賃貸人賃借人間ニ意見一致セサルトキハ當事者ハ小作調停ノ申立ヲ爲
 シテ之カ解決ヲ圖ルモノトス

二九 滋賀縣愛知郡豊國村大字豊滿 (小作地買戻)

爭議發生 昭和九年四月七日
 調停申立 昭和九年四月七日
 解決 昭和九年五月十日

關係人員 爭議 地主 三人 小作人 一人
 調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 五反六畝九步
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本係争地ハ元小作人ノ所有ナリシガ、他人ノ債權擔保ニ供用シ債務不履行ノ爲昭和八年九月十九日
 競賣處分ヲ受ケ何レモ債權者ニ於テ競落所有スルニ至レリ。

地主ノ一ハ他ニ賣却ノ目的ヲ以テ即時返還ヲ求メ、他ノ一ハ妙宗寺維持ヲ目的トセル頼母子講給付
 金ノ抵當權執行ニヨリ收得セル耕地ナレバ、直チニ寺院ノ財産ニ移シ檀家ノ勞力奉仕ニヨリ共同耕作

ヲナシ、十ヶ年ヲ期シ債權處分ニ基ク缺損ヲ補填スベク即時耕地ノ返還ヲ迫リシガ、小作人ハ再三小
 作ノ繼續ヲ懇望シテ返還セズ。

其ノ間小作人ハ更ニ買戻方ヲ折衝セルモ其ノ價格ニ付意見一致セズ常ニ地主ハ之ヲ拒絶セリ。
 其ノ後地主ハ小作人ニ冬作物ノ收去ヲ迫リ、更ニ内容證明郵便ヲ以テ五月一日限り小作契約解除ノ
 通告ヲナセルモ、小作人ハ本耕地ヲ返還スルトキハ忽チ生活ニ支障ヲ來ス可キヲ主張シテ何レモ拒絶
 シ、四月七日小作人ヨリ大津地方裁判所ニ小作ノ繼續竝ニ小作地ノ買戻方ニ付小作調停ノ申立ヲナセ
 リ。

(二) 調停ノ經過

四月二十六日愛知郡農會ニ關係當事者ヲ集メ調停委員會ヲ開催シ調停ヲ開始ス。
 委員會ニ於テ小作人ハ小作ノ繼續ヲ懇望シ、一地主ハ損失補填ノ爲速カニ他ニ賣却スベク耕地ノ返
 還ヲ主張シテ共ニ讓ラザリシモ、漸ク小作人ニ於テ買戻ヲナスベク決意セシヲ以テ、買戻ニ付地主ニ
 懇願セシガ、地主ハ小作人ノ事情ニ同情シ小作人ニ於テ買戻ノ場合ニハ競落價格ニ登記費用ヲ加ヘ賣
 戻スモ、他ニ賣却ノ場合ニハ相當時價ニ依ル可キヲ主張シ、小作人ハ資金ノ關係上買取不可能ニ付小
 作人ノ指定セル者ニ賣却方ヲ懇望セルモ、地主ハ小作人外ノ場合各ニハ相當時價ニ依ル可キヲ主張シ容
 易ニ解決セザリシモ、地主ニ懇願シテ小作人ニ代リ買取リタル上小作ノ繼續又ハ讓渡ヲナスベキ者ナ
 レバ、小作人ト同一ニ認メ利害關係人トシテ調停ニ加ヘ調停ヲ成立セシメ漸ク解決セリ。
 他ノ一地主ハ既ニ寺院ノ財産トシテ登記ヲ完了シ且檀家ニ於テ共同耕作ヲナスベク苗代ノ播種ヲモ

終へ夫々作付準備中ナルヲ理由トシテ、小作ノ繼續竝ニ買戻何レニモ應ズル能ハズト飽迄拒絕シ解決愈々困難トナレリ。

五月十日第二回委員會ヲ開催シ地主ニ對シ前回ニ引續キ小作ノ繼續又ハ買戻方ヲ慫慂セルモ、其ノ後再ビ檀家總會ヲ開キ協議セルモ飽迄共同耕作ヲナシ、其ノ利益ヲ妙宗寺保存費ニ充當スベク決定セルノ故ヲ以テ更ニ考慮ノ餘地ナシト主張シ容易ニ應ゼザリシモ、漸ク競賣前ノ債權額一千四百五十圓ニ登記諸費用百五十圓及他ノ購入耕地價格四百九十圓計二千九十圓ヲ以テ親族ノ一人ニ買戻セシメ、小作人ニ耕作ヲ繼續セシムルコトトシテ漸ク次ノ調停條項ニ依リ解決セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項 (其ノ一)

- 一 相手方森野某ハ利害關係人西池某ニ對シ滋賀縣愛知郡豊國村大字東圓堂字島田第二千三百六十九番地一田一反三畝十二歩ヲ代金六百八十圓ニテ賣渡スコト
- 一 利害關係人西池某ハ昭和九年五月五日限り右代金ヲ相手方ニ支拂フコト
- 一 相手方ハ右代金ノ受取ト同時ニ所轄登記所ニ對シ前記不動産ノ所有權移轉登記申請手續ヲ爲スコト
- 一 利害關係人西池某ハ申立人ニ對シ前記不動産ヲ賃貸スルコト
- 一 相手方妙宗寺ハ利害關係人西池某ヨリ金二千九十圓ノ支拂ヲ受クルト同時ニ監督官廳ノ許可ヲ

調 停 條 項 (其ノ二)

受ケタル上其ノ所有ニ係ル

愛知郡豊國村大字豊滿字長澤二百一十一番

一田 八畝十七歩

外畦畔十九歩内井戸敷二歩

同上二百四番

一田 一反三畝二十六歩

外畦畔一畝一步内井戸敷二歩

同村大字豊滿字長澤二百十番

一田 一反七歩

ノ所有權ヲ西池某ニ移轉スルコト

二 利害關係人西池某ハ昭和九年七月十日限り右金額ヲ相手方ニ支拂フコト

三 相手方妙宗寺ハ同金員ヲ受領スルト同時ニ西池某ニ對シ前記不動産ノ所有權移轉登記手續ヲ爲スコト

四 利害關係人西池某ハ右不動産ヲ申立人明隅某ニ賃貸スルコト

五 監督官廳ノ許可ノ遲滯シタルトキハ第二項記載ノ履行期日ヲ許可書到達スル迄延期スルコト

三〇 京都府綴喜郡都々城村字岩田

(未納小作料支拂小作條件改訂)

爭議發生 昭和九年十一月九日

調停申立 昭和九年十一月十四日
解 決 昭和十年四月二十二日

關係人員 爭議 地主 二十三人 小作人 二十九人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 十三町六畝二十五步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

當字ニ於ケル昭和七年度以降ノ小作料減免ニ關スル爭議ハ昭和八年小調第八號ニ依リ解決シタルモ、同調停條項第十三項ニ「現在立入禁止假處分執行ノ土地ニ就テハ當事者双方ニ於テ圓滿解決ヲ計ルモノトス」トアルヲ以テ、之ニ基キ地主委員巽某外三名小作委員和田某外三名ガ同區青年會館ニ於テ會合協議ヲ進メタルガ地主側ハ

(一) 植付ヨリ現在ニ至ル費用一反當リ金二十七圓ヲ要シ居リ其ノ合計金三千五百餘圓ハ地主ニ於テ負擔ス

(二) 小作人側ハ該土地ノ收穫ヲ爲シ從來通りノ小作料ヲ支拂フベシ但シ風害ヲ認メズ小作人側ハ

(一) 立入禁止假處分地ハ地主側ニ於テ收穫シ植付前ニ鋤耕其ノ他ノ準備耕作セル田地ニ對シテハ

其ノ實費ヲ關係小作人ニ支拂フコト

(二) 立入禁止假處分ニヨリ田地荒廢セシタメ沃土ト爲ス手数料トシテ三ケ年間小作料三割ヲ減額スルコト

右ノ如ク双方共主張強固ニシテ妥協覺束ナキヲ以テ、小作人ハ圓滿解決ノ爲更ニ合意ノ調停申立ヲ爲シテハ如何ト述べタルニ、地主ハ之ニ反對シ執達吏指定ノ耕作人ノ手ニ依リ收穫セシメ土地返還請求訴訟ヲ繼續スルノ意嚮ヲ漏シタル爲小作人ヨリ調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ。

(二) 調停ノ經過

調停ヲ受理シタル裁判所ハ第一回調停委員會ヲ昭和九年十一月二十一日日本廳ニ於テ開催シ各當事者ノ主張ヲ求メタルニ、申立人ハ(1)調停條項ハ昭和八年小調第八號ノ調停條項ニ準ズルコト(2)昭和七年度末納小作料二割昭和八年度小作料全額ハ十ケ年間ニ分納ノコト

相手方ハ(1)調停條項ハ昭和八年小調第八號調停條項ニ準ズ但シ小作料ノ支拂ヲ怠リタル時ハ土地返還請求ニ應ズルコト及滯納小作料ハ石代相場ニ換算請求シ得ルコトノ條項ヲ加ヘルコト(2)未納小作料ハ昭和十年五割納、七年度未納小作料二割ヲ加ヘ七割ヲ七ケ年間ニ分納ノコトヲ主張シ共ニ自說ヲ固持シテ譲ラズ。

爾來調停委員會ヲ重ヌルコト十三回ニ及ビ、其ノ間委員會ニ於テハ關係土地ニ付實地調査ヲスルト共ニ極力妥協ヲ慫慂シタル處、左記ノ條項ヲ以テ調停成立セリ。

(三) 結 末

調停條項

- 一 本件各關係地主ハ其ノ小作人ニ期限ノ定ナク別紙目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ小作料ニテ引續キ小作セシムルコト
- 二 別紙目錄記載ノ小作料ハ其ノ据置期間ヲ昭和十九年度迄トシ昭和二十年以降ノ小作料ハ同年三月迄ニ當事者間ニ於テ更ニ協定スルモノトス
若シ右協定調ハサルトキハ調停申立ヲ爲シ解決スルコト
- 三 本件小作料竝ニ本件土地ニ付テノ昭和七年度及昭和八年度ノ未納小作料ハ岩田區所定ノ其ノ年度ノ石代相場ニ換算シテ支拂ヒ又ハ請求シ得ルモノトス
- 四 昭和七年度及昭和八年度未納小作料ハ本年十二月二十五日迄ニ地主ニ支拂フモノトス
但シ右期日迄ニ完納シ得サルモノハ昭和十年度以降毎年十二月二十五日迄ニ其ノ十分ノ一宛ヲ十ヶ年間ニ分納スルコトヲ得
尙支拂額ニ對シテハ從來通り獎勵米ヲ支給スルモノトス
- 五 小作料納入期日ハ毎年十二月二十五日限り地主宅ニ持參支拂フモノトス
但シ天候其ノ他不可抗力ニヨリ右期日迄ニ納入シ得サル場合ハ小作人ハ其ノ旨地主ニ申出猶豫期限ヲ協定スルコトヲ得
- 六 獎勵米ハ從來通り支給スルコト
但シ四等米ニハ一石ニ付一升五合ヲ支給スルコト
- 七 小作料ノ減額ヲ要求セントスルモノハ稻刈取前其ノ年十月末日迄ニ地主ニ申込ムニ非レハ其ノ

效ナキコト本項ニ基キ減額ヲ要求シタルトキハ當事者又ハ當事者總代ハ郡農會又ハ村農會技術員立會ノ上檢見又ハ坪刈ヲ行ヒ反當收量ヲ協定スルモノトス若シ之カ協定調ハサルトキハ反當收量査定ニ付總テ立會技術員ニ一任シ其ノ裁定ニ對シテハ當事者ハ異議ヲ述ヘ得サルモノトス

八 前項ニ依リ協定又ハ裁定シタル反當收量カ反當小作料二十割以上ノトキハ小作料ヲ減免セス二十割未満ノトキハ左ノ量ヲ以テ其ノ年ノ小作料トス

(イ) 反當收量カ反當小作料ノ二十割未満乃至十八割以上ノトキハ收量ノ折半

(ロ) 十八割未満十四割以上ノトキハ收量ノ四割五分

(ハ) 十四割未満ノトキハ收量ノ四割

(ニ) 災害免租トナリタルトキハ免除

九 檢見又ハ坪刈ニ要スル費用ハ地主小作人ノ各折半負擔トシ村農會ニ所要見込額ヲ豫納シ置クモノトス

一〇 岩田區ニ於テ石代相場ヲ決定シ得サリシトキハ都々城村内ニ於テ決定シタル岩田區ニ最モ近キ區ノ石代相場ニテ小作料ヲ換算スルモノトス

一一 地主ニ於テ自作ノ必要ヲ生シ小作土地ヲ返還セシムル場合ニハ相當ノ作離料ヲ支給スルコト
一二 第七項ノ減額要求ヲ爲ササル場合又ハ減額小作料決定後期日ニ小作料ノ支拂ヲ爲ササルトキ竝ニ未納小作料ノ年賦崩濟ニ付一回ニテモ所定ノ期間ニ之カ支拂ヲ爲ササルトキハ本件貸借借契約ハ當然解除トナリ即時小作土地ヲ地主ニ返還シ且未納小作料ニ付テハ期限ノ利益ヲ失ヒ即時殘

額全部皆濟ノコト

- 一三 小作人ハ地主ノ承諾ヲ得スシテ小作田畑ヲ耕作以外ノ目的ニ使用シ又ハ他人ニ轉貸若クハ小作土地ニ關スル權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス
- 本項ニ違反シタルトキハ地主ニ於テ即時小作契約ヲ解除シ土地返還ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス
- 一四 本調停條項以外ノ事項ハ總テ從來ノ慣習ニ依ルモノトス
- 一五 別紙目錄記載ニ誤記又ハ洩レ落チアルトキハ都々城村役場ニ備付アル土地臺帳ニ依リ訂正又ハ挿入スルモノトス
- 一六 別紙目錄ニ對シ從前ヨリ地主小作人間ニ於テ特殊約束アルモノハ其ノ約束ニ依ルコト
- 一七 別紙目錄記載ノ小作料表ニヨリ算定スルコト
- 一八 調停費用ハ各自辨ノコト

田小作料表

一等	上 一石四斗五升	中 一石四斗二升	下 一石四斗
二等	上 一石三斗七升	中 一石三斗四升	下 一石三斗一升
三等	上 一石二斗九升	中 一石二斗六升	下 一石二斗三升
四等	上 一石二斗	中 一石一斗八升	下 一石一斗五升
五等	上 一石一斗二升	中 一石九升	下 一石七升
六等	上 一石四升	中 一石一升	下 九斗八升

七等 上 九斗六升 中 九斗三升 下 九斗

三一 大阪府北河内郡山田村字中宮 (調停條項更改)

爭議發生 昭和九年十二月上旬
 調停申立 昭和九年十二月二十四日
 解 決 昭和十年三月二十八日

關係人員 地主 十八人 小作人 百三十七人
 爭議 調停 右ニ同ジ(小作人申立)
 關係土地 爭議 田 七十八町八反六畝五步 畑 八町八反二畝十八步
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

係争地ハ過グル大正十一年本府農民組合ノ發詳地タル津田村ノ小作爭議(昭和八年小作爭議及調停事例參照)ノ影響ヲ受ケ地主小作人間ニ於テ田畑永久二割減ノ協定ヲ爲シタルコトアリ、以來比較的平穩裡ニ過ギ來タレルモ昭和六年末ニ至リ小作人側ハ凶作ヲ理由ニ更ニ三割減ノ要求ヲ提出セリ。茲ニ於テ地主ハ斯ル過大ナル要求ニハ應ジ得ズトテ種々考慮ノ上小作調停ノ申立ヲナシタリ。(昭和七年小調第十四號)

而シテ其ノ申立要旨ハ昭和六年度小作料未納額納入ノ外小作料ノ改訂ニアリ。委員會ニ於テハ問題ノ性質上寧ロ小作料ノ改訂ニ重點ヲ置キ、先ヅ現地ニ出張具ニ實情ヲ視察シタル上慎重ニ調停ヲ進メ

タルモ、双方ノ主張頗ル強硬ニシテ容易ニ一致スルノ氣配見エズ、依テ協議ノ結果當事者ノ意向ヲ參酌シテ作成セル委員會案ヲ提示シタルニ、遂ニ双方之ヲ承認シ茲ニ成立ヲ見タリ。調停條項次ノ如シ。

調 停 條 項

- 一 申立人等ハ別表記載ノ各地所ヲ從來通り相手方等ニ賃貸小作セシムルコトヲ承認シ其ノ賃貸借契約ノ内容ハ別記賃貸借約款通リトシ本調停成立ノ日ヨリ之ニ遵據スルモノトス
- 二 申立人等ハ昭和六年度小作料ハ別表乙賃料ヨリ三割五分ヲ減免スルコトヲ承認ス但シ別表地目畑ノ分ハ減免ヲ爲サス
- 三 相手方等ハ前項ニ依リ減免ヲ受ケタル小作料（内入米ノ過不足ニ依リ過拂ノ分ニ付テハ申立人ヨリ相手方ニ返戻シ不足ノ分ハ相手方ヨリ申立人ニ支拂フコト）ヲ昭和七年十二月二十五日限り大阪府令ニヨル穀物生産検査合格玄米ヲ以テ申立人宅ニ於テ清算支拂ヒ受領ヲ爲スコト
- 四 本調停ニ關スル費用ハ各自辨ノコト

賃 貸 借 約 款

- 一 賃貸人ハ賃借人ニ對シ穀物蔬菜等一期作物ヲ耕作收穫セシムル目的ヲ以テ別表記載ノ各地所ヲ引續キ期限ノ定ナク賃貸シ各小作人ハ之ヲ賃借小作スルモノトス
- 二 本件當事者間ノ親善融和ヲ計ル主旨ノ下ニ昭和十二年六月十日迄一ケ年度分賃料ヲ收穫量ノ多少ニ拘ラス別表乙賃料通リトス但收穫量少ナク免租地トナリタル場合ハ賃料ハ全部免除スルモノトス
- 三 賃料ノ算定年度ハ毎年六月十一日ヨリ翌年六月十日迄一ケ年度トス
- 四 賃料ハ毎年度ノ十二月二十五日限り居村産ニシテ大阪府令ニ依ル穀物生産検査合格玄米ヲ以テ賃貸人宅ニ持參支拂フコト

但シ賃借地ノ生産検査合格玄米カ賃料ニ不足スル場合ニ於テハ米穀検査員ノ證明ヲ得テ當該賃借地ノ收穫米ヲ支拂フ場合ニ限り不合格米ヲ以テスルコトヲ得

- 五 前項ノ期限後ノ支拂ニ付テハ賃借人ニ對シ金納ヲ請求シ得ルモノトス金納ノ換算額ハ其ノ納期ニ於ケル大阪府北河内郡山田村ノ村相場ニ依ルコト

- 六 賃借人ハ賃貸人ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ恣ニ左記行爲ヲ爲シ得サルコト

(イ) 賃借地ヲ他人ニ轉貸シ若クハ其ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト

(ロ) 賃借權ヲ他人ニ讓渡スルコト

(ハ) 賃借地ノ原狀ヲ變更スルコト

- 七 賃借人カ第四項及第六項ノ義務ヲ履行セサル場合ハ賃貸人ハ十日ノ猶豫期間ヲ存スル履行及原狀回復ノ催告ヲ爲シ賃借人カ故ナク其ノ猶豫期間ヲ徒過滿了シタル場合ハ本件賃貸借契約ヲ解除シテ土地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

- 八 當事者ノ何レカニ於テ第二項記載ノ賃料其ノ他賃貸借條件ニ付改訂ノ必要アル場合ニ於テハ當事者ノ一方又ハ双方ヨリ大阪地方裁判所ニ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲シ協議ヲ爲スコト

但シ昭和十年六月十日迄ニ改訂ノ申立ヲ爲ササル場合ハ本件賃貸借契約ハ其ノ儘存續スルモノトス

元來前記ノ如ク賃貸借約款ノ調停條項トナレルモノハ普通一般ニ不作減免ノ詳細ナル規定アリテ爭議ノ起ル餘地ナキモノナルモ、本件ニ限り右ノ規定ナク小作料ハ常免トナリテ特例ヲ爲セリ。是小作人側ニ於テ「滯納小作料ノ減額ヲ過大ニ要求スルノ代償トシテ向後五ケ年間ハ全ク如何ナル事アリトモ減免要求セズ」ト主張シ、小作官ノ注意ヲ無視シテ熱望セルヲ以テ之ヲ採用シ地主亦認諾セルニヨルモノナリ。

然ルニ期限滿了ノ一ヶ年前タル昭和九年度ニ至リ果然激甚ナル風旱害アリ、到底條項通り履行スル

能ハザル實情トナレリ。依テ小作人側ハ特別ニ減免アリタシト懇願セルモ、地主ハ調停條項ヲ楯トシテ絶對ニ之ニ應ズル能ハザル旨ヲ主張セルタメ遂ニ小作人ヨリ調停ヲ申立タリ。惟フニ本件ハ全ク異例ノモノナレバ一應之ガ受付ヲ爲シテ條項ノ修正ヲ爲スヲ可トスベキヲ以テ裁判所モ之ヲ受理シ委員會ヲ開催セリ。

(二) 調停ノ經過

地主側ハ本府ニ於ケル有數ノ大地主ニシテ、常ニ農民組合對抗運動ニ熱心ニ活躍シ居レル中島某ヲ盟主トシテ結束セルニ對シ、小作人側ハ嘗テ全農大阪府縣ノ執行委員ニシテ、現ニ皇國農民同盟ノ幹部タル寺島某ヲ中心ニ統制アル團體行動ヲ執リ互ニ劣ラズ拮抗セリ。委員會ニ於テモ地主ハ專ラ前調停成立當時ノ事情ヲ述ベテ減額ノ理由ナキヲ主張セルニ對シ、小作人ハ豫想外ノ被害ヲ述ベテ履行不能ヲ陳述シ、徹頭徹尾理論闘争ヲ以テ終始セリ。

委員會ハ前回ノ例ヨリ見テ双方共容易ニ妥協スル性質ニ非ザルコトヲ知悉シ居ルヲ以テ、先ヅ詳細ニ主張ヲ聽キタル後直チニ委員會案ヲ示シテ之ニ接近セシメ比較的容易ニ成立セシムルヲ得タリ。

(三) 結 末

前回ト異ナレル點ハ第六、七、八、九項ヲ設ケ不作減免ノ手續ヲ最モ妥當ナル方法ニ於テ規定セルニアリ。

即チ係争地ノ事情ヲ考慮シテ平年作ヲ小作料ノ倍額トスルモノ、倍額ニ二斗ヲ加ヘタルモノ、三斗ヲ加ヘタルモノノ三種ニ分チ、之ニ足ラザルトキハ當然減免スベキモノトナシ、尙其ノ減免歩合ニ關シテモ右不足額ガ平年作ノ一割未滿ノトキハ不足額ノ五割ヲ減免スルコトトシ、以下凶作ノ程度大ナルニ從ヒ増率スルト云フ方法ヲ執レルモノナリ。尙九年度小作料ニ關シテハ前條項通り減免セザルハ勿論ナルモ、之ガ完納ノ曉ニ於テ風害見舞トシテ小額支給スルコトト爲セリ。

調 停 條 項

一 本件目的タル別表記載ノ小作地ニ對スル昭和九年度賃料小作米ハ從前ノ契約通り同表賃料欄記載ノ額(合格品)ト爲シ之ヲ各申立人ハ各相手方ニ對シ昭和十年四月十五日限り相手方住所ニ持參支拂ノコト

但シ右小作米ハ全額ノ十分ノ四ハ不合格米ヲ以テ支拂フコトヲ得ヘク尙小作米ナキトキハ右履行期ニ於ケル履行地ノ時價ニ換算シタル金納トナスヘキモノトス

一 申立人等ニ於テ右支拂ノ約旨通り履行シタルトキハ田畑孰レニ付テモ相手方等ハ申立人等ニ對シ夫々風害見舞トシテ右契約賃料額ノ一割九分ニ相當スル玄米(品質ハ持參米通りノモノトス)又ハ金錢ノ場合ハ同割合ニ依ル金錢ヲ贈與交付スルモノトス

一 當事者双方ハ同表記載ノ小作地ニ關スル將來ノ賃貸借小作關係ノ圓滑ヲ計ル趣旨ノ下ニ從前ノ賃貸借契約ヲ左ノ如ク變更シ昭和十年年度ヨリ之ニ遵據スルモノトス

一 本件調停ニ關スル費用ハ各自辨トス

賃 貸 借 約 款

- 一 貸借期間ハ定ナク賃料ハ向フ五ヶ年度迄即チ昭和十四年六月十日迄ハ別表賃料欄記載通リトス
- 二 右賃料ハ毎年十二月二十五日限り大阪府令ニ依ル大阪府農産物生産検査合格玄米ヲ以テ大阪府北河内郡山田村内賃貸人住所ニ持參支拂フモノトス
- 三 賃借人ハ賃貸人ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ左記行爲ヲ爲シ得サルコト
 - (イ) 賃借地ヲ他人ニ轉貸スルコト
 - (ロ) 賃借權ヲ他人ニ讓渡シ若クハ賃借地ノ耕作ヲ他人ニ委託スルコト
 - (ハ) 賃借地ヲ耕作以外ノ目的ニ使用スルコト
 - (ニ) 賃借地ノ原狀ヲ變更スルコト
- 四 賃借人カ各年度ノ稻作カ風害蟲害旱害水害其ノ他ノ不可抗力ニ因ル不作ニシテ賃料ノ減免ヲ求メントスルトキハ田ニ付テハ立毛刈取前少クトモ十四日ノ期間ヲ餘シ書面ニ依リ豫定收量ヲ明示シテ毛見ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス
- 五 毛見ハ双方立會ノ上之ヲ爲シ收穫量ヲ協定スルモノトス

若シ毛見ノ方法其ノ他收穫量決定ニ付當事者間ニ協定調ハサルトキハ大阪府小作官ニ其ノ旨申出テ同小作官又ハ其ノ指定スル者ニ毛見ノ方法及收穫量ノ査定ヲ仰キ其ノ裁定ニ對シテハ双方共絶對ニ服從スルモノトス
- 六 毛見ニ依ル協定及小作官又ハ其ノ指定スル者ノ決定シタル收穫量カ
 - (甲) 反當リ小作料一石三斗以上ノ田ニ付テハ該賃料ノ倍額
 - (乙) 反當リ小作料一石以上一石三斗未滿ノ田ニ付テハ其ノ賃料ノ倍額ニ二斗ヲ加ヘタル額(但シ二石六斗ヲ超過スルモノハ二石六斗トス)
 - (丙) 反當リ小作料一石未滿ノ田ニ付テハ其ノ賃料ノ倍額ニ三斗ヲ加ヘタル額(但シ二石二斗ヲ超過スルモノハ二石二斗トス)

- (イ) 一割未滿ノトキハ不足額ノ五割ヲ
 - (ロ) 一割以上二割未滿ノトキハ不足額ノ五割五分ヲ
 - (ハ) 二割以上三割未滿ノトキハ不足額ノ六割ヲ
 - (ニ) 三割以上四割未滿ノトキハ不足額ノ六割五分ヲ
 - (ホ) 四割以上五割未滿ノトキハ不足額ノ七割ヲ
 - (ヘ) 五割ヲ超過スルトキハ不足額ノ七割五分ヲ
- 約定賃料ヨリ減免スルモノトス
- 但シ前記ノ計算ニ依リ減免スヘキ額カ賃料以上ニ達スルトキト雖賃貸人ヨリ何等補償ヲ爲ササルモノトス
- 七 小作官若クハ其ノ指定スル者收穫量調査ノ爲ニ鑑定人其ノ他ノ費用ヲ要スルトキハ豫メ賃貸人及賃借人ヨリ之カ經費ヲ小作官ニ前納セシメ收穫量決定發表ノ際餘剩アレハ還付シ不足スルトキハ更ニ納付セシムルコトヲ得ルモノトス

八 小作官若クハ其ノ指定スル者及鑑定人等ニ於テ收穫量調査ノ爲必要アルトキハ關係地ノ任意ノ土地及部分ノ稻ニ付刈取ヲ行フ場合ニ當該小作地ノ耕作者ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス但シ刈取タル收穫物ヲ當該耕作者ニ還付セサルトキハ適當ト認ムル代償金ヲ支拂ヒ收穫物ハ賣却シテ經費ニ充當スルモノトス

九 賃借人カ毛見ノ申出ヲ爲スモ故ナク賃貸人カ之ニ應セサルトキハ賃借人ノ申出テタル豫定收量ヲ承認シタルモノト看做スヘク賃借人カ前示所定ノ手續ヲ經スシテ恣ニ立毛ノ刈取ヲ爲シタルトキハ何等ノ理由アルヲ問ハス一切賃料ノ減免ヲ受ケ得サルモノトス

一〇 夏作ニ稻作以外ノ作物ヲ植付ケタル場合ハ一切賃料ハ減免セサルモノトス
一一 畑地ニ付テノ前記不可抗力ノ場合ノ減免ハ從來ノ慣行ニ從フヘキモノトス

一二 第一項記載ノ五ヶ年度滿了後賃料其ノ他賃貸借約款ニ付當事者間ニ異議ナキトキハ賃料其ノ他ハ同一條件ニテ之ヲ更新スルモノトシ若シ双方間ニ紛議ヲ生シ當事者間ニ協定調ハサルトキハ當事者ノ一方又ハ双方ヨリ大阪地方裁判所ニ小作調停法ニ依ル小作調停ノ申立ヲ爲シテ協定スヘキモノトス

但シ右協定調フ迄ハ從前ノ契約ニ準據スヘキモノトス

三二 兵庫縣加東郡小野町大字久下山 (未納小作料支拂)

爭議發生 昭和九年三月十日

調停申立 昭和九年五月十六日

解 決 昭和九年七月二十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十三人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 三町七反二畝十四步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ前地主中村某ノ開墾ニ係リ、本件小作人等ヲシテ耕作セシメ來タリタル處、本地主ハ該土地ニ質權ノ設定ヲ爲シ、前地主ニ約一千五百圓ノ貸付ヲ爲シ其ノ代償トシテ大正十四年度以降ノ小作料ノ支拂ヲ受クベキ契約ヲ爲シ居リタルガ、前地主ハ本件土地ヲ擔保トシテ東播銀行ヨリ約三萬圓ノ借入ヲナシ居リタル處、之ガ償却ヲ爲サザリシタメ昭和四年五月競賣ニ附セラレ本件地主ニ於テ競落セリ。然ルニ地主ハ大正十四年小作料ニ未納アリトシテ之ガ支拂方ヲ小作人ニ督促シタル處、小作人ハ年々小作料ハ協定シ解決濟ナリトシテ之ニ應ゼズ、當事者間ノ妥協困難ト見ユルヤ地主ヨリ小作料支拂方ノ調停申立ヲ爲シタルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

仍テ六月七日第一回委員會ヲ加東郡小野町役場ニ於テ開催スルニ、申立人(地主)ハ大正十四年度小作料ニ付テハ相手方之ガ支拂ヲ爲サザルタメ結局申立人ハ姫路裁判所ニ小作料請求訴訟ヲ提起シ係爭中ノ處、示談成立シ之ガ取下ヲ爲シタルモノニシテ、當時ノ示談内容ニ付テハ十四年度小作料ハ玄

米八石ト金四百圓ニ協定成立セルモノナリ。然ルニ相手方ハ玄米八石ノミ支拂ヒ金四百圓ノ支拂ヲ爲サズ、仍テ右金四百圓ノ支拂方ヲ主張シタルニ對シ、相手方（小作人）ハ右協定成立シ玄米八石ト金四百圓ハ支拂ヒ濟ノタメ大正十四年度小作料ハ之ヲ支拂フコト能ハズ、兩者ノ主張右ノ通りニシテ申立人ハ玄米八石ハ受取リタルガ現金四百圓ハ受納シタル覺ナシト述べ、小作人側ニ於テ其ノ當時ノ示談解決書ヲ探索シタルガ見當ラズ。

然ルニ申立人ハ昭和九年六月二十五日更ニ大正十五年度乃至昭和六年度滯納小作料支拂ニ付姫路支部ニ追加調停申立（姫路支部第八號）ヲナシタルニ依リ、七月十九日午前十時ヨリ小野町役場ニ於テ合併ノ上第二回調停委員會ヲ開催シタリ。

嘗日前地主中村某モ出席シ、大正十四年度小作料ニ關シ歸宅ノ上取調ヲナシタル處、當時ノ日誌（大正十五年一月三十日記錄）中ニ同地主ハ橋本某（小作人側代表）ヨリ金四百圓ヲ借用シ、加古川町「櫻旅館」ニ於テ關係者七名會合示談成立シ、同年度小作料ハ玄米八石ノ外ニ金員四百圓ニテ協定ナリ當日上記金額ハ申立人ニ手渡シタル事實明瞭ナルモノアリトナシ該日記ヲ持參シ來タリタルヲ以テ、委員會ハ申立人ニ對シ受納シタルヤ否ヤニ付確メタルモ更ニ受領シタル記憶ナシト稱シ之ヲ認メザルタメ委員會ハ同年度小作料取引ニ關シテハ夫レ以上兩者ニ追究セザルコトトシ、大正十四年度乃至昭和六年度小作料ニ付一括シテ調停ヲ進ムルコトトシタリ。

從而右滯納米ニ付双方ノ意見ヲ聽取シタル處、申立人側ハ大正十四年度乃至昭和六年度ノ未納小作料玄米五十四石六斗二升九合外ニ金四百圓ノ不納アリト稱シ、相手方ハ右期間中ニ於ケル小作料ハ申

立人側ト協定シ既ニ支拂濟ナリト主張シ、兩者ノ主張ニ懸隔甚シキヲ以テ、委員會ハ右年度ノ未納米ヲ十石トシ双方ニ折衝ヲナシタル結果、相手方側ハ玄米一石五斗拂ヲナスヲ以テ申立人ニ於テ大正十四年度ノ土木費及地租割トシテ約二百圓ノ支拂ヲ求ムト述べ、申立人側ハ同年度協議費ハ前地主ノ支拂フベキモノニシテ申立人ノ支拂フ可キ筋合ノモノニ非ズ、殊ニ本件土地ノ協議費ハ年約三百圓ヲ要シ極メテ高額ナルヲ以テ右年間ニ於ケル土木協議費ハ恐ラク一千餘圓ノ過拂ナルベク、從而協議費問題ハ之ヲ本問題ト切り離シ調停セラレタシト述べタリ。

斯クノ如ク滯納小作料問題外ニ兩者ヨリ土木協議費問題ヲ持チ出シ、一段複雑味ヲ加ヘ調停困難ニ立到リタルガ、委員會ハ問題ヲ後ニ殘スコトナク此ノ際全部根本的ニ解決スルノ方針ヲ樹テ兩者ニ諮リタル結果漸ク双方ノ承諾ヲ得タルヲ以テ、折衝ヲナシタルニ申立人側ハ三十石拂、相手方ハ五十圓若クハ二十石拂ヲ主張シ讓ラザリシガ、申立人側ニ於テハ一躍右三十石拂ヨリ金員トシテ百圓乃至百五十圓ニテ委員會ニ一任スト最大讓歩ヲナシタルタメ兩者ノ主張接近シタルガ、主任判事ハ中途所要ノタメ神戸地方裁判所ニ赴キタルニ付期日ヲ指定セズ延期ス。

第三回調停委員會ヲ昭和九年七月二十五日午前九時ヨリ姫路支部ニ於テ開キ引續キ調停ニ努メタル結果、申立人側ハ百二十五圓ニテ調停セラレ度シト強張シ、相手方ハ百圓ニテ委員會ニ一任シタルガ結局百十五圓ニテ漸ク兩者ノ承認ヲ得タルヲ以テ、茲ニ次ノ通り右金額ハ八月十日限り調停委員立會ノ上加東郡小野町役場ニ於テ手交スルコトトシ調停成立セリ。

(三) 結

末

調停條項

一 相手方ハ申立人ニ對シ大正十四年度分以降昭和六年度分迄ノ延滞小作料ヲ金錢ニ換算シタル金員百十五圓ノ支拂債務ヲ認メ右金員ヲ昭和九年八月十日限り相手方連帶ニテ申立人ニ支拂フコトヲ爲スコト

一 右完了ニヨリ本件當事者双方ハ小作關係ヨリ生シタル一切ノ債權債務關係ナキコトヲ承認シ双方何レヨリモ今後何等ノ主張ヲモ爲スコトヲ得サルモノトス

三三 兵庫縣神戸市須磨區下堀内町 (土地返還、作離料支給)

爭議發生 昭和八年十月

調停申立 昭和九年四月十三日

解 決 昭和九年五月二十八日

關係人員 地主 二人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

爭議 畑 二反七步

關係土地 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

地主ハ大正十一年ヨリ關係田地ヲ小作人ニ賃貸シタル處、同地方一帯ヲ將來宅地トナス目的ノ下ニ

區劃整理ヲ爲シタル結果、從來ノ田地ガ畑地トナリタルタメ、改メテ小作料ノ協定ヲ爲スニ當リ地主ハ反當二十五圓ヲ主張シ、小作人ハ反當二十圓ヲ唱ヘテ讓ラザリシカバ協定出來ザルママ、小作人ハ自己ノ主張通り反當二十圓ヲ支拂ヒ現在ニ至リタル處、地主ハ其ノ不足額ガ昭和八年迄ニ百五圓ニ達シタレバ之ガ請求及土地明渡請求訴訟ヲ神戸地方裁判所ニ提起シタルタメ、小作人ハ未納米完了、小作繼續若シ返地スルトセバ作離料坪當六圓ヲ求メテ調停ノ申立ヲナセルモノナリ。

(二) 調停ノ經過

仍テ第一回委員會ヲ五月八日神戸地方裁判所ニ開催セルニ、申立人(小作人)ハ大正十一年ヨリ前記關係田地ヲ賃借耕作シ居ルモノナルガ、關係地所在ノ須磨一帯ハ大正九年耕地整理實施後、地主小作人間ノ協定ニヨリ畑地ノ一ヶ年反當小作料ハ金二十圓トナスコトニ定マリ一般ニ之ヲ實施セリ。申立人モ右協定ニ基キ昭和八年迄小作料ハ完済ナシ居ルニ不拘相手方ハ須磨ニ居住シナガラ同地地主組合ニ加入シ居ラザルヲ理由ニ右ノ如ク一般的ニ決定シタル小作料ヲ否認シ、任意ニ一ヶ年ノ小作料ヲ反當二十五圓ト定メ現在迄ノ右不足額ガ金百五圓六十七錢アリト稱シ、之ガ請求竝ニ土地明渡訴訟ヲ神戸地方裁判所ニ提起シ同裁判所昭和八年(ワ)第七二三號事件トシテ目下審理中ナリ。

而シテ申立人ハ關係田地ニ菊ヲ栽培シ、而モ最モ技術的ノ實生ニ依ル新品種ヲ育生シ、全国各地ニ販賣シ其ノ老舗ハ相當社會的ニ認メラルルニ至リタル今日、突如トシテ叙上ノ如キ理由ニ依リ土地明渡ヲ求メラルルモ到底之ニ應ズルコト能ハザルニ依リ、今後五ヶ年間耕作シタル上當地方ノ慣習ニ從ヒ作離料トシテ坪當金六圓給與セラレタシト述ベタリ。

之ニ對シ相手方地主ノ謂フ所ニ依レバ、須磨地方一帯ハ耕地整理實施ノ結果、從來ノ水田ハ殆ンド全部畑地トナリタルニ因リ、從來水田トシテ契約セル小作料ハ之ヲ畑地小作料ニ變更スル必要ニ迫ラレタレバ、夫々地主小作人協議ノ結果從來米納タリシモノヲ金納ニ改ムルコトナリ、本件土地ニ對シテモ一ヶ年ノ賃料金二十五圓ニ改メントシタルニ、申立人ハ一般ガ金二十圓ニ決定シタリト稱シ交渉ニ應ゼズ、未決定ノママ現在ニ及ビタリ。又本件關係畑内字堀之内七十坪ハ谷内某ニ賃貸シ居リシ處、昭和六年頃ヨリ無斷ニテ之ヲ耕作セリ。以上ノ次第ナルニ因リ未納小作料百五圓餘ヲ支拂フト共ニ即時土地明渡ヲ望ムト主張セリ。双方共自己ノ主張ヲ固持シテ讓歩セザルニ依リ考慮ヲ求ムル爲延期スルコトトシ、次回期日ヲ五月十七日午前十時ト指定セリ。第二回委員會ニ於テモ双方共當初ハ前回主張ヲ繰返シテ讓歩セザリシモ、遂ニ地主ハ直チニ返還スルナラバ作離料トシテ坪當二、三圓位ヲ支給スト述べ、小作人ハ依然トシテ讓歩セズ、土地明渡ヲナスコトハ困難ニ付今後五年間耕作シ適當ナル替地ノ提供ヲ望ムト主張シテ止マズ、故ニ更ニ考慮ヲ求ムル爲五月二十八日ニ延期スルコトトセリ。

第三回委員會ニ於テハ先ヅ申立人タル小作人ニ對シ前回ニ於テ主張セルガ如キ替地ノ提供ヲ求ムルハ爭議地ノ現狀ヨリ見テ其ノ實現到底不可能ナルコトナレバ替地ノ要求ヲ撤回シ之ニ代ルニ作離料ノ支給ヲ求メテハ如何ト訊シタルニ、小作人ハ三ヶ年後ニ明渡スコトトシ明渡ノ上ハ坪當金六圓ノ作離料ヲ支給セラレタシト主張セリ。而シテ之ガ主張ノ根據トシテハ現ニ相手方ガ最近他ノ小作人ニ支給シタル事例ヲ援用シ之ヲ固持シテ讓ラズ。一方相手方地主ハ即時返還シ且滯納小作料百餘圓ヲ支拂フナラバ坪當金四圓ノ作離料ヲ支給ス可シト稍々讓歩シタルモ、尙主張ノ懸隔甚シキ爲委員會ハ協議ノ

結果、明渡時期ヲ本年末トシテ作離料ハ坪當四圓五十錢乃至五圓、滯納小作料ハ全免スルコトノ案ヲ決定シ此ノ方針ニ向ツテ調停ヲ進メタル處、双方共容易ニ同意セザリシカバ申立人ニ對シテハ代理辯護士ヲ通ジ又親類藤本某ヲ介シテ讓歩ニ努メタル結果、申立人ハ作離料坪當五圓、明渡時期ハ本年十二月末日、滯納小作料全免ニ同意シタルニヨリ遂ニ相手方モ之ヲ認メ左記條項ノ通り調停成立セリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 申立人ハ相手方今井某ニ對シ神戸市須磨區下堀内町九番地ノ内土地三百二十四坪同番地ノ内土地六十坪同番地ノ内土地十坪ヲ昭和九年十二月末日限り右地上ニ存在スル作物建物其ノ他ノ作物ヲ收去シテ明渡スコト

申立人カ右期日迄ニ右收去ヲ爲ササルトキハ右作物建物其ノ他ノ作物ハ相手方ニ於テ自由ニ處分シ得ルモノトス

二 申立人ハ相手方今井某ニ對シ神戸市須磨區上細澤町十五番地ノ内土地百九十七坪同町十六番地土地十六坪ヲ昭和九年十二月末日限り右地上ニ存在スル作物建物其ノ他ノ作物ヲ收去シテ明渡スコト

申立人カ右期日迄ニ右收去ヲ爲ササルトキハ右作物建物其ノ他ノ作物ハ相手方ニ於テ自由ニ處分シ得ルモノトス

三 相手方等ハ申立人ニ對シ前二項ノ明渡期日迄ノ賃料及從來ノ延滞賃料ハ之ヲ請求セサルコト
 四 申立人カ第一、二項ノ期日迄ニ該土地ヲ明渡シタルトキハ相手方今井某ハ第一項ノ土地ニ付又
 相手方今井某ハ第二項ノ土地ニ付夫々一坪ニ付金五圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金員ヲ相手方等代
 理人タル瀬戸本某辯護士ノ手ヲ通シ申立人ニ交付スルコト

三四 奈良縣生駒郡片桐村大字西田中 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和九年一月二十日
 調停申立 昭和九年八月二十九日
 解 決 昭和九年十月五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 五十七人
 調停 地主 一人 小作人 二人(地主申立)

關係土地 爭議 畑 六町五反五畝二十步
 調停 畑 三反八畝三步

(一) 爭議ノ概況

小作人側ハ昭和八年度畑作(甘藷)ハ前年同様不作ニシテ且農産物價下落ニ因リ收支償ハザルヲ理
 由トシテ、同年度小作料ニ付前二ケ年ノ平均減免率ニ依ル減額方地主ニ要求シタルニ地主之ニ應ゼザ
 リシニ因ルモノニシテ、小作人等ハ何レモ全農縣聯西田中支部員ニシテ同支部ハ全農縣聯中屈指ノ有
 力支部トシテ設立以來最モ強硬ナル態度ヲ持シ來タレリ、小作人側ノ態度既ニ斯クノ如クナルヲ以テ

地主ニ於テモ之ヲ訴訟ニ依リテ解決セントスルコトノ徒ラニ事態ヲ紛糾セシメ效果ナキヲ知り、大正
 十五年以來年々小作調停ノ申立ヲ爲シ之ニ依リテ可及的效果的ニ解決ヲ圖リ來レルモノナリ。

サレバ昭和六年度小作料問題解決ノ際ニハ調停委員會於テモ進ンデ根本的解決ヲ圖ルベク自作農創
 設資金ニ依リ本件土地ヲ自作農地タラシメント斡旋ヲ試ムル所アリシモ村當局ノ容ルル所トナラズシ
 テ不成功ニ終リタリ。

斯クテ小作人ハ昭和八年度小作料ニ付テモ亦不作ヲ理由トシテ納米セズ、地主ノ之ヲ請求スルヤ當
 初ハ要求額ヲ明示セズ相當減ヲ求メテ巧ニ折衝ヲ回避シ居リシガ、其ノ後前記ノ要求額ヲ申出ヅルニ
 及ンデ地主ハ之ヲ不當ナリトシ斯クノ如キ過大ナル要求ニテハ到底下方ノ示談成リ難シトテ八月二十
 九日小作人側ノ主タル者二名ヲ相手方トシテ奈良地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

九月八日裁判所ニ當事者双方ヲ招致シ居中斡旋ヲ開始ス、地主ハ小作人側ハ過去數年間ノ高率ナル
 減免額ニ狎レ豊凶ノ如何ニ拘ラズ不當過大ノ要求ヲ爲スモノナレバ昭和八年度ニ付テハ全額ノ完納方
 求ムト主張シタルニ對シ、小作人側ハ同八年度ノ甘藷ノ收益ハ七年度ヨリ少カリシヲ以テ之ニ準ジテ
 減免セラレタシ即チ昭和六年度ト七年度ノ平均減免率ニ據ラレタシト要求シタリ、小作官ハ前年ノ調停
 ト同様豫テ調査セル生産費及土地負擔ノ實情ヨリ「公正小作料」ヲ算出シテ、本件八年度小作料ノ減
 免率ヲ決定スベキナリトノ趣旨ノ下ニ、之ヲ當事者ニ懇説スルト共ニ具體案ニ付キ尙調停委員會ニ諮
 ルコトトシタリ。

九月二十六日調停委員會ヲ開始シ、委員會ハ小作官案ニ基キ八年度小作料ヲ左ノ如ク裁定シ當事者双方ニ應諾方勸説セリ。

一 昭和八年度小作料ハ三割納トシ一石金二十圓ノ割ニテ換算シタル代金ヲ以テ支拂フコト折衝ノ結果地主ハ其ノ當初ニ於ケル主張ト著シキ懸隔アルモ、委員會ノ公正ナル妥協案ナルヲ諒トシテ即日之ヲ承諾シタルモ、小作人側ハ多數關係小作人ノ諒解ヲ得ル迄回答猶豫方求メタリ。

十月五日第二回委員會ニ於テ小作人側ハ全關係小作人ノ諒解スル所トナリタレバトテ、委員會案ニ應ジ左記條項ニ依リ調停成立シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人(地主)ハ相手方(小作人)等ニ對シ賃貸中ノ別紙目錄記載ノ土地(別紙省略)ニ對スル昭和八年度ノ小作料ヲ同目錄記載ノ定額小作料ノ三割ニ減額スルコト
- 二 相手方等ハ申立人ニ對シ右減額ヲ受ケタル小作料ヲ一石金二十圓ノ割合ニテ換算シタル金員ヲ以テ昭和九年十一月五日限り申立人代理人生駒郡片桐村大字西田中松本某ニ持參支拂フコト

三五 和歌山縣那賀郡小倉村大字田中

(耕作繼續小作料減額)

爭議發生 昭和九年一月五日

調停申立 昭和九年二月九日

解 決 昭和九年四月十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十人

調 停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 六町十一步 宅地 二百四十四坪
調 停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

申立人ハ昭和八年十月下旬風雨ノ襲來ニヨリ、一夜ニシテ稻ノ倒伏落粒等減收ヲ口實ニ小作料ノ三割減免ヲ要求ス、然ルニ相手方ハ八年度ハ各地大豊作ニモ不拘本件土地ハ多少風雨ノ害アリト雖モ減額スベキニ非ズト要求ヲ一蹴セリ。由來本件土地ハ申立人ノ父祖明治維新前即チ今ヨリ約七十年前縣下有田郡ヨリ移住シ耕作ニ從事セル特殊ノ小作關係ニ在ルニモ拘ラズ、地主ハ常ニ所有權ヲ盾ニ數度ノ小作料値上ヲナシ其ノ爲申立人ハ相當ノ辛酸ヲ嘗ツツアリ、然ルニモ不拘昭和六年度迄ハ一度ノ小作料減免要求ヲモナサザリシガ、相手方ノ冷酷ナル態度ニ激昂シ同年秋農民組合ニ加入シ爾來小作料ノ永久減額ヲ目標ニ年々爭議ヲ反覆シ來タレリ、申立人トシテハ稻刈取前檢見ヲ申出双方立會之ヲ行ヒ後日其ノ結果ニ基キ減免ヲ要求シタル處相手方ハ之ヲ拒絕シタルニ付、小作人ハ小作米總高ノ七割強ヲ共同販賣シ其ノ代金ヲ銀行ニ預金シ、更ニ小作料ノ永久一割五分減免ヲ追加要求シタルニ對シ、相手方ハ農民組合ニ對抗シ内容證明郵便ヲ以テ支拂命令ヲ發シ、次イデ小作米ノ支拂請求竝ニ土地返還訴訟ヲ提起セル爲、爭議ハ愈々紛糾シ事態惡化ノ傾向アルニ付、小作官ハ小作人ニ小作調停ノ申立

ヲ勸説シタルモ最初ハ應ゼザリシガ訴訟進行シ費用嵩ムニ伴ヒ漸ク小作人ヨリ調停申立ニ及ビタリ。

(二) 調停ノ經過

調停申立受理ト同時ニ小作官ハ實情調査ノ意見書ヲ裁判所ニ提出シ、本件土地ノ小作關係ノ由來爭議ノ實情等ニヨリ本調停ハ相當難件ナルコトヲ豫想シ、殊ニ小作人ハ部落民(水平社)ニシテ地主亦地方ニテモ定評アル剛情者ニ付、調停期日前委員ノ選任其ノ他調停準備ニ充分奔走シタル上四月九日第一回ノ調停委員會ヲ開キ當事者双方ノ意向ヲ確メタル處

地主(相手方)ハ既ニ本件土地ハ他ニ賃貸スル内約アルニ付絶對明渡シヲ望ム、亦昭和八年度ノ如キ未曾有ノ豊作年ニ小作米減額シタトアリテハ他ノ小作人竝ニ一般地主ニ對シテモ面目ナシ、故ニ全額支拂ヲ求ム之ニ應ゼザレバ本訴ヲ以テ争フ旨主張ス。

小作人(申立人)ハ慣行的ノ永小作權アリ、故ニ絶對耕作繼續ヲ望ムト同時ニ九年度小作料ハ小作人ノ要求通り地主ノ容認ヲ求ム、然ラザレバ如何ナル犠牲ヲ拂フモ止ムヲ得ズト悲痛ナル態度ヲ示ス。委員會ハ評議ノ結果耕作繼續ヲ中心トシテ調停ニ奔走極力双方ノ利害得失ヲ説示シ頑強ニ主張スル兩者ヲ徹宵努力シタル結果、其ノ熱意ニ動かサレ漸ク互讓ノ曙光ヲ見出シ翌朝五時ニ至リ左記條項通り調停成立ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 相手方ハ申立人等ニ對シ別紙第一目錄記載ノ土地ヲ昭和九年四月十日ヨリ同記載ノ小作料ヲ毎

年十二月二十日迄ニ相手方住所ニ持參支拂ノ約ヲ以テ期限ヲ定メス引續キ小作セシムルコト

二 申立人等ハ相手方ニ對シ別紙第一目錄記載ノ土地ニ對スル昭和八年度延滯小作料ヲ別紙第二目錄記載ノ日時其ノ記載金額ヲ各相手方住所ニ持參支拂フコト

(換算金ハ一石十九圓小作人ノ賣却代金)

三 申立人等ハ相手方ニ對スル別紙第二目錄記載ノ分割辨濟金ノ支拂ヲ一回ニテモ怠リタルトキハ殘額ニ付一時ニ請求ヲ受クルモ異議ナキコト

四 相手方ハ申立人ニ對シ昭和九年度ノ小作料ニ限り第一目錄記載ノ契約小作料ノ内一反ニ付一斗ノ割合ヲ以テ豊凶ノ如何ニ拘ラス之ヲ免除スルコト

五 申立人等ハ昭和九年度以降相手方ノ檢見ノ申出ヲ受ケタルトキハ一週間内ニ必ス之ニ應スルコト

右檢見ノ方法ニ依リ減免額ノ協定成ラサルトキハ双方立會坪刈ヲ爲シ之ヲ定ムルモノトス

六 相手方ハ申立人等ニ對スル土地返還竝ニ小作米請求訴訟ハ昭和十年四月十日之ヲ取下手續ヲ爲スコト

三六 鳥取縣西伯郡成實村古市 (小作料永久的減額)

爭議發生 昭和九年一月十日

調停申立 昭和九年一月三十日

解 決 昭和九年二月二十三日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十一人
 調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 二町九段八畝二十二步
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本村ハ西伯郡箕蚊屋地方ニ次グ爭議ノ激甚ナル地方ニシテ、年々爭議ヲ反覆シツツアリ。小作人ハ互ニ聯繫シテ全村ニ亘リ小作料永久減額ヲ企テ關係地主ト折衝中ニシテ、本件地主ニ對シテモ永久四割減ヲ要求セリ。

地主モ爭議ノ緩和策トシテ永久的減額ヲ考慮シタルモ、小作人ニ協調的精神ヲ缺クヲ以テ將來ノ小作關係ヲ危惧シ、之ガ斷行ヲ躊躇セリ。

昭和八年ハ稀有ノ豊作ナリシニ拘ラズ小作料ヲ支拂ハザルヲ以テ、土地管理會社ヨリ再三辯濟方請求セシモ支拂ハザルニ依リ、地主ヨリ小作調停ヲ申立テタリ。

(二) 調停ノ經過

昭和九年二月六日現地ニ於テ調停手續ヲ開始セルニ、地主ハ昭和八年ハ稀有ノ豊作ニ付小作料一時的減額五分以上ハ絶對讓歩ノ餘地ナキヲ主張シ、小作人ハ永久的減額四割ヲ固執シ調停困難ナリシガ縷々調停者ヨリ地主ニ對シ永久減額ヲ勸奨シタル結果、減額ノ程度ニ依リ考慮スベシト讓歩セシヲ以テ、小作料改定ニ關スル各種資料ヲ蒐集シテ公正妥當ナル調停案ヲ檢討シ、双方ニ承諾ヲ求メ左記條

項ノ通り調停成立セリ。

備考 (一) 永久減額率 一割 皆濟祝儀 五分

(二) 凶作ノ減免點ハ收穫高ガ小作料ノ十五割五分以下ノ場合トス

(三) 不作ノ減免率ハ小作料ノ二十割ヨリ實收高ヲ控除シタルモノヲ小作料ノ二十割ニテ除シタル率ニ據ルコト此ノ場合ハ一項ノ減額並ニ皆濟獎勵ハ之ヲ爲サザルモノトス

因ニ本件土地契約小作料反當一石一斗二升(五〇%)、平年作收量二石二斗四升、改定小作料反當九斗五升二合(四三%)ナリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 申立人等ハ相手方ニ對シ本件地所ニ對スル別紙目錄(省略)記載ノ賃貸料ハ昭和八年度、同九年度及同十年度マテ左記條項ニ依ルモノトス
- 一 賃貸料ハ別紙目錄記載ノ賃貸料(従前ノ賃貸料)ヨリ一割ヲ減額シタル額トス尙左記期限後二週間内ニ支拂ヲ完了スル場合ニ限り別紙目錄記載ノ賃貸料ノ五分ヲ皆濟獎勵トシテ減額スルモノトス
- 一 米質ハ生産檢査格外上玄米トス同檢査丙玄米ヲ以テ支拂フモノニ對シテハ四斗八一俵ニ付二升ヲ賞與米トシテ交付スルモノトス生産檢査格外上以外ノ格外玄米ヲ以テ支拂フモノハ補償米トシテ四斗八一俵ニ付一升ヲ附加シ支拂フモノトス
- 一 支拂期限ハ昭和八年度ニアリテハ昭和九年二月末日限り昭和九年度及同十年度ニアリテハ其ノ年ノ十二月二十八日限りトス

一 支拂方法ハ米子伯耆農業倉庫ニ入庫シ其ノ入庫票ヲ申立人宅ニ持參シ交付スルモノトス
但シ運賃、俵裝料、檢査料ハ一般ノ例ニヨル

一 第一項記載ノ賃貸料ハ不作ノ場合ト雖減額セサルモノトス但シ收穫カ別紙目錄記載ノ賃貸料ノ十五割五分ニ及ハサル年ニアリテハ同賃貸料ノ二十割ニ不足スル額ト該二十割トノ割合ニ依ル率ニ應シ従前ノ賃貸料ヲ減額シタル額ヲ支拂フモノトス

其ノ場合ニハ第一項記載ノ一割ノ減額竝ニ皆濟獎勵五分ノ減額ハ各之ヲ爲ササルモノトス

一 相手方カ前項但書ノ減收アリトシ小作料ノ減額ヲ請求セムトスル場合ニ於テハ相手方ハ刈取二週間前(不作ノ原因其ノ後ニ生シタル場合ハ刈取前遲滞ナク)申立人ニ對シ豫想不作率ヲ各小作人毎ニ内容證明郵便ヲ以テ檢見ノ申立ヲ爲シ申立人相手方共立會檢見ノ上協定スルモノトス協議調ハサルトキハ坪刈ノ方法ニ依リ決定ス相手方カ檢見ノ申立ヲ爲ササルトキハ前示不作アル年ト雖平年作ト看做ス

申立人カ右檢見ノ申入ヲ受ケナカラ檢見ヲ爲ササルトキハ申出ニ依ル率ノ不作アリタルモノト看做ス

一 相手方カ機械摺米ヲ以テ賃貸料ヲ納入スル場合ニ於テハ申立人ハ該摺賃ヲ交付スルモノトス

一 昭和十一年以後ト雖特別ノ事情ナキ限り同様ノ條件ニテ繼續賃貸借スルモノトス

一 本件調停ハ小作地カ溜池懸ノ土地ナルヲ斟酌シテ調停ヲナシタルモノナレハ他部落ニ影響セサルモノトス

三七 島根縣簸川郡出西村大字氷室

(小作料一時的竝ニ永久的減額)

爭議發生 昭和九年十一月

調停申立 昭和九年十二月四日

解決 昭和十年三月十六日

關係人員 地主 十七人 小作人 五十七人

爭議 右ニ同ジ(小作人申立)

關係面積 爭議 田 二十一町七反歩
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ三方山ヲ以テ圍マレ、北側ニ於テ開ケ、從テ日照時少ク、土地ハ腐殖質ナル爲草出來ハ比較的良好ナルモ結實惡シク、米質亦良好ナラズ。近時産米改良ノ聲喧シク小作料下等米ニ對シ罰米ヲ増徴スルニ至レル爲、小作人ノ負擔苛重トナリタルニ加ヘ、昭和九年稻作ハ天候不順ト秋ノ出水ニ因リ不作トナリタルニ因リ、各地主ニ對シ檢見小作料減額方ヲ交渉シタル處多クハ減收ヲ認メズトテ小作人ノ希望通ラズ、止ムナク刈取ヲ了シタルガ意外ノ減收ナリシヲ以テ再度懇願セルモ更ニ應ズル氣色ナキ爲、小作人一同協議ノ上小作調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ニ於テ實狀ヲ調査シタル結果ハ、本件土地ハ大部分大正五年ヨリ同八年ニ亘リ耕地整理行ハ

レ、其ノ爲反當五升乃至八升ノ小作料値上トナリ、現在ニテハ反當小作料平均一石六斗ニシテ收穫高ノ約七割ニモ達セムトスル状態ニシテ、兼々小作人トシテハ小作料改定ノ希望アルモ地主ノ勢力強大ニシテ動モスレバ土地ヲ返還セシメラルルコトヲ惧レ隱忍シテ附近ヨリ高率ナル小作料ヲ支拂ヒ來リタリ。而モ九年度小作料ノ減免率ニ於テモ附近ヨリ低キモノアリタルヲ以テ期日ニ於テ調停委員會ヲ開キ種々折衝シタルニ地主側ハ突然調停申立ヲ爲シタルハ不都合ニシテ而モ從來特別ナル意思表示ナキ小作料改定ヲ調停ニ於テ主張スルハ調停ニヨリ地主側ニ對抗セムトスルモノ故此ノ調停ニハ絶對ニ應ゼズト極メテ強硬ナル態度ヲ執レリ。之ニ對シテ小作人ノ要望スル所ハ

(イ) 今後ノ小作料ハ反當(新反別)最高一石二斗(現在最高一石八斗ナリ)トシ、以下五等級ニ分チ各等一斗落チトスルコト

(ロ) 右小作料改定ノ外ニ昭和九年度小作料ハ反當二斗ヲ減額スルコト

(ハ) 足子米ヲ撤廢スルコト

ナルモ地主ノ態度強硬ニシテ協議ヲ進ムルコト困難ナリキ。然レ共其ノ後ノ調停期日ニ於テ地主協議ノ結果

(イ) 小作料改定ノ問題ハ將來ニ讓ルコト

(ロ) 調停委員中小作人側ト目サルルモノアルヲ以テ次回ハ委員會ヲ開カズ裁判所調停トスルコト

(ハ) 其ノ上ニ於テ地主ハ昭和九年度小作料減額ニ付讓歩スベキモ、右ハ形式上小作人ニ於テ調停申立ヲ取下ゲ、各小作人ガ各地主宅又ハ土地支配人宅ニ出掛ケテ今迄ノ態度ニ付諒解ヲ得ルコト

ト云フ條件ニ迄讓歩シ漸ク調停成立ノ見通ヲ得タリ。仍テ小作人ト協議シタル所小作人モ今日ノ情勢上之以上地主ニ希望ヲ主張スルモ貫徹困難ナルベシトシ、昭和九年度ノ小作料減額ニ付テノミ協議ヲ進ムルコトトナレリ。

(三) 結 末

仍テ裁判所ハ調停委員會ヲ開カズシテ調停ヲ開始シタルガ、結局小作人側ハ

(イ) 昭和九年度小作料ハ既ニ立見ヲ爲シタルモノハ其ノ立見額ヲ控除セルモノノ一割、然ラザルモノハ契約額ノ一割ヲ減額

(ロ) 舊反別ヲ以テセル從來ノ契約ハ漸次新反別トスルコト

(ハ) 足子米ハ地主ニ於テ自發的ニ撤廢スルコト

(ニ) 不如意ノ小作人ハ個々ニ地主ト相談ノ上貸米ヲ受クルコト

ノ條件ヲ以テ承服スルノ餘儀ナキニ至リ、同時ニ調停ハ其ノ申立ヲ取下グル結果トナレリ。

要スルニ本件ハ從來地主ニ對シテ團體的ニ小作條件ノ改善ヲ要求シタルコトナキ小作人ガ調停申立ニヨリ團體的行動ニ出テタリト雖、内心地主ノ態度ニ畏怖スル傾向アリテ調停決裂ヲ望マザリシモノナリ。

三八 岡山縣都窪郡中洲村大字中島 (小作繼續)

爭議發生 昭和九年十一月三十日

調停申立 昭和九年十二月一日

解 決 昭和九年十二月九日

三七〇

關係人員 爭議 地主 一人(東高梁川廢川地組合) 小作人 三十人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 七町九畝歩
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ高梁川廢川地ノ一部ニシテ、新高梁川敷地ニ買收サレタル地主等ハ寄々協議ノ上東高梁川廢川地組合ヲ組織シ、廢川地ノ拂下ヲ受ケ、昭和八年度ヨリ藤田某外二十九名ニ對シ保證金二十圓(事實十圓納入)宛ヲ徵收シ一ヶ年ノ契約ニテ小作セシメ居リタル處、地主ハ耕地整理完了ト共ニ本件土地ノ大部分ヲ他ニ賣却シタリト稱シ、昭和九年十一月十五日日本件土地ノ返還ヲ要求シ、保證金ハ之ヲ小作料ト相殺又ハ返却シ來リタルモ、小作人等ノ努力ニヨリ漸ク收支償フ耕地トナリタルモノナルニ何等豫告無ク返還スルハ到底小作人等ノ默認シ難キ處ニシテ再三耕作繼續方地主ニ要請シタルニ拒絶サレタルタメ遂ニ爭議化スルニ至リタルヲ以テ、小作人等ハ全農縣聯幹部ノ指導下ニ對抗セントスルニ對シ、地主側ニ於テハ係争土地ノ植付作物ヲ掘返サントスルモノアリ、爭議情勢ハ一段ト險惡化シ、而モ双方ノ主張強硬ニシテ容易ニ妥協成ラザルヲ悟リタル小作人等ハ昭和九年十二月一日調停ノ申立ヲ爲シタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人側ヨリ調停ノ申立アルヤ爭議地ニ於テ數回ニ亘リ調停委員會ヲ開催シ極力調停ニ努メタルニ、本件土地ノ大部分ガ他ニ賣買契約完了後ナル爲耕作セシムルコトハ不可能ノコトトナリ、作離料ニ關シテ地主ニ交渉シタル處、多少ハ支給スルモ差支ナキ旨回答シ來タルヲ以テ小作人ニ計リタル處小作人モ漸ク之ニ應ジ、作離料額ニ付双方ニ種々折衝妥協方ニ努メルタル結果、昭和九年十二月九日左記調停條項ニヨリ調停成立シ圓滿解決シタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

第一 申立人ハ相手方ニ對シ別紙目錄(省略)記載土地ノ植付作物ヲ收去シ(麥ハ植付ノ儘引渡スモノトシ)昭和九年十二月十五日迄ニ引渡スモノトス、若シ申立人ニ於テ右期日迄ニ植付作物ヲ收去セサルトキハ相手方ニ於テ自由ニ處分スルトモ申立人ニ於テ異議無ク損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
但シ申立人西岡某ハ除蟲菊ヲ現ニ栽培シ居ル土地ニ限リ昭和十年五月末日迄右明渡期日ヲ猶豫ス其ノ小作料トシテ反當金十圓ヲ昭和九年十二月二十五日迄ニ相手方代表者脇本某方へ持參支拂フモノトス

第二 相手方ハ申立人ニ對シ土地改良費等トシテ別紙目錄記載ノ(符號イ)(ロ)ヲ除ク(土地ニ對シ反當金三十五圓、同目錄イ)ノ符號アルモノニ付キテハ反當金三十圓ヲ昭和九年十二月二十五日迄ニ相手方代表者脇本某方ニ於テ支拂ヲ爲スモノトス、同目錄符號(ロ)ニ對シテハ右土地改良

費ヲ支給セサルモノトス

第三 相手方カ本件土地ヲ引續キ小作セシムルトキ又ハ之ヲ他ニ賣却シタルトキ新地主カ申立人ニ小作ヲ繼續セシムル場合若クハ申立人ノ都合ニ依リ土地ヲ返還スル場合ハ前記土地改良費ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第四 申立人ハ本件土地ニ對シ爾後何等ノ主張ヲ爲ササルモノトス

三九 山口縣阿武郡六島村大字尾島 (滯納小作料請求)

爭議發生 昭和九年二月十日

調停申立 同 年七月十二日

解決 同 年七月二十一日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 一町七反六畝十二步 山林 四反二十六步
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件土地ハ現小作人井町某先代所有ノ處、明治二十八年十月負債償還ノ爲現地主大津郡通村山田某ニ賣却シ、爾來小作シ來レリ。然ルニ大正十二年小作人ノ實父ハ約六、七百圓ノ負債ヲ殘シテ病死シ、其ノ後一家内ニ病人絶エズ、幼兒ハ次々ニ六人病死シ、且小作人本人ハ昭和四年以來難病ニテ萩市某

病院ニ於テ治療中ノ爲、其ノ妻ハ幼兒ヲ抱キ男々シク農業ニ從來シ、一家ノ更生ニ努ムルモ、病夫ノ醫療費其ノ他ニ多額ノ經費ヲ要シ、負債嵩ミ困窮其ノ極ニ達シタルヲ以テ、止ムナク昭和四年以降ノ小作料ヲ不納セリ。茲ニ於テ地主ハ昭和四年ヨリ同八年ニ至ル五ケ年間ノ滯納小作料代金三百七十六圓ノ支拂請求訴訟ヲ萩區裁判所ニ提起シタルニ端ヲ發ス。

(二) 調停ノ經過

右ノ如ク地主ヨリノ訴訟提起ヲ聞知シタル病小作人ハ驚愕シ、病狀惡化セリ。仍テ親族會合之ガ善後策ニ付協議ノ上交互ニ地主ヲ訪問シ、茲暫クノ間穩健ノ處置ヲ講ゼラレンコトヲ懇願シタルモ、地主ハ頑トシテ之ニ應ゼズ。仍テ右ノ事情ヲ述べ縣小作官ニ之ガ調停方ヲ申出デ來リタルヲ以テ、小作官ハ急遽現地ニ出張シ實情調査ノ上、地主ニ對シ法廷戰ニ依ル抗爭ハ社會ノ同情ヲ失フ所以ヲ述べ、舊來ノ温情ニ立戻リ示談的ニ解決スベキヲ説得シタルニ地主モ之ヲ了解シタルガ、目下訴訟進行中ナルニ依リ解決條件ヲ確立セシメタキ希望アリ。仍テ小作人ヨリ小作調停法ニ依ル調停申立ヲ爲サシメタリ。七月二十一日萩市所在六島村役場ニ小作調停委員會ヲ開催シ、兩當事者ノ主張ヲ聽取シタル後、小作官ヨリ本事件ノ原因トシテハ双方ニ相當事情アルベキモ地主ハ大津郡通村ニ於テ廣大ナル耕地ヲ所有スル外酒造業竝ニ雜貨商ヲ營ミ資産數十萬圓ヲ有スルニ反シ、小作人ハ前記ノ如キ窮乏狀態ニアルヲ以テ此ノ際地主ノ同情ト村當局者ノ後援トニ依リ一家更生ノ途ヲ講ゼシムル様斡旋スルノ要アル旨ノ意見ヲ述べタリ。斯クテ委員會ハ地主ノ要求スル延滞小作料ノ換算金三百七十六圓ノ代金換算基礎ニ付テ適當ナリヤ否ヤヲ檢シ、進デ小作料ノ現物タル大豆、小麥、裸麥ノ地元五ケ年間ノ平均價格ヲ調査シタルニ一升十錢程度ナリシタメ、之ニ依リ換算スレバ二百五十圓トナルヲ以テ、地主ノ考慮ヲ

需メ結局二百五十圓ニ承諾セシメタル上、更ニ小作人一家ノ現狀トシテ之ヲ即時支拂ハシムルハ不可能ナルベキヲ以テ

(一)無利子ニテ本年ヨリ六ケ年間据置キ昭和十六年ヨリ一ケ年二十五圓宛以降十ケ年賦支拂ト爲ス

(二)小作料ハ此ノ場合能フ限り減額セシムルコトヲ適當ナリトシ、現行小作料ノ三分ノ一ヲ減額シ、一ケ年ノ小作料ヲ大豆一石、大麥一石四斗、小麥一石ニ改定シ、五ケ年ヲ經過シタル後小作人ノ一家ノ狀況ニ依リ小作料ヲ更ニ改定スルコト

ノ二條件ヲ骨子トシテ地主ニ種々勸説シタル處、種々反對的意見アリタルモ、結局委員會ノ意見ニ同意シ左記調停條項ノ通り圓滿解決ヲ遂ゲタリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

一 相手方ハ其ノ所有ニ係ル

阿武郡六島村大字尾島字西ノ川第二十五番地

一 畑三畝二十一歩 (外二十三筆省略)

ヲ一年ニ付大豆一石、大麥一石四斗、小麥一石ノ小作料ニテ本年ヨリ十年間申立人ニ小作セシムルコト但シ右小作料ハ五年經過後申立人ト協議ノ上相當増額スルコトヲ得

相手方ハ右期間滿了後ト雖申立人ニ於テ小作繼續ヲ希望スルトキハ小作料及期間等協議ノ上差支ナキ限り申立人ヲシテ小作セシムルコト

一 相手方ハ其ノ所有ニ係ル申立人ノ現住家(阿武郡六島村大字尾島字西ノ川第二番地上在)ヲ右土地賃貸中無料ニテ申立人ニ貸供スルコト

一 申立人ハ第一項ノ小作料中大麥及小麥ヲ毎年八月五日限り、大豆ヲ十月五日限り、相手方ノ宅ニ持參シテ支拂ヒ尙第一項ノ土地及前項家屋ニ對スル公課ヲ負擔スルコト

一 申立人ハ第一項ノ土地ニ係ル昭和四年以降同八年迄ノ滯納小作料金額ノ換算金二百五十圓(相手方ハ滯納小作料金額ノ換算金三百七十六圓ヲ二百五十圓ニ減額ス)ヲ昭和十六年ヨリ同二十五年迄毎年十二月二十五日限り金二十五圓宛相手方ノ宅ニ持參シテ支拂フコト

一 申立人ハ第一項ニ依ル小作期間滿了シタルトキ又ハ第三項所定ノ小作料及公課第四項所定ノ滯納小作料支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキハ相手方ノ請求ニ從ヒ直ニ第一項ノ土地竝ニ第二項ノ家屋ヲ相手方ニ明渡シ若シ之ヲ遲怠シタルトキハ強制執行ヲ受クルモ異議ナキコト

一 相手方ハ申立人ヲ被告トセル萩區裁判所昭和九年(ハ)第二十四號土地賃貸料請求事件ハ速ニ取下クルコト

一 右訴訟費用ハ各自辨ノコト

四〇 德島縣那賀郡羽ノ浦町大字岩脇 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和九年十月二十日

調停申立 昭和九年十二月二十一日

解 決 昭和十年三月四日

關係人員	爭議	地主	三十七人	小作人	百三十六人
	調停	地主	二十五人	小作人	百二人 (双方申立)
關係土地	爭議	田	六十三町七反步		
	調停	田	四十六町一反二畝十三步		

(一) 爭議ノ概況

那賀郡羽ノ浦町大字岩脇ハ本縣系統農民組合ノ發生地ニシテ、大正十四年日本農民組合阿南聯合會ノ創立セララルヤ、同年六月岩脇ヲ中心トスル地主百二十七人ニ對シ小作人三百五十五人田百四十町步ニ亘ル米小作料永久減、麥小作料撤廢要求ニ基ク本縣明治維新以後曾テ見ザル大爭議ヲ生ゼシ地ナ
 ルガ、右爭議解決後平穩化シ爲ニ組合勢力次第ニ萎靡シ、最近ニ於テハ却テ地主側ヨリ抗爭的態度ニ出ヅルコトアル爲、幹部ノ一部ハ反擊ノ機會ヲ窺ヒ居タルガ、九月二十一日ノ暴風雨ニ依リ稻作被害顯著ナリシヨリ、十月二十日地主ニ檢見ヲ申込ミ兩者夫々代表ニヨル檢見ヲ十月二十一日ヨリ同三十日ニ亘リ行ヒタルモ、地主側平均二割三分、小作側平均五割四分ノ減收見込額ヲ主張シ、減免率ニツキテハ地主側平均一割三分、小作側平均四割ヲ固執シ妥協ナラザリシタメ、小作側ハ十一月六日立毛全部ノ刈取リヲ了シ、爭議資金ノ調達、組合員ノ結束、小作官ヘノ陳情等ニ努メツツ交渉ヲ重ヌル事前後九回、十二月八日兩者代表ノ會合ニ於テ遂ニ交渉決裂ニ至リタルヲ以テ、全農系小作人ハ縣下農民運動ノ興亡ヲカケテ十二月二十一日其ノ小作地五百五筆、四十六町一反二畝十三步ノ田ニ對シ最高全免最低二割ノ減免方依法調停申立ヲナシタリ。

(二) 調停ノ經過

小作官ハ事前此ノ事アルヲ豫見シ被害調査、實收査定等ニ遺漏ナキヲ期シ、蒐集資料ヲ以テ地主、小作双方ノ説示ニ努メタルモ双方共ニ意氣軒昂ニシテ妥協容易ナラズ、其ノ間地主側ハ小作人中軟弱ト目セラルル者數人宛ヲ選ミテ依法調停ノ二重申立ヲナシ、或ハ小作人ト個人交渉ヲナシ團體ヲ切崩シ、意見書ノ配布等極力爭議團體ノ顛滅ニカメタリ。昭和十年一月十七日地方裁判所第一回調停委員會ヲ最初トシテ三月二日ヨリ同四日黎明ニ及ブ第五回委員會ニ至ル間地主、小作双方共執拗ナル鬭爭ヲ繼續セシガ調停委員會ノ寢食ヲ忘レタル調停ニヨリ遂ニ左記條件ニテ協定成リ縣下ノ注目ヲ惹キツツアリシ大爭議モ茲ニ解決ヲ見ルニ至レリ。

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 當事者間ニ於ケル申立地ノ昭和九年度稻作減免率ヲ別表ノ通り定ム (別表略、各筆平均減免率二割五分五厘五毛)
- 二 申立人ハ前項減免小作料ヲ昭和十年三月二十日限り相手方又ハ大字岩脇ニ於ケル管理人現住所ニ持參支拂フコト
- 三 第二項ノ小作料品質ハ德島地方裁判所大正十四年小調第自二〇至五七號事件調停條項第九條ニヨル (註 其ノ土地ノ生産品ヲ精製シタルモノ)
- 四 不可抗力ニヨル稻作減收ニ付檢見ヲ受ケントスル小作人ハ自ラ又ハ代理人ヲ以テ收穫十日前ニ

地主ニ申込ミ地主ハ速カニ自ラ又ハ代理人ヲ立會セシメ地主小作人折半ニ刈分クルコト
前段ノ場合地主收得ノ藁ハ刈取晴天十日以内ニ小作人ニ交付シ該地ニ施用スルモノトス
檢見刈取地ノ反當玄米收量カ五斗以下ノ場合ハ小作人ノ全收得トス

四一 香川縣三豊郡二宮村大字佐股 (小作料値上)

爭議發生 昭和九年六月五日

調停申立 昭和九年六月八日

解 決 昭和九年七月二十六日

關係人員 地主 一人 小作人 一人

調停 右ニ同ジ (小作人申立)

關係土地 爭議 田 一反一畝一步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本村同部落ハ大正十四年農民組合運動最盛期ナリシ當時小作人ヨリ地主ニ對シ從來水田小作料反當
七斗乃至一石六斗ヲ他村ニ比シ高率ナリトシテ、平均二割ノ小作料減額方ノ要求アリ、當時相當紛糾
ヲ重ネタルモ地方有志及縣小作官ノ斡旋ニ依リ大正十五年九月、大正十四年度ヨリ昭和三年度迄五ヶ
年間ハ一等ヨリ七等迄ニ區別シ一、二等地ヲ一石二斗トシ以下一等ヲ下ル毎ニ五升ヲ減ジ協定成立シ
タリ。此ノ解決ニ依リ本件土地ハ反當一石二斗ナリシヲ九斗九升ニ減額實行シ協定期間滿了シタル後

尙同様ノ小作料ニテ繼續シ來タリタリ。然ルニ地主ハ協定期間滿了シタルハ勿論、農村不況ニ依リ從來
ノ如ク低率ニ失スル小作料ヲ以テシテハ到底繼續小作セシメ難キヲ以テ、昭和八年度終了(九年六月)
ヲ好機トシテ反當一石二斗ニ小作料ノ値上ヲ爲スカ或ハ土地返還方ヲ小作人ニ申渡シタリ。之ニ對シ
小作人ハ小作料値上ハ他ニ影響スルハ勿論、地方青年團ノ幹部タル自己ガ他ニ率先シテ之ニ應ジ難キ
地位ニアルヲ以テ、地主ノ要求ノ通り土地返還ニ應ズベキニ付、甘土料トシテ反當二百圓交付方ヲ要
求シタリ。此ノ間地方有志ニ於テ和解斡旋シタルモ纏ラズ、地主ハ觀音寺區裁判所ニ土地返還請求訴
訟ヲ提起シ抗爭ヲ續ケタリ。

(二) 調停ノ經過

小作人ハ訴訟ニ依ル解決ノ結局不利ナルヲ覺リ小作調停(昭和九年小調第八七號)ノ申立ヲ爲シタ
リ、小作官ハ先ヅ地主ニ對シ訴訟ニ依レバ日時ト金錢ヲ浪費スルヲ以テ小作調停ニ依リ解決スベク勸
誘シ、小作人ニ對シテハ小作料値上ニ依リ他ニ影響スル状態ハ察知シ得ラルルモ、値上ノ數量及時期ガ
問題タルヲ以テ熟考ヲ促シタリ。尙多少ニシテモ小作料値上ニ依リ解決セントセバ調停者タル者ノ實
地調査ヲ爲ス必要アリ、仍テ裁判所ト共ニ同村ニ出張シ實地踏査ノ上隣地ト比較檢討ヲ行ヒタルニ、地
主ノ主張通り稍低率ナル點ヲ認メ得タルヲ以テ、双方ニ對シ和解斡旋シタル結果、昭和九年同十年度
ハ現在ノ小作料(反當九斗九升)トシ昭和十一年度以降反當一石一斗トスルコトニ妥協成立シ左記調
停條項ニ依リ調停成立シタリ。

(三) 結 末